## 「東京医師アカデミー」で、
## 総合診療能力と専門能力を兼ね備えた
## 真の専門医を目指して

平成20年度、東京都が運営する８つの都立病院と(公財)東京都保健医療公社が運営する６つの病院が一体となった一大メディカルグループを基盤とした、専門医取得のための後期臨床研修システムが開講しました。

それが「東京医師アカデミー」です。

各病院の特色を活かした専門研修プログラムを用意し、
これまで900名以上の修了生を輩出してきました。

令和4年7月、都立病院と公社病院は一体化し、
地方独立行政法人東京都立病院機構に移行しました。
東京医師アカデミーは、地方独立行政法人のメリットを活かして、
より魅力的な研修環境を整備し、基幹・連携施設を問わず、
どの施設においても、専門医の取得に向けた十分な研修を行うことができます。

東京医師アカデミーでは、都民や地域から求められるだけではなく、
将来、ともに日本の医療界をリードする仲間を募集します。

◆東京医師アカデミーとは
東京医師アカデミーの紹介 p.01

◆研修の特徴
内科 p.14
外科 p.22
産婦人科 p.27
小児科 p.29
精神科 p.33
整形外科 p.37
麻酔科 p.40
耳鼻咽喉科 p.45
泌尿器科 p.47
病理科 p.49
放射線科 p.51
救急科 p.54
総合診療科 p.56

◆各病院の概要
広尾病院 p.62
大久保病院 p.64
大塚病院 p.66
駒込病院 p.68
豊島病院 p.70
荏原病院 p.72
墨東病院 p.74
多摩総合医療センター p.76
多摩北部医療センター p.78
東部地域病院 p.80
多摩南部地域病院 p.82
神経病院 p.84
小児総合医療センター p.86
松沢病院 p.88

クリニカルフェロー紹介
病院一覧（病院マップ）

# 「東京医師アカデミー」運営委員長から

**東京都立病院機構医師アカデミー顧問**
**廣部　誠一**

東京都立病院機構　理事
都立小児総合医療センター名誉院長

**東京の医療が君を待っている**
**目指せ！　ジェネラリストからスペシャリストまで**

東京医師アカデミーは、「**総合診療能力を備え、質の高い専門医を育成する**」ことをコンセプトとして、都立病院 14 病院が一体となって提供する臨床研修システムです。「地方独立行政法人東京都立病院機構」という一つのメディカルグループとして運営することで全都立病院が強い連携を築きました。そのスケールメリットで豊富な症例を経験できるだけでなく、多くの指導医や仲間に出会うことで、自分の未来のキャリアパスに出会えます。2008 年に開講して以来、毎年全国から 100 名程度が入講し、常時 300 余名の若手医師が専門研修に励んでいます。

**【東京医師アカデミーの強み】**

**●豊富な症例数で、幅広く、深く研修できる**

大都市東京で、都立病院 14 病院の患者受け入れ体制のもと、豊富な症例を経験できます。

**●多様な領域の専門医療を研修できる**

各病院の専門診療の特色を活かした研修が可能で、13 領域 46 のプログラムがあり、小児、精神、神経難病の専門病院での研修も可能です。都立病院以外の医療機関へローテイトする多様な研修もあります。

**●充実した総合診療を研修できる**

ER 診療等の豊富な症例で総合診療能力が習得できます。感染症医療、災害医療、島しょ医療の幅広い研修もできます。都立 6 病院の総合診療科が中心になり、魅力的な総合診療プログラムも提供しています。

**●高度な専門医療へチャレンジできる**

シニアレジデントからサブスペシャルティレジデント、さらにクリニカル・フェローと、段階的に高度専門医療へチャレンジする制度があります。臨床的力量と共に、質の高い臨床研究をサポートし、クリニカル・フェローでは海外派遣、学位取得も支援します。

**●Ｔ型人材を育成できる**

Ｔ型人材とは、「Ｔ」の文字の縦棒は専門性、横棒は総合力、横連携力を表し、この両方を備えた人材で、チーム医療に必要な人材です。多様な研修現場、多くの指導医、仲間との交流、多職種連携での経験等でＴ型人材の人間力を育成していきます。

全国の若手医師の皆様、「東京医師アカデミー」で、真の専門医としての腕を磨かれることを心から期待しております。

# 東京医師アカデミーの紹介

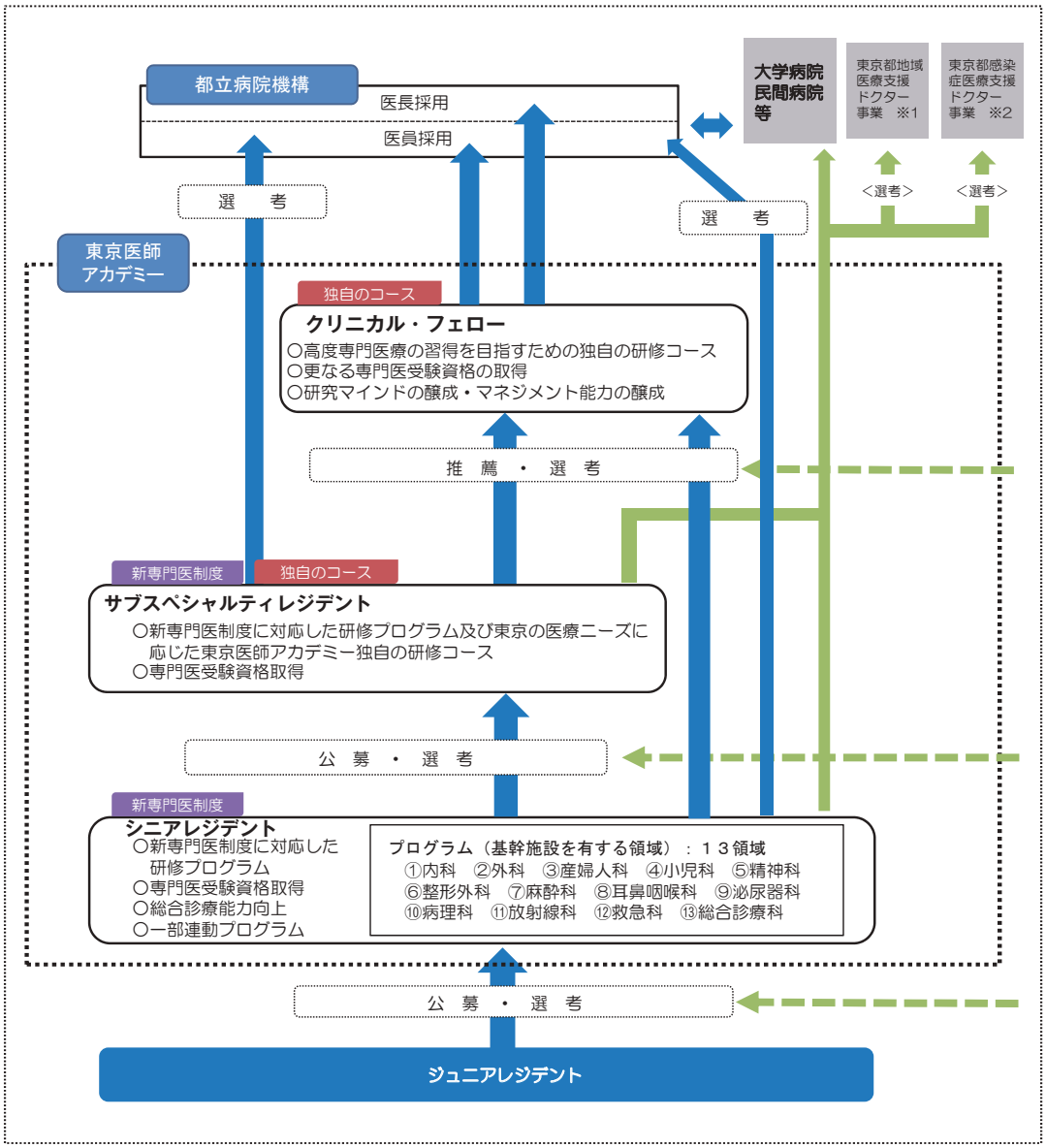
## 基本理念

- 14 病院のスケールメリットと豊富な症例を活かした総合診療能力を有する専門医を育成する
- 先端医療の修得を視野に入れた医師育成システムを提供する
- 医師キャリアパスの構築を可能とする充実した指導体制を提供する

## 到達目標

- 高度・専門領域の豊富な症例と優秀な指導スタッフにより各分野の専門医資格を取得する
- ER 診療等において多様な症例を経験することで総合診療能力を身につける
- 国内外派遣による先端医療技術の修得や臨床研究などにより専門性をさらに高めることができる
- 臨床研修指導医層になることで教育指導力等を身につける

# 東京医師アカデミーの体系




※1　東京都地域医療支援ドクターとは、東京都（保健医療局）が地域医療の支援に意欲を持つ医師を採用し、医師不足が深刻な市町村公立病院等に一定期間派遣する事業

※2　東京都感染症医療支援ドクターとは、東京都（保健医療局）が感染症医療に意欲を持つ医師を採用し、感染症の臨床または公衆衛生に携わる医師を養成する事業

# 東京医師アカデミー　共通目標

各病院が運営するプログラムでは、すべてのプログラムに共通する、東京医師アカデミーとしての目標を設定しています。

| 1 【医療倫理・職業倫理の涵養】医の職業倫理を理解し、医師として相応しい品性を陶冶する。 | |
|---|---|
| 1 | 修練した医術を誠心誠意実施し、いかなる患者も差別せず、患者の秘密を厳守して医療を実践するという「ヒポクラテスの誓い」の精神に配慮した態度で医療を実践することができる。 |
| 2 | 生命に関わる職業人としてふさわしい身だしなみ、言動、態度で患者に接することができる。 |
| 3 | 全人的医療を実践するために、患者や家族のニーズを身体的・精神的・社会的側面から把握することができる。 |
| 4 | 生命の尊さを認識し、不妊治療・周産期医療や終末期医療・脳死・尊厳死などに関わる倫理的問題に配慮して行動することができる。 |

| 2 【コミュニケーション能力の醸成】安全で質の高い医療を提供するため、患者・家族・医療者ときめ細やかなコミュニケーションをとり情報の共有化を図る。 | |
|---|---|
| 1 | 患者の訴えや話しに対して、患者の目線で真摯な対応・言動ができる。 |
| 2 | 患者に対して疾病に関する可能な限りの情報を提供することができる。 |
| 3 | 医師と患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントができる。 |
| 4 | 「患者権利章典」を患者や家族に説明することができる。 |
| 5 | 患者を含め、上司、同僚、後輩、他職種などと適切にコミュニケーションを図ることができる。 |
| 6 | 治療に際して患者の意思を尊重した（自己決定権に配慮した）医療を行うことができる。 |
| 7 | 患者・家族との良好な信頼関係を築き、死亡された時には必要に応じて病理解剖の承諾を得ることができる。 |

| 3 【チーム医療の実践】患者中心の医療を実践するため、医師として医療の中核を担う役割や責任を自覚し、多職種のチームとの適切な連携を図る。 | |
|---|---|
| 1 | 独断的な診療は行わず、指導医に対して適切なタイミングで報告、連絡、相談をすることができる。 |
| 2 | 治療法等の選択肢が多くある場合には、当該の関係診療科によるボード等を活用するとともに、常に患者・家族の意思を尊重して治療法を決定することができる。 |
| 3 | チームカンファレンスへの出席の重要性を認識し、医師が指導的役割を果たしつつ、各コメディカルや事務職などの専門職と協調することができる。 |
| 4 | ICT、NST、褥瘡対策チームなど院内各チームの意義を理解し、これらチームと適切に連携することができる。 |
| 5 | チーム医療におけるリーダーとして、看護師など他職種への医療上の指示を適切に行うことができる。 |
| 6 | 院内外を問わず患者情報を共有する重要性を理解し、日頃から他科依頼や診療情報提供書作成を適時的確に行うことができる。 |

| 4 【後輩指導とリーダーシップの発揮】後輩指導などを通して、医師としてのリーダーシップを発揮する。 | |
|---|---|
| 1 | 後輩レジデントについて、コースの到達目標・行動目標を念頭に置いた教育予定を立案することができる。 |
| 2 | 後輩レジデントに対して、教育計画に基づく計画的な教育・指導をすることができる。 |
| 3 | 後輩レジデントに対して、医の職業倫理の範を示し、指導することができる。 |
| 4 | 後輩レジデントの状況（精神状況も含め）を把握し親身に相談に乗るとともに、必要に応じて上司と連携して対処することができる（メンタルヘルスのサポートができる）。 |
| 5 | 他職種の役割や業務の流れを理解し、医師としてのリーダーシップを発揮しながら他職種の専門性を引き出すことができる。 |
| 6 | 上級医師に対しても率直な意見を述べることができる。 |
| 7 | 院内カンファレンスや CPC に積極的に参加し、司会などを通じてリーダーシップを発揮することができる。 |
| 8 | 必要とされる teaching skill を身につけるために、院内外の指導医養成講習会等に積極的に参加し、その運営に協力することができる。 |

| 5 【医療安全の確保】リスクマネジメント活動、医療事故防止、院内感染対策の必要性を理解し安全管理の方策を身につけ、危機管理に積極的に参画する。 | |
|---|---|
| 1 | 患者および医療者の双方にとって安全な医療を遂行することができる。 |
| 2 | 医療安全に関するルールを遵守し、薬剤の疑義照会など軽微なものであってもインシデント・アクシデントレポートを率先して提出することができる。 |
| 3 | 医療事故に関する法的な側面や異状死等の発生時における報告体制を理解し、適切に対処することができる。 |
| 4 | 院内で発生し得る事故について、組織的な予防策を提言することができる。 |
| 5 | ICT の必要性を十分理解し、院内感染の評価、予防、対策を適切に行うことができる。 |
| 6 | 感染防御について、患者や医療スタッフの安全確保に必要な知識をもち、実践することができる。 |

| 6 【適切な診療・治療の実施】Evidence based Medicine（EBM）や標準的治療に心がけ、質の高い医療を実践する。 | |
|---|---|
| 1 | 検査・処置・手術の意義、適応などを理解し、個々の症例の病態に合わせた適切な検査・治療計画を立て、遂行することができる。 |
| 2 | 診療ガイドラインの内容を理解し、当該ガイドラインに沿った標準的治療を行うことができる。 |
| 3 | 収集した EBM の患者への適応を的確に判断することができる。 |
| 4 | クリニカルパスを理解・活用し、安全確実な診療を行うことができる。 |
| 5 | クリニカルパスのバリアンスについて、要因分析しパスを修正することができる。 |
| 6 | 患者が求めるときは、積極的にセカンドオピニオンを勧めることができる。 |
| 7 | 臨床データの整理・解析を行い、治療計画に活用することができる。 |
| 8 | 立案した治療計画を評価し、必要に応じて計画修正の提案を行うことができる。 |

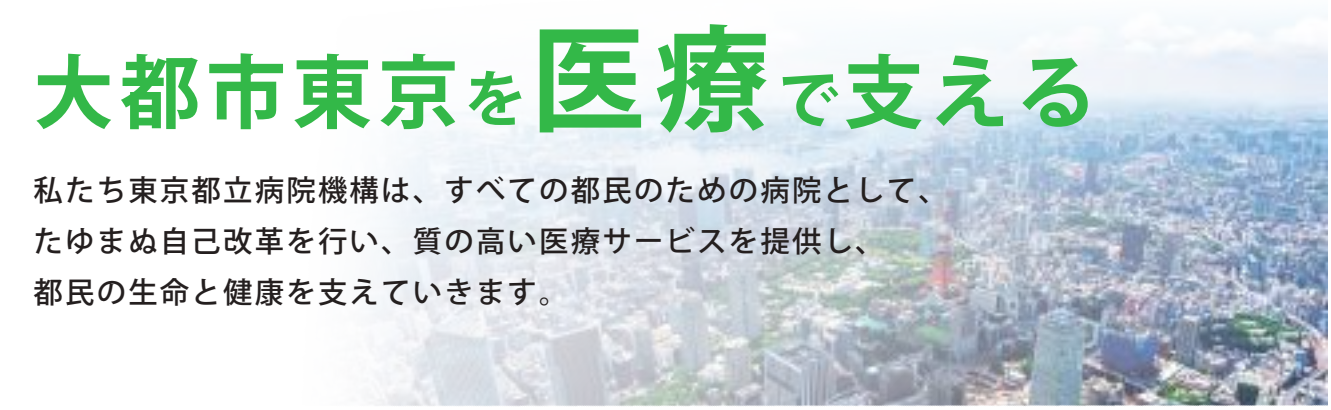
| 7 【臨床能力の向上】専門家（Professional）としての自覚を持ち、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、先端医療などの研鑽を積極的に行う。 | |
|---|---|
| 1 | 専門医療技術の習得のため、自ら積極的に多数の患者の診療経験を積むことができる。 |
| 2 | 専門医受験資格取得のための修練だけでなく、資格取得に直接関係のない診療に際しても区別なく意欲的に取り組むことができる。 |
| 3 | 学会等に参加して先端医療を積極的に学び、知識・技術等の向上に努めることができる。 |
| 4 | 「二次救命処置ができ一次救命処置を指導できる」という到達目標に向けて研修中のジュニアレジデントの off the job training に、定期的に上級医として参加することができる。 |
| 5 | 大規模災害時の救急医療体制を理解し応急処置の技術を身に付け、自己の役割を把握するために院内等で開催される災害訓練に積極的に関与することができる。 |

| 8 【臨床研究・学会活動への参加】臨床研究・学会活動に積極的に参加し、医学の発展に貢献する。 | |
|---|---|
| 1 | 「ヘルシンキ宣言」を遵守し、厚生労働省の「臨床研究の倫理指針」に沿った臨床研究を推進することができる。 |
| 2 | 臨床研究勉強会（研究デザイン・文献の検索方法・統計解析の基礎など）に参加することができる。 |
| 3 | 臨床研究の意義や方法論を理解し、臨床研究の実施計画の立案を適切に行うことができる。 |
| 4 | 積極的に臨床研究やトランスレーショナル・リサーチに参加し、医学の進歩に寄与することができる。 |
| 5 | 臨床研究の成果について、学会発表だけではなく、論文発表（できれば英文論文）を行うことができる。 |
| 6 | 自身の診療能力の向上や医学発展に貢献するためのモチベーションをさらに高めるために、積極的に最新の学会報告や医学論文に接することができる。 |

| 9 【医療制度・医療経営の理解等】医療制度や医療経営、医療連携推進の重要性などについて理解を深める。 | |
|---|---|
| 1 | 医師法、医療法、保険医療機関及び保険医療養担当規則などを理解し、法律に則った医療を実践することができる。 |
| 2 | 公的病院の使命・役割を理解し、日頃から行政的医療に積極的に協力することができる。 |
| 3 | 「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン」等の内容を十分理解し、患者の個人情報を適切に取り扱うことができる。 |
| 4 | 日常の病歴作成を迅速かつ適切に行うとともに、退院時要約を早期に完成することができる。 |
| 5 | 受持ち患者について、在院日数や病床利用率を念頭に置いた病床管理に努めることができる。 |
| 6 | 薬剤、診療材料費などについて、費用対効果を考えた治療を行うことができる。 |
| 7 | 医療保険制度を理解し、診療報酬請求や再審査請求を適切に行うことができる。 |
| 8 | 紹介患者の受入れを円滑に行い、紹介病院に対して速やかに経過報告書を書くことができる。 |
| 9 | 医療連携の意義を理解し、返送・逆紹介を積極的に行うなど関係医療機関との適切なコミュニケーションを図ることができる。 |
| 10 | 専門性の追求のみにとどまらず、医療を取り巻く社会情勢などにも興味を持ち、広い見地から医療を実践することができる。 |

# 東京都立病院機構の概要

## 理念



# 大都市東京を医療で支える

私たち東京都立病院機構は、すべての都民のための病院として、
たゆまぬ自己改革を行い、質の高い医療サービスを提供し、
都民の生命と健康を支えていきます。

### ■ 基本方針

01 地域医療機関とも連携しながら、患者一人ひとりの立場に立った、安全で安心できる質の高い全人的医療を提供していきます

02 都の医療政策として求められる行政的医療、高度・専門的な医療を一層充実していきます

03 都民が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域に必要とされる医療の提供をはじめ、関係機関との連携により地域医療の充実へ貢献していきます

04 誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる東京を支える人材の確保・育成・活用を図っていきます

05 医療の質と安定的な経営基盤に資する病院運営を実現していきます

### ■ 設置目的

医療の提供、医療に関する研究及び調査並びに医療に従事する者の育成等の業務を行うことにより、東京都の医療政策として求められる行政的医療の安定的かつ継続的な提供をはじめ、高度・専門的医療等の提供及び地域医療の充実への貢献に向けた取組を推進し、もって都民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

### ■ 設立日

令和４年７月１日

### ■ 病床数

7,086 床（令和８年６月１日現在）

# 都立病院機構の目指す方向性

高齢化や医療の高度化など医療環境の変化のスピードが加速する中でも独法化のメリットをいかして、柔軟な人材確保や迅速な経営判断などにより都民ニーズに機動的に対応

**行政的医療等の一層の充実**
- 行政的医療等の充実・強化
- 災害・感染症等への着実な対応

**地域医療の充実への貢献**
- 地域包括ケアシステム構築への貢献
- 地域とともに人材を確保・育成・活用

**将来にわたって、都民の誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる東京を実現**

# 行政的医療とは

| 項目及び考え方 | | 医療課題 |
|---|---|---|
| **ア　法令等に基づき対応が求められる医療** | 法令上又は歴史的経過から、行政の積極的な関与が期待され、都が主体となって担うべき医療 | ●精神科救急医療<br>●医療観察法医療<br>●結核医療<br>●感染症医療（主に一類・二類）<br>●災害医療 |
| **イ　社会的要請から特に対策を講じなければならない医療** | 都民ニーズ、患者ニーズと比較して、一般医療機関等のサービス提供が質的・量的に不足する医療分野について、都の医療政策を推進する上で担うべき医療 | |
| ㈠　一般の医療機関での対応が困難な医療 | 多様なマンパワーの確保や特別な対応が必要で採算の確保が難しいことなどから、民間の取組が困難な医療 | ●小児専門医療（心臓病、腎臓病等）<br>●難病医療<br>●アレルギー疾患医療（重症、難治性）<br>●精神科身体合併症医療<br>●精神科専門医療（アルコール、薬物依存等）<br>●造血幹細胞移植医療<br>●エイズ医療<br>●救急医療（熱傷等）<br>●障害者合併症医療<br>●障害者歯科医療<br>●島しょ医療 |
| ㈡　都民ニーズが高く高度な医療水準とそれを支える総合診療基盤により対応する医療 | 都民ニーズが高く、総合診療基盤に支えられたより高度な医療や、合併症等への対応等、他の医療機関を補完するために担うべき医療 | ●周産期医療（MFICU、NICU 対応等）<br>●がん医療（難治性、合併症併発等）<br>●救急医療（三次、CCU、SCU、二次（休日・全夜間）） |
| **ウ　新たな医療課題に対して先導的に取り組む必要がある医療** | 時代に応じた新たな医療課題に対して、一般医療機関の医療提供体制が確立するまでの間対応する医療 | ●小児がん医療<br>●児童・思春期精神科医療<br>●移行期医療<br>●外国人患者への医療 |

# 東京医師アカデミーとしての研修

## ■各病院内研修

各病院ごとに、特色と専門性を活かした院内研修を実施しています。興味があれば、所属病院以外の研修を受講することもできます。

## ■集　合　研　修

東京医師アカデミーではレジデントに対して、様々な集合研修を実施しています。いずれも日常における診療にも役立つ、スキル・判断力が身に付く研修内容となっています。

### 災害医療研修（全員）

●トリアージ訓練、机上訓練等を通じて、災害時に適切な行動がとれるように、災害医療の特殊性など独自の概念を理解し、必要となる診療手技を身につけます。

（トリアージ訓練実施の様子/R7年度）

（救急科の講師による災害医療についての講義 /R7年度）

### 研究発表会（全員）

●日常診療で経験した症例や臨床研修・研究成果を学会に準じた口述により発表します。

（発表の様子① /R7年度）

（発表の様子② /R7年度）

## アカデミー語学研修（希望制）

●今後増加が見込まれる外国人患者に対して、医師として安心・安全な医療を提供するため、医療系英語を中心とした研修を実施することにより、円滑な外国人対応を目指します。

（語学研修の様子① /R1年度）

（語学研修の様子② /R1年度）

## 感染症対応能力向上研修（希望制）

●感染症の症候別講義や症例シナリオに沿ったディスカッションやプレゼンテーションを通じて、感染症に関しての初期対応、感染対策及び必要となる処置や判断について学びます。

（グループワーク結果のプレゼンテーション /R1年度）

（感染症科の講師による研修フィードバック /R1年度）

※研修内容は変更となる可能性があります。

## 臨床研究研修（希望制）

●臨床研究の基本概念や実施の際に必要となる知識等について演習を交えて学びます。

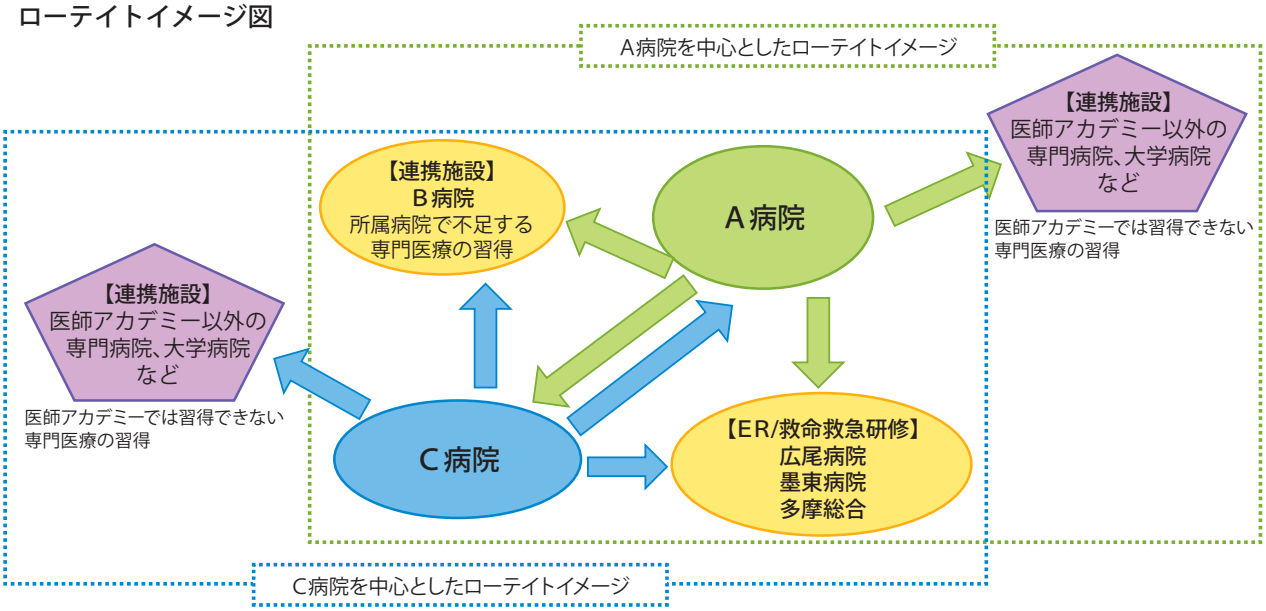
（臨床研究研修の様子① /R7年度）

（臨床研究研修の様子② /R7年度）

## ■病院間連携（ローテイト）

14 病院のスケールメリットをフル活用するため、病院間の連携を拡大・強化しています。所属病院での研修で不足する症例や、経験できない症例がある場合は、各病院の連携により補うことができます。医師アカデミー以外の連携施設での研修も可能です。

ローテイトイメージ図




※各病院が複数の病院と連携しています。研修施設群一覧はP.12をご覧ください。

## ■ ER ／救命救急短期研修

内科系コース及び外科系コースの一部のシニアレジデントは、ER/ 救命救急における３ヶ月の短期ＥＲ研修を必修としています。（広尾、墨東、多摩総合のいずれかで研修）その他のコースにおいても、同研修の受講を推奨しています。

### 一般目標　GIO

1　生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対する適切な診断・初期治療能力を身につける。
2　救急患者およびその家族に対する、診療態度と接遇を身につける。
3　救急医療システムを理解する。
4　災害医療の基本を理解する。

### 行動目標　SBOs

1　救急診療の基本事項
(1)　救急患者の身体所見を的確にとり、適切な鑑別診断を挙げることができる。
(2)　基本的な救急処置、検査や治療手技を安全で確実に行えるスキルを身につける。
(3)　救急患者および家族の不安に配慮した対応と説明ができるようになる。
(4)　コメディカルと協力して診療をスムーズに行えるような態度を身につける。
(5)　専門医への適切なコンサルテーションができるようになる。
(6)　頻度の高い救急疾患･外傷の初期治療ができる。
(7)　二次救命処置（ACLS）ができ、一次救命処置（BLS）を指導できる。

2　救急診療に必要な検査
(1)　必要な検査（検体､画像､心電図）が指示できる。
(2)　緊急性の高い異常検査所見を指摘できる。

3　経験しなければならない手技
(1)　気道確保を実施できる。
(2)　気管挿管を実施できる。
(3)　人工呼吸を実施できる。
(4)　心マッサージを実施できる。
(5)　除細動を実施できる。
(6)　注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈路確保、中心静脈路確保）を実施できる。
(7)　緊急薬剤（心血管作動薬、抗不整脈薬、抗けいれん薬など）が使用できる。
(8)　採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。
(9)　導尿法を実施できる。
(10)　穿刺法（腰椎、胸腔、腹腔）を実施できる。
(11)　胃管の挿入と管理ができる。
(12)　圧迫止血法を実施できる。
(13)　局所麻酔法を実施できる。
(14)　簡単な切開・排膿を実施できる。
(15)　皮膚縫合法を実施できる。
(16)　創部消毒とガーゼ交換を実施できる。
(17)　軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。
(18)　包帯法を実施できる。
(19)　ドレーン・チューブ類の管理ができる。
(20)　緊急輸血が実施できる。

4　経験しなければならない症状・病態・疾患
A　頻度の高い症状
＊「経験」とは、自ら診療し、鑑別診断を行うこと
(1)　発疹
(2)　発熱
(3)　頭痛
(4)　めまい
(5)　失神
(6)　けいれん発作
(7)　視力障害、視野狭窄
(8)　鼻出血
(9)　胸痛
(10)　動悸
(11)　呼吸困難
(12)　咳・痰
(13)　嘔気・嘔吐
(14)　吐血・下血
(15)　腹痛
(16)　便通異常（下痢、便秘）
(17)　腰痛
(18)　歩行障害
(19)　四肢のしびれ
(20)　血尿
(21)　排尿障害（尿失禁・排尿困難）
B　緊急を要する症状・病態
＊「経験」とは、初期治療に参加すること
(1)　心肺停止
(2)　ショック
(3)　意識障害
(4)　脳血管障害
(5)　急性呼吸不全
(6)　急性心不全
(7)　急性冠症候群
(8)　急性腹症
(9)　急性消化管出血
(10)　急性腎不全
(11)　急性感染症
(12)　外傷
(13)　急性中毒
(14)　誤飲、誤嚥
(15)　熱傷
(16)　流・早産および満期産
（当該科研修で経験してもよい）
(17)　精神科領域の救急
（当該科研修で経験してもよい）

5　救急医療システム
(1)　救急医療体制を説明できる。
(2)　地域のメディカルコントロール体制を把握している。

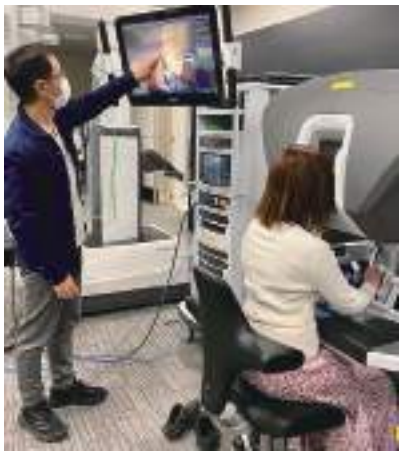
6　災害時医療
(1)　トリアージの概念を説明できる。
(2)　災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握している。

# 学習環境・臨床研究

東京医師アカデミーの研修病院では、レジデントが充実した研修や臨床研究に取り組むことができるように、下記の取組を行っています。

## ■学習環境を整備しています

●全病院で院内の各自のパソコンから UpToDate が使用できます。
●オンラインジャーナルは、各病院の専門性や特色に合わせて病院ごとに整備されています。
●図書室が整備されています。
●コースによりシミュレータを使用した研修を実施しています。
●学会参加費、旅費や学会加入費など、専門医の取得に必要な費用を支援します。

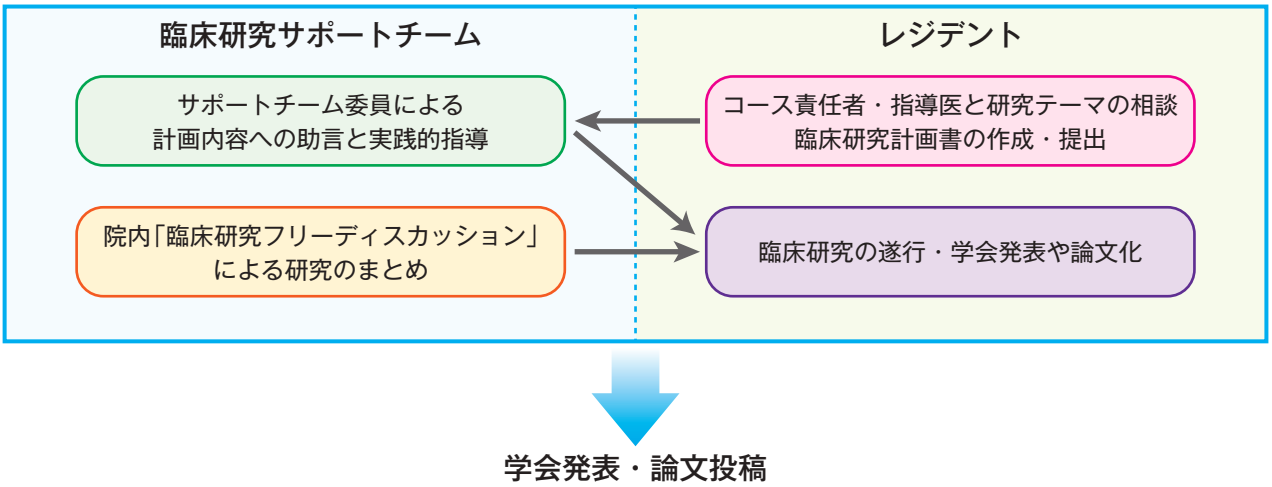


〔ロボット実機トレーニング〕

## ■臨床研究・学位取得をサポートしています

●東京医師アカデミーではレジデントの臨床研究を支援しており、各病院で学会発表、論文投稿をサポートしています。

例：広尾病院での臨床研究サポート体制




●東京医師アカデミーでは、研究に関心のあるレジデントが、東京都医学総合研究所で行われる研究に参加できるよう支援しています。

| （公財）東京都医学総合研究所で取り組んでいる研究課題 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ゲノムとがん・疾患 | 感染症・生体防御のメカニズム | 高次脳・神経機能とその異常による疾患 | 認知症と神経難病 | 心の病の原因究明 |
| 心の健康づくり | 看護・介護ケアとリハビリ | 生体高分子の構造・機能とその異常による疾患 | 生体内代謝・生体ストレス応答とその異常による疾患 | 各種臓器の発生・発達と老化 |

研究所が行う研究に参加し、研究員の指導の下に臨床研究を行うことができます（研究所による審査があります）。
研究所の連携大学院に社会人大学院生として入学することにより、学位取得を目指した研究を行うこともできます。
研究所が構築している脳病理標本データベースを、自己学習のために利用できます。

# 東京医師アカデミー　シニアレジデントの募集要項

**応募資格**　令和9年3月に初期臨床研修修了予定の方、又はそれと同程度の臨床経験を有する方

**募集人員**　全体で 100 名程度（令和８年度実績）

**採用選考方法**　口頭試問、面接試験など
・研修コースにより異なりますので、各病院のホームページを参照ください。

**出願方法及び時期**　後日、ホームページで公開します。

**採用選考日程**　後日、ホームページで公開します。

**採用予定日**　令和９年４月１日

**処遇**　（令和８年度実績）

身分：東京都立病院機構　任期付病院職員
雇用期間：各研修プログラムで定める年限
勤務形態：週５日以内（宿直あり）（原則）。１日７時間 45 分（原則）
始業及び終業の時刻、休憩時間は、所属長の定めによる。
有給休暇等：１年目 10 日。２年目以降は任用年数に応じて付与。他に夏季休暇等あり
報酬：採用前に改定があった場合は、その定めによる。
日給 20,640 円
月額 412,800 円（月 20 日勤務、宿直なしで勤務した場合の例）
他に賞与、宿日直手当（20,640 円 / 回）、超過勤務手当、救急医療業務手当あり
保険：東京都共済組合健康保険、厚生年金保険あり
宿舎：あり（単身のみ）
その他：研究研修費支給

# 東京医師アカデミー　サブスペシャルティレジデントの募集要項

**応募資格**　令和9年3月に基本領域研修修了予定の方、又はそれと同程度の臨床経験を有する方

**募集人員**　各病院へお問い合わせください。

**採用選考方法**　口頭試問、面接試験など
・研修コースにより異なりますので、各病院のホームページを参照ください。

**出願方法及び時期**　後日、ホームページで公開します。

**採用選考日程**　後日、ホームページで公開します。

**採用予定日**　令和９年４月１日

**処遇**　（令和８年度実績）

身分：東京都立病院機構　任期付病院職員
雇用期間：各研修プログラムで定める年限
勤務形態：週５日以内（宿直あり）（原則）。１日７時間 45 分（原則）
始業及び終業の時刻、休憩時間は、所属長の定めによる。
有給休暇等：１年目 10 日。２年目以降は任用年数に応じて付与。他に夏季休暇等あり
報酬：採用前に改定があった場合は、その定めによる。
日給 26,210 円
月額 524,200 円（月 20 日勤務、宿直なしで勤務した場合の例）
他に賞与、宿日直手当（26,210 円 / 回）、超過勤務手当、救急医療業務手当等あり
保険：東京都共済組合健康保険、厚生年金保険あり
宿舎：あり（単身のみ）
その他：研究研修費支給

# 基本領域設置プログラム一覧

## 東京医師アカデミーでは、次のとおり 13 領域 46 プログラムを申請しています。

※令和 8 年 5 月末現在。申請中及び申請予定のプログラムを含みます。

| 病院名 | 主な重点医療等 | 病床数 | 医師アカデミーで研修を行うことのできる基本領域（新専門医制度） | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 内科 | 外科 | 産婦人科 | 小児科 | 精神科 | 整形外科 | 麻酔科 | 耳鼻咽喉科 | 泌尿器科 | 病理科 | 放射線科 | 救急科 | 総合診療 |
| 広尾病院 | 救急医療（三次、熱傷等）、災害医療、島しょ医療、小児医療、精神科身体合併症医療、障害者歯科医療 | 408 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | | | ○ | | ◎ | ◎ |
| 大久保病院 | 救急医療（二次、脳卒中）、腎医療、災害医療 | 304 | ◎ | ○ | | | | | ○ | | | ○ | | | ◎ |
| 大塚病院 | 周産期医療、小児医療、児童精神科医療、救急医療（二次、脳卒中）、障害者（児）医療、災害医療 | 405 | ◎ | ○ | ○ | ◎ | | | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| 駒込病院 | がん医療（ゲノム、難治性、合併症併発等）、造血幹細胞移植医療、感染症医療（主に一類・二類）、救急医療（二次）、災害医療 | 815 | ◎ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | | ◎ |
| 豊島病院 | 救急医療（二次、脳卒中、急性心筋梗塞）、がん医療、周産期医療、小児医療、精神科救急医療、精神科身体合併症医療、感染症医療（主に二類）、障害者歯科医療、災害医療 | 438 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 荏原病院 | 救急医療（二次、脳卒中）、感染症医療（主に一類・二類）、がん医療、精神科身体合併症医療、小児医療、障害者歯科医療、災害医療 | 461 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | | ◎ | | | | ○ | | |
| 墨東病院 | 救急医療（三次、熱傷等）、周産期医療、小児医療、感染症医療（主に一類・二類）、がん医療（合併症併発等）、精神科救急医療、精神科身体合併症医療、障害者歯科医療、災害医療 | 765 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| 多摩総合医療センター | 救急医療（三次、熱傷等）、周産期医療、がん医療（精密検査・合併症併発等）、精神科救急医療、精神科身体合併症医療、感染症医療、難病医療、障害者歯科医療、移行期医療、災害医療 | 789 | ◎ | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ |
| 多摩北部医療センター | 救急医療（二次、脳卒中、急性心筋梗塞）、がん医療、小児医療、障害者歯科医療、災害医療 | 337 | ◎ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ◎ |
| 東部地域病院 | 救急医療（二次、脳卒中、急性心筋梗塞）、がん医療、小児医療、災害医療 | 314 | ○ | ○ | ○ | | | | ◎ | | | | | | |
| 多摩南部地域病院 | 救急医療（二次、脳卒中、急性心筋梗塞）、がん医療、小児医療、災害医療 | 287 | ◎ | ○ | | | | | ○ | | ○ | | | | ○ |
| 神経病院 | 難病医療（神経、筋疾患）、災害医療 | 304 | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| 小児総合医療センター | 小児救急医療（三次）、小児がん医療、周産期医療、小児専門医療（心臓病、腎臓病等）、児童・思春期精神科医療、小児結核医療、小児難病医療、アレルギー疾患医療、障害児歯科医療、移行期医療、災害医療 | 561 | | ○ | | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 松沢病院 | 精神科救急医療、精神科身体合併症医療、精神科専門医療（アルコール、薬物依存等）、医療観察法医療、精神障害者歯科医療、災害医療 | 898 | ○ | ○ | | | ◎ | | | | | | | | ◎ |

（注 1）　◎…基幹施設
（注 2）　○…連携施設
（注 3）研修コースの詳細は、P14 ～をご覧ください。所属するコース以外での研修を希望する場合等は適時相談に応じます。
（注 4）内科系コース、外科系コースの一部については、総合診療能力の醸成・向上のため、広尾病院、墨東病院又は多摩総合医療センターにおける 3 か月程度の ER/ 救命救急短期研修を必ず受講していただきます。その他のコースについても、同研修を受講することを推奨しています。

# 研修施設群一覧

| 連携施設＼基幹施設 | 内科 | | | | | | | | | | | 外科 | | 産婦人科 | | 小児科 | | | 精神科 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 広尾 | 大久保 | 大塚 | 駒込 | 豊島 | 荏原 | 墨東 | 多摩総合 | | 多摩北 | 多摩南 | 墨東 | 多摩総合 | 墨東 | 多摩総合 | 大塚 | 墨東 | 小児総合 | 豊島 | 荏原 | 墨東 |
| 広尾病院 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| 大久保病院 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | |
| 大塚病院 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| 駒込病院 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| 豊島病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| 荏原病院 | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| 墨東病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 多摩総合医療センター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | ○ | |
| 多摩北部医療センター | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| 東部地域病院 | ○ | ○ | | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| 多摩南部地域病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | | | | | | | | |
| 神経病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 小児総合医療センター | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 松沢病院 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | ○ | | ○ |
| 東京都立病院機構以外の病院 | 東京共済病院 | 東京女子医科大学 | 東京科学大学病院 | NTT東日本関東病院 | 東京都健康長寿医療センター | 東邦大学医療センター大森病院 | 東京科学大学病院 | 浦添総合病院 | 帯広第一病院 | 国立病院機構東京病院 | 安曇野赤十字病院 | 公立昭和病院 | 北里大学病院 | 獨協医科大学埼玉医療センター | 島しょ等 | 東京大学医学部附属病院 | 東京科学大学病院 | 日本大学医学部附属板橋病院 | 聖路加国際病院 | 立川相互病院 | 東京都健康長寿医療センター | 中部総合精神保健センター | 東京科学大学病院 |
| | 日本大学医学部附属板橋病院 | 東京医科大学 | 東邦大学医療センター大森病院 | 新宿戸塚記念中野総合病院 | 東京科学大学病院 | 東京医科大学病院 | 東京大学医学部附属病院 | 市立青梅総合医療センター | 宮城県立がんセンター | 日野市立病院 | 諏訪中央病院 | 複十字病院 | 浦添総合病院 | 国立がんセンター研究センター中央病院 | | 聖路加国際病院 | 東京大学医学部付属病院 | 慶應義塾大学病院 | 東京大学医学部附属病院 | 松戸市立総合医療センター | 国立精神・神経医療研究センター病院 | 栗田病院 | 東京足立病院 |
| | 東京科学大学病院 | 戸田中央総合病院 | 草加市立病院 | 湘南鎌倉総合病院 | 日本大学医学部附属板橋病院 | 昭和医科大学病院 | 筑波大学附属病院 | 横浜市立みなと赤十字病院 | 秋田赤十字病院 | 青梅市立総合病院 | 高山赤十字病院 | 榊原記念病院 | 中頭病院 | 山梨県立中央病院 | | 順天堂大学医学部附属順天堂医院 | 青梅市立総合病院 | 島しょ等 | 国立国府台医療センター | 山梨大学連携病院 | 成増厚生病院 | 横浜市立みなと赤十字病院 | 成増厚生病院 |
| | 国際医療福祉大学市川総合病院 | 島しょ等 | 東京都済生会中央病院 | 国立がん研究センター中央病院 | 青梅市立総合病院 | 昭和医科大学藤が丘病院 | 千葉大学医学部附属病院 | 国立がん研究センター中央病院 | 山形県立中央病院 | 公立昭和病院 | 聖隷浜松病院 | 国立病院機構東京病院 | 友愛医療センター | 東京東病院 | | 順天堂大学医学部附属順天堂医院 | 立川相互病院 | | 慶應義塾大学医学部三田病院センターこどものこころ診療センター | | 陽和病院 | 東京科学大学病院 | 国立精神・神経医療研究センター病院 |
| | 公立昭和病院 | | JAとりで総合医療センター | 東京科学大学病院 | JCHO東京山手メディカルセンター | 昭和医科大学横浜市北部病院 | 日本医科大学千葉北総病院 | 島しょ等 | 白河厚生総合病院 | 東京科学大学病院 | 沼津市立病院 | 日本医科大学付属病院 | 聖マリアンナ医科大学病院 | | | 公立昭和病院 | 田園都市レディースクリニック | | | | 東京足立病院 | 医療法人社団柏水会初石病院 | 都立精神保健福祉センター |
| | 国立循環器病研究センター病院 | | 慶應義塾大学病院 | 東京大学医学部附属病院 | 新宿戸塚記念中野総合病院 | 昭和医科大学東京豊洲病院 | 東京大学医学部附属病院 | | 福島県立医科大学会津医療センター | 東京都健康長寿医療センター | 神戸市立医療センター中央市民病院 | 東京ベイ・浦安市川医療センター | 川崎市立多摩病院 | | | 国立国際医療研究センター病院 | | | | | 恩田第二病院 | 成増厚生病院 | 埼玉県立医療センター |
| | JCHO東京山手メディカルセンター | | 東京歯科大学市川総合病院 | 東京健生病院 | 国立病院機構災害医療センター | 蒲田クリニック | 奈良県立医科大学附属病院 | | 竹田綜合病院 | 東京大学医科学研究所附属病院 | 島根大学医学部附属病院 | 杏林大学医学部付属病院 | 立川相互病院 | | | 長野県立こども病院 | | | | | がん研有明病院 | 自治医科大学附属病院 | 大宮厚生病院 |
| | 横須賀共済病院 | | 横浜市立みなと赤十字病院 | 大泉生協病院 | 武蔵野赤十字病院 | 宮崎市郡医師会病院 | 国立循環器病研究センター | | 水戸協同病院 | 東京大学医学部附属病院 | 隠岐病院 | 東京科学大学病院 | 東海大学医学部付属病院 | | | 埼玉県立がんセンター | | | | | 精神保健福祉センター | | 国立国府台医療センター |
| | JR東京総合病院 | | 川崎市立井田病院 | 東京大学医科学研究所附属病院 | 横須賀共済病院 | 島しょ等 | 国立国府台医療センター | | 土浦協同病院 | 国立病院機構災害医療センター | 隠岐島前病院 | 東京都立駒込病院 | 東京医科大学八王子医療センター | | | 国立循環器病センター | | | | | 東京科学大学病院 | | 初石病院 |
| | 浦添総合病院 | | 横須賀共済病院 | 複十字病院 | 横浜南共済病院 | | 筑波記念病院 | | JAとりで総合医療センター | 武蔵野赤十字病院 | 飯塚病院 | 東京大学医学部附属病院 | 杏林大学医学部付属病院 | | | | | | | | 小山富士見台病院 | | 東京都立健康長寿医療センター |
| | 東京医科大学病院 | | 平塚共済病院 | 青森県立中央病院 | 横浜市立みなと赤十字病院 | | 同愛記念病院 | | 国立病院機構栃木医療センター | がん研究会有明病院 | 今村総合病院 | 古賀総合病院 | 公立阿伎留医療センター | | | | | | | | 平川病院 | | |
| | 島しょ等 | | 土浦協同病院 | 岩手県立中央病院 | 平塚共済病院 | | 東京ベイ・浦安市川医療センター | | 済生会宇都宮病院 | 横浜市立みなと赤十字病院 | 沖縄県立宮古病院 | 東京女子医科大学病院 | 永寿総合病院 | | | | | | | | 大宮厚生病院 | | |
| | | | 東京女子医科大学病院 | 山形県立中央病院 | 土浦協同病院 | | 亀田総合病院 | | 群馬県立心臓血管センター | 川崎市立多摩病院 | 沖縄県立中部病院 | 医療法人財団中山会八王子消化器病院 | 湘南鎌倉総合病院 | | | | | | | | 青梅成木台病院 | | |
| | | | 青梅市立総合病院 | 魚沼基幹病院 | JAとりで総合医療センター | | 静岡がんセンター | | 埼玉県済生会加須病院 | 横須賀共済病院 | 浦添総合病院 | 公立阿伎留医療センター | 国立がんセンター研究センター東病院 | | | | | | | | 日本医科大学附属病院 | | |
| | | | 島しょ等 | 国立がん研究センター東病院 | 柏市立柏病院 | | ＪＡとりで総合医療センター | | 埼玉石心会病院 | 湘南鎌倉総合病院 | 天理よろづ相談所病院 | 島しょ等 | 島しょ等 | | | | | | | | 国立国府台医療センター | | |
| | | | | 東京ベイ・浦安市川医療センター | 草加市立病院 | | 横須賀共済病院 | | さいたま市立病院 | 国立病院機構相模原病院 | 西伊豆健育会病院 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 飯塚病院 | 秀和総合病院 | | 静岡てんかん・神経医療センター | | 草加市立病院 | 川崎市立井田病院 | 島しょ等 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 静岡県立静岡がんセンター | さいたま赤十字病院 | | 榊原記念病院 | | さいたま赤十字病院 | 川崎市立川崎病院 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | JCHO東京山手メディカルセンター | 島しょ等 | | 大森赤十字病院 | | 帝京大学ちば総合医療センター | 関東労災病院 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 大森赤十字病院 | | | 川西市立総合医療センター | | 国保旭中央病院 | 横浜南共済病院 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 帝京大学ちば総合医療センター | | | 哲西町診療所（岡山） | | 船橋市立医療センター | 長岡赤十字病院 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 東京女子医科大学病院 | | | 筑波メディカルセンター病院 | | 東京ベイ・浦安市川医療センター | 新潟市民病院 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 近畿大学病院 | | | 豊橋ハートセンター | | 亀田総合病院 | 済生会新潟病院 | 東伊豆基幹病院 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | さいたま赤十字病院 | | | 飯塚病院 | | 成田赤十字病院 | 魚沼基幹病院 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 聖マリアンナ医科大学病院 | | | 国立精神・神経医療研究センター病院 | | | 新潟県立十日町病院 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 島しょ等 | | | 国際医療福祉大学成田病院 | | | 山梨県立中央病院 | | | | | | | | | | | | | |

島しょ等：利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、青ヶ島、小笠原、檜原村、奥多摩町などの 11 施設
島しょ研修の状況については、各病院へお問合せください。

| | | | 整形外科 | 麻酔科 | | | | | | | 耳鼻咽喉科 | 泌尿器科 | 病理科 | | 放射線科 | 救急科 | | | 総合診療科 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 多摩総合 | 小児総合 | 松沢 | 多摩総合 | 広尾 | 大塚 | 駒込 | 荏原 | 墨東 | 多摩総合 | 東部 | 多摩総合 | 駒込 | 駒込 | 多摩総合 | 駒込 | 広尾 | 墨東 | 多摩総合 | 広尾 | 駒込 | 墨東 | 多摩総合 | 多摩北 | 松沢 |
| ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ |
| | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | ○ |
| | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | | | | ○ | ○ |
| | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | | |
| | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | ○ | | | | | ○ | | | ○ | ○ |
| | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | | | ○ | | | | | | ○ |
| | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | ○ | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | ○ |
| | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | | ○ |
| ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| 東京都健康長寿医療センター | 多摩あおば病院 | 東京科学大学病院 | 東京大学医学部附属病院 | 早稲田大学加藤総合病院 | 慶應義塾大学病院 | 順天堂大学医学部附属順天堂医院 | 東京大学医学部附属病院 | 順天堂大学医学部附属順天堂医院 | 東京科学大学病院 | 順天堂大学医学部附属順天堂医院 | 虎の門病院 | 国立がん研究センター東病院 | 東京科学大学病院 | 公立昭和病院 | 島根大学医学部附属病院 | 杏林大学医学部附属病院 | 東京大学医学部附属病院 | 東京ベイ・浦安市川医療センター | 聖路加国際病院 | 大島医療センター | 大泉生協病院 | 聖母病院 | 北海道医療センター庭瀬サイト | 東京女子医科大学病院 | 佐渡総合病院 |
| 青梅市立総合病院 | 駒木野病院 | 東京医科歯科大学附属病院 | 自治医科大学附属病院 | 春日部中央総合病院 | さいたま市立病院 | 越谷市立病院 | 昭和大学医科大学 | 順天堂大学医学部附属順天堂医院 | 国立がん研究センター東病院 | 越谷市立病院 | NTT東日本関東病院 | がん研有明病院 | | 川崎幸病院 | 筑波大学附属病院 | 大分県立病院 | 八戸市立病院（青森県） | 神津島村国民健康保険直営診療所 | 東京科学大学病院 | 篠崎駅前クリニック | 西伊豆健育会病院 | 奥多摩病院 | 高山赤十字病院 |
| 成増厚生病院 | 鶴が丘ガーデンホスピタル | 慶應義塾大学病院 | 日立総合病院 | | | | 昭和大学横浜市北部病院 | 順天堂大学医学部附属順天堂静岡病院 | 聖路加国際病院 | | | | | 東京西徳州会病院 | 横浜市立大学附属病院 | 鹿児島県立大島病院 | 鹿児島病院 | 前橋赤十字病院 | 秋田赤十字病院（秋田県） | 三宅村中央診療所 | 瀬尾医院（広島） | クリニック川越 | 島しょ等 | 常陸大宮済生会病院 | 板橋中央総合病院 |
| 高月病院 | | 昭和医科大学附属烏山病院 | | | | | 昭和医科大学藤が丘病院 | イムス三芳ハート飾センター | 東京ベイ・浦安市川医療センター | | | | | | 国立病院機構福岡病院 | 東京医療センター | 済生会宮崎病院 | 島根県立中央病院 | 東北医科薬科大学病院（宮城県） | 町立八丈病院 | やまと診療所 | 揚石医院 | | 石橋クリニック | 国立成育医療研究センター |
| 多摩総合精神保健福祉センター | | 国立国際医療研究センター病院 | 東京大学医学部附属病院 | | | | 日本医科大学千駄木病院 | 越谷市立病院 | 埼玉医科大学病院 | | | | | | 埼玉医科大学国際医療センター | 東邦大学医療センター大森病院 | 埼玉医科大学総合医療センター（埼玉県） | 海老名総合病院 | 小笠原村診療所 | 東京北医療センター | 岩手県立千厩病院 | | 公立置賜総合病院 | おうちにかえろう。病院 |
| 針ケ丘病院 | | 東京都健康長寿医療センター | | | | | 日本大学病院 | 獨協医科大学病院 | 埼玉医科国際大学医療センター | | | | | | | 国際福祉大学市川病院 | 聖マリアンナ医科大学病院 | 埼玉県済生会加須病院（埼玉県） | 奥多摩病院 | 台東区立病院 | 岩手県立高田病院 | | 東御市民病院 | 上野原市立病院 |
| 東京科学大学病院 | | 中部総合精神保健福祉センター | | | | | 東京医科歯科大学医療センター | 松戸市立総合医療センター | 埼玉医科大学総合医療センター | | | | | | | 国際医療福祉大三田病院 | 千葉大学医学部附属病院 | 昭和医科大学病院（東京都） | セントラル病院 | 練馬光が丘病院 | 一関市国保沢病院 | | 北海道家庭医療学センター | 東御市民病院 |
| 横浜みなと赤十字病院 | | 北海道大学病院 | | | | | 静岡済生会総合病院 | | TMGあさかセンター医療センター | | | | | | | 東京警察病院 | 浦添総合病院 | 千葉大学（千葉県） | 家庭医療学レジデンシー東京（CFMD） | 島しょ等 | 岩手県立大東病院 | | 帯広協会病院 | 南砺市民病院 |
| 恵田第二病院 | | 函館渡辺病院 | | | | | 狭間ことろ病院 | | 慶應義塾大学病院 | | | | | | | 島しょ等 | 中京病院 | NTT東日本関東病院（東京都） | 上野原市立病院 | | 島しょ等 | | 更別村国民健康保険診療所 | 国立病院機構熊本医療センター |
| 茨城県立こころの医療センター | | 埼玉医科大学病院 | | | | | | イムス草加ハート飾センター | 順天堂大学病院 | | | | | | | | 島しょ等 | 赤十字社本部（日赤センター）（東京都） | | | | | 国保民健上川医療センター | 桜新町アーバンクリニック |
| 山本病院 | | 千葉県総合救急医療センター | | | | | | | 武蔵野赤十字病院 | | | | | | | | | 帝京大学病院（東京都） | 横浜市立大学附属病院 | | | | 寿都町立寿都診療所 | 聖路加国際病院 |
| 東京大学医学部附属病院 | | 聖マリアンナ医科大学病院 | | | | | | | 順天堂大学医学部附属順天堂静岡病院 | | | | | | | | | 東海大学医学部附属八王子病院（東京都） | 水海道さくら病院 | | | | 栄町クリニック | 慶應義塾大学病院 |
| 土佐病院 | | 神奈川県立精神医療センター | | | | | | | | | | | | | | | | 聖マリアンナ医科大学病院（神奈川県） | 桜新町アーバンクリニック | | | | 本輪西ファークリニック | 東京慈恵会医科大学西部医療センター |
| 埼玉江南病院 | | 大阪精神医療センター | | | | | | | | | | | | | | | | 海老名総合病院（神奈川県） | 医療法人社団善心会 北岡ファミリークリニック | | | | 医療法人社団善心会 北岡ファミリークリニック | 新生病院 |
| 多摩中央病院 | | 岡山県精神医療センター | | | | | | | | | | | | | | | | 湘南鎌倉総合病院（神奈川県） | 矢沢クリニック | | | | 向陽台ファミリークリニック | 会津医療センター |
| 神奈川病院 | | 山口県立こころの医療センター | | | | | | | | | | | | | | | | 相澤病院（長野県） | DENみいクリニック | | | | 砂川市立病院 | 常盤病院 |
| 京ケ峰岡田病院 | | 済生会横浜市東部病院 | | | | | | | | | | | | | | | | 佐久総合病院（長野県） | セントラル病院 | | | | さんむ医療センター | |
| 平川病院 | | 埼玉県立精神医療センター | | | | | | | | | | | | | | | | 産業医科大学病院（福岡県） | 東京ビジネスクリニック | | | | 南浜ファミリークリニック | |
| 三楽病院 | | 東京医科大学病院 | | | | | | | | | | | | | | | | 浦添総合病院（沖縄県） | 内藤病院 | | | | 利根中央病院 | |
| | | 大宮厚生病院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 千葉大学医学部附属病院 | |
| | | あさかホスピタル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 横浜市立大学附属病院 | |
| | | こころの医療センター五色台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 聖マリアンナ医科大学病院 | |
| | | 自治医科大学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 中頓病院 | |
| | | 埼玉医科大学総合医療センター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 栃木県立岡本病院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 東京医科歯科大学附属病院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | TAOKAこころの医療センター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 旭川医科大学病院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

# 内科

## 採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎広尾病院
◎大久保病院
◎大塚病院
◎駒込病院
◎豊島病院

〇東部地域病院
〇神経病院

◎荏原病院
◎墨東病院
◎多摩総合医療センター
◎多摩北部医療センター
◎多摩南部地域病院

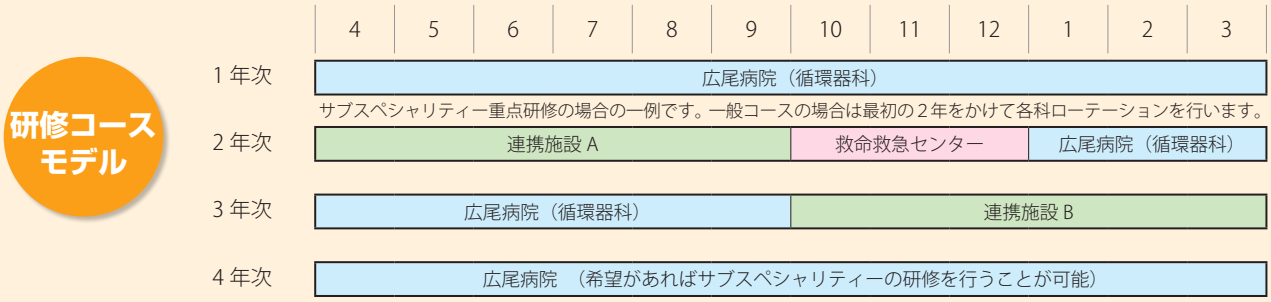
〇松沢病院

## 研修プログラムの特徴

### ● 広尾病院（基幹施設）
### 東京都立広尾病院内科専門研修プログラム

プログラム責任者：腎臓内科　田島　真人　　プログラム研修期間：3～4年（一部サブスペシャリティ連動研修有）

東京都立広尾病院は、東京都区西南部（渋谷区、目黒区、世田谷区）に位置し、救急医療・災害医療・島しょ医療を重点医療とした病院です。内科診療科として、循環器科・呼吸器科・消化器科・神経内科・腎臓内科・内分泌 / 代謝科・血液内科を有します。さらに令和5年度からは病院総合診療科が新設され、さらに幅広い症例を経験する環境となっています。それらの中でも、救急医療に深く関わる循環器科は、都内でも有数の規模を誇ります。当院は約400床の中規模病院ですが、三次救急を扱う救命救急センターがあったり、東京都島しょ部（大島、三宅島、八丈島など）よりヘリ搬送の大半を引き受けていたりと様々な特色を有します。レジデントの皆さんがヘリに搭乗し、患者さんの搬送に携わる機会も多々あります。また、東京都に二つある基幹災害拠点病院の一つでもあり、災害医療に関する素養を身につけることも可能です。伝統的に各科の垣根が低いのが特色で、コンサルテーションや複数科での併診がしやすく、皆さんの研修のし易い環境と言えます。そのような当院の内科専門研修プログラムは、内科としての総合的な素養を磨くだけでなく、よりレジデントの皆さんの志望するサブスペシャリティー研修を重視することを目標としています。レジデントの皆さんとディスカッションを重ね、意見を取り入れ、より良い研修ができるよう、柔軟性のあるプログラムにしていきたいと考えております。




### ● 大久保病院（基幹施設）
### 東京都立大久保病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：副院長　鈴木　和仁

本プログラムでは、特定診療科に偏らず、満遍なく内科研修を行う「内科標準コース（研修期間3～4年）」、内科研修と専門研修を並行して行う「内科・サブスペシャルティ混合コース（研修期間4年）」そして2021年度から新たに「サブスペシャルティコース（研修期間2～3年）」を設け、専攻医の多様な要望に対応しております。

「内科標準コース」では、基幹施設である当院及び連携施設での研修により、専攻医3年終了時に「研修手帳」に定められた56疾患群、160症例以上の診療経験を達成します。規定の経験目標達成後は大久保病院で内科領域全般または希望

する専門領域の研修を行えます。専門領域から common disease の経験をはじめ、複数の病態を持った患者の診療経験の他、高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験もでき、多彩な研修が可能です。「内科・サブスペシャルティ混合コース」では、専攻医１年目から内科領域全般の研修と並行して専門研修を開始できます。内科系各診療科は教育施設・研修施設の認定を受けており、専門領域について十分な指導体制を整えています。当院では研修困難な診療科（血液内科、アレルギー・膠原病内科、感染症科、ER《必修》等）や、他院での専門科目の研修を希望する場合は、２年次に連携施設で６～12ヶ月の院外研修で行います。

「サブスペシャルティコース」は、すでに専門医を取得または受験資格を有する方を対象としており、２～３年間で内科系サブスペシャルティを取得します。詳細は当院ホームページをご参照ください。

個々の希望・将来像に対応できるよう相談しながら研修プログラムを考えていきます。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １年次 | サブスペシャルティあるいは内科各科ローテーション | | | | | | | | | | | |
| | 内科標準コースでは内科系７科から選択しローテーションします。内科・サブスペ混合コースではサブスペを中心とし、症例登録に不足している科を追加研修します。 | | | | | | | | | | | |
| ２年次 | 連携施設（サブスペシャルティコースを除き ER3ヶ月は必修） | | | | | | | | | | | |
| | 両コース共に２年次に連携施設で６ヶ月～１年間の研修を行います。研修施設は当院では研修困難な診療科を中心に専攻医との相談の上選択します。 | | | | | | | | | | | |
| ３年次 | サブスペシャルティあるいは内科各科ローテーション | | | | | | | | | | | |
| | 内科標準コースにおいても規定の経験目標を達成後は３年次途中から希望するサブスペシャリティ研修に移行することができます。 | | | | | | | | | | | |
| ４年次 | サブスペシャルティあるいは内科各科ローテーション | | | | | | | | | | | |
| | 希望により１年間サブスペシャルティ研修を行うことができます。 | | | | | | | | | | | |

## ● 大塚病院（基幹施設）
## 東京都立大塚病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：消化器内科　倉田　仁　　プログラム研修期間：３～４年

当院の研修では消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、脳神経内科、血液内科、リウマチ・膠原病科の専門医が垣根なく指導にあたります。脳神経内科、血液内科、リウマチ・膠原病科があり、脳神経内科、血液内科、膠原病系難病の症例も豊富です。基本コース３年間またはサブスペシャリティコース４年間で、最初の１ヶ月はオリエンテーションも含め、将来サブスペシャリティに希望する科を選択します。必修の救急 /ER 研修は、墨東病院・広尾病院・多摩総合医療センターのいずれかで経験を積みます。当院では、多臓器疾患の合併症を持つ高齢者を輪番制で受け持ち、総合内科初診外来を担当することで、オールラウンドな内科研修が可能です。

なお、各科ローテーションは履修状況で省略 / 延長可能（希望科として調整）となっているほか、希望科は場合によりサブスペ科も可能です。また、両コースともに新内科専門医のプログラムと連動しており専門医の取得が可能です。習熟度に応じて早期にサブスペシャリティ研修を開始し、スムースに移行できるよう配慮しています。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １年次 | 希望科 | 神経 | アレルギー | 血液 | 膠原病 | 代謝 | 救急・ＥＲ | | | 内分泌 | 循環器 | 消化器 |
| ２年次 | 呼吸器 | 腎 | 希望科 | 連携施設 | | | | | | | | |
| ３年次 | サブスペシャリティ | | | | | | | | | | | |
| ４年次 | サブスペシャリティ | | | | | | | | | | | |

# 内科

## 駒込病院（基幹施設）
## 東京都立駒込病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　岡本　朋　　プログラム研修期間：3～4年

本プログラムは、各診療科の総合基盤を備えた、がんと感染症を重視した病院であると同時に、東京都区中央部医療圏の2次救急病院である駒込病院を基幹施設として、東京都内にある連携施設・特別連携施設において施行されます。3年コース（内科専門研修コース）および4年コース（内科・サブスペシャルティ混合コース）が設置されています。いずれのコースも東京医師アカデミーとしてサブスペシャルティ領域を見据えたプログラムと連動しており、3年コースでは専攻医3年目からサブスペシャルティ研修を開始できます。4年コースでは、内科領域全般の研修を4年間かけて行うと同時に専攻医1年目から6か月のサブスペシャルティ専門研修を開始するコースです。令和8年度採用専攻医は消化器内科コース1名、血液内科コース2名、感染症科コース1名、呼吸器内科コース1名、腫瘍内科コース1名でした。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年次 | 呼吸器内科 | | | | | | 他の内科 | | | ＥＲ（墨東病院） | | |
| | 内科・サブスペシャルティー混合コースの例で、1年目から呼吸器内科を6か月研修する。東京医師アカデミーではＥＲ研修が必須である。 | | | | | | | | | | | |
| 2年次 | 呼吸器内科 | | | | | | 他の内科 | | | | | |
| | 内科領域全70疾患群、200症例以上の登録のために不足している科の研修も可能。 | | | | | | | | | | | |
| 3年次 | 呼吸器内科 | | | | | | 放射線診断部 | | | 呼吸器内科（多摩総合医療センター） | | |
| | 連携施設では当院呼吸器内科で経験できない肺結核等の診療を学ぶことができる。 | | | | | | | | | | | |
| 4年次 | 呼吸器内科 | | | | | | 緩和ケア科 | | | 呼吸器内科 | | |
| | 4年間の研修終了後に内科専門医試験に合格し、その後に日本呼吸器学会専門医試験に合格することを目標とする。 | | | | | | | | | | | |

## 豊島病院（基幹施設）
## 東京都立豊島病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　藤ヶ﨑　浩人　　プログラム研修期間：3～4年

本プログラムは、東京都区西北部医療圏の中心的な急性期病院である、東京都立豊島病院を基幹施設として、東京都区西北部医療圏、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで構成されます。内科専門研修を経て、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療が行えます。研修期間は基幹施設2年間＋連携施設・特別連携施設1年間の計3年間です。本研修では、症例をある時点で経験するということだけでなく、主担当医として入院から退院<初診・入院～退院・通院>まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する、全人的医療を実践します。そして、個々の患者に適切な医療を提供する計画を立て、実行する能力の修得をもって目標の達成とします。当院は急性期病院の一つであるとともに、地域の病診・病病連携の中核の一つです。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。本プログラムでは、専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の3つのコース、①内科標準コース、②サブスペシャルティ重点研修コース、③内科・サブスペシャルティ混合コースを準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 内科① | | 内科② | | 内科③ | | 内科④ | | 内科⑤ | | 内科⑥⑦ | |
| | 1～2 回 / 月の内科当直研修、1 年目に JMECC を受講 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 内科⑧（連携施設） | | ER 研修（連携施設） | | | 内科サブスペシャリティ研修（連携施設） | | | | | | |
| | 連携・特別連携施設での研修。適宜希望内科及び島しょ医療研修。2～4 回 / 月の内科当直。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 内科サブスペシャリティ研修 | | | | | | | | | | | |
| | 基幹 / 連携施設での研修。初診＋再診外来。2～4 回 / 月の内科当直。 | | | | | | | | | | | |

## 荏原病院（基幹施設）
## 東京都立病院機構東京都立荏原病院内科専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　水谷　勝　　プログラム研修期間：3～4 年

当院は地域連携に重きを置いた急性期医療に取り組む地域密着型の病院です。救急医療、脳血管疾患医療、集学的がん医療を重点医療に掲げています。本プログラムでは、東京都区南部二次医療圏の中核的な急性期病院である当院を基幹施設として、都立病院、大学病院および地域特別連携施設と連携することによって各領域を網羅しています。本プログラムの理念は「心温まる医療を提供できる内科専門医を育成する」ことです。そのためには患者―医師信頼関係の構築、スタッフ間の調和、外部組織との連携協力関係の実践、専門知識・技術の習得、クリニカルクエスチョンの追求、医療環境の理解等、多岐にわたる視点が必要で、それらの問題意識を持って医療を行える内科専門医の育成を行います。

内科基本コースは、基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間の計 3 年間であり、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得することを目指します。各自の希望や経験に合わせてローテイトを組むことができます。

また、2025 年度よりサブスペシャルティコース (4 年間 ) を新設し、充実したサブスペシャルティ領域の研修を行えるようになっております。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 診療科① | | | 診療科② | | | 診療科③ | | | 診療科④ | | |
| | 一般内科（予約外受診）の外来を週 1 回、月 3 回（平日 2 回、土日祝日 1 回）程度の内科当直を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 診療科⑤ | | | 診療科⑥ | | | 診療科⑦ | | | ER（墨東病院） | | |
| | 一般内科（予約外受診）の外来を週 1 回、月 4 回（平日 2 回、土日祝日 2 回）程度の内科当直を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 連携施設・特別連携施設 | | | | | | | | | 希望診療科 | | |
| | 3 年次では連携施設での研修を行い、専門性のより高い研修を行う。 | | | | | | | | | | | |
| | 診療科①～⑦：消化器、呼吸器、循環器、脳神経、内分泌、感染症、ER をローテイト | | | | | | | | | | | |

## 墨東病院（基幹施設）
## 都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：脳神経内科　水谷　真之　　プログラム研修期間：3～4 年（一部サブスペシャルティ連動研修有）

本プログラムは、区東部医療圏の中心的急性期病院である墨東病院を基幹施設とし、都区東部医療圏、近隣医療圏、都島しょにある連携・特別連携施設での専門研修を経て、超高齢社会、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるよう訓練されます。研修プログラムとして日本内科学会の提示する 4 つのタイプ（内科標準タイプ、サブスペシャリティ重点研修 1 年タイプ、サブスペシャリティ重点研修 2 年タイプ、内科・サブスペシャリティ混合タイプ）のいずれも選択可能です。当プログラムは基幹施設である東京都立墨東病院内科で 2 年間 ( 混合タイプは 3 年間 ) を、連携施設・特別連携施設で 1 年間の研修を行い、選択すべき施設と期間は専攻医の希望の他、達成度、進捗度を合わせてプログラム管理委員会で検討し決定します。4 年次は原則サブスペシャルティ専門医取得に向けた研修を継続しますが、内科専門医を取得した場合には計 3 年間でのプログラムの修了も可能とします。当研修では、主担当医として、入院から退院ま

での診断・治療を通じ、患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整の全人的医療を実践し、個々の患者に適切な医療の提供、計画を立て実行する能力の修得をもって目標の達成とします。当院は急性期病院かつ地域の病診・病病連携の中核病院であるため、高度な急性期医療のみならず、コモンディジーズ、また超高齢社会特有の複数病態を持った患者の診療、さらには必要に応じて診療所 ( 在宅訪問診療施設等含む ) との連携等の経験も可能です。専攻医 3 年修了時には「研修手帳」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験し、内科専門医取得を目指します。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 墨東病院 | | | | | | | | | | | |
| | 最初の 1 年間は墨東病院での内科研修（ER2 ヶ月含む）。ローテーション科は初期研修での達成度に応じて決定されます。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 連携施設 | | | | | | | | | | | |
| | 連携病院でサブスペ研修 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 墨東病院 | | | | | | | | | | | |
| | 墨東病院でサブスペ研修（救命センター含む） | | | | | | | | | | | |
| 4 年次 | 墨東病院 | | | | | | | | | | | |
| | 希望により墨東病院でサブスペ研修を継続し専門医取得 | | | | | | | | | | | |

## ● 多摩総合医療センター（基幹施設）
## 東京都立多摩総合医療センター内科専門研修プログラム

プログラム責任者：内分泌代謝内科　佐藤　文紀
プログラム研修期間：3 ～ 4 年（内科専門研修としては最短 3 年。一部サブスペシャリティ連動研修も可能。）

当院では、過去 10 年間に 100 名を超える内科系シニアレジデントの後期研修を担ってきた経験と実績があります。

基幹施設の内科系専門診療科には、総合診療科（内科研修における総合内科領域も担当）、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、内分泌･代謝内科、腎臓内科、リウマチ膠原病内科、血液内科、感染症科、緩和ケア科があります。また、脳神経内科領域は、多摩総合にある神経脳血管内科では急性期脳血管障害が中心となります。神経難病の診療は主に都立神経病院脳神経内科で経験してください（別病院のため、連携施設研修扱いです）。救急外来・救命の計 3 か月は必修となっています。

内外のローテーションを通じて、内科専門医取得に必要な疾患群と症例をしっかり経験します。カリキュラムは，1 年目は各診療科をローテーション（原則 3 か月単位、一部診療科は 1.5 か月限定）、2 年目を中心に主に他県の連携施設等で研修、3 年目は専門内科で研修、という 3 年が基本ですが、連携施設の選択やその時期については予め志望専門内科分野の責任医師と相談しながら検討します。連携施設等での研修は、原則として合計 1 年（採用枠により合計 1 年半）が必須です。

内科専攻医の当直は月 4 回程度の救急外来当直からはじまります。

JMECC を早いうちに受講します。JMECC 受講済なら当院開催等でアシスタントを担い、インストラクターを目指してください。

専門内科サブスペ領域との連動研修は考慮していますが、本プログラム自体の年限は 3 年間でありサブスペ研修完遂まではカバーしておりません。ただし、J-OSLER の模範的な進捗を含めた内科研修実績等に基づき、さらに 1 年のサブスペ研修が考慮されることがあります。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 内科 1 | | | 救急外来 / 救命 | | | 内科 2 | | | 内科 3 | | |
| | 【1 年目】3 か月 1 単位を原則としたローテーション研修を行う。救急外来 / 救命の計 3 か月は必修。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 連携施設 | | | | | | | | | | | |
| | 【2 年目】東京都外の施設を中心とした連携施設研修を行う。施設によっては外来診療にも携わる。内科学会への病歴要約提出準備を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 専攻内科 | | | | | | | | | | | |
| | 【3 年目】病歴要約 29 編を提出する。専門診療科での研修を基本とし、週 1 回の外来診療にも従事する。 | | | | | | | | | | | |

## 多摩北部医療センター（基幹施設）
## 多摩北部医療センター施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：副院長　村﨑　理史　　プログラム研修期間：3 年

多摩北部医療センターを基幹施設とする、東京都北多摩北部医療圏 ( 人口約 74 万人 ) 中心の総合内科専門医育成を目的とした内科標準タイプ研修プログラムです。当院は医療圏の中心的な急性期病院であり、北多摩北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とともに研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指せます。

上記の様に多くの施設と連携を組んでおり、基幹施設である多摩北部医療センターでの 2 年間と連携施設群での 1 年間で、内科専攻研修において求められる「疾患群数」、「症例数」、「病歴提出数」を充分に得ることができます。さらにサブスペシャリティを中心とした専門研修プログラム構築にも柔軟に対応しており、専攻医の希望に沿った研修も行っています。また、当院のみでもカリキュラムに示す内科領域 15 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療していますが、連携病院とともにさらなる研修のレベルアップを図っていきます。

症例をある時点で経験するということだけではなく、主治医として、初診、入院から退院、外来通院まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。研修達成度によっては 4 年目に subspecialty 研修を行い専門医を目指すことも可能です。

当院は病床数 337 で、うち内科病床数 178 の初期臨床研修制度基幹型教育特殊病院（研修医 5 名 / 年）でもあり、研修に必要な医学教育アメニティを整備しています。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 内科診療科（院内） | | | | | | ＥＲ研修 | | | 内科診療科（院内） | | |
| | 総合内科外来（初再診）、内科系、循環器系もしくは地域医療当直研修、ＪＭＥＣＣ受講 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 内科サブスペシャルティ研修（連携施設） | | | | | | 内科サブスペシャルティ研修（院内） | | | | | |
| | 総合内科外来（初再診）、内科系もしくは地域医療当直研修、内科専門医取得のための病歴提出準備 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 内科サブスペシャルティ研修（院内） | | | | | | | | | | | |
| | 救急医療・領域で症例経験の足りないところを地域医療で重点研修、病歴作成完成、サブスペシャリティを見据えた研修 | | | | | | | | | | | |
| 4 年次 | 内科サブスペシャルティ研修（院内） | | | | | | | | | | | |
| | 各サブスペシャリティの専門医を目指す専門研修 | | | | | | | | | | | |

## 多摩南部地域病院（基幹施設）
## 多摩南部地域病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

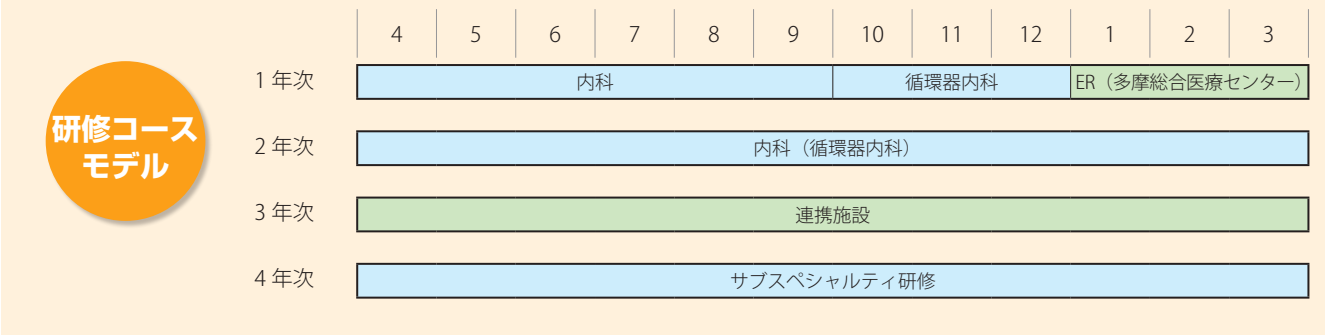
プログラム責任者：内科　本城　聡　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年（一部サブスペシャルティ連動研修有）

内科専門プログラム（4 年コース）の研修で、連携施設である多摩総合医療センターあるいは多摩北部医療センターなどでの研修を含みます。また、内科専門医取得を目指しながら、多摩南部地域病院において希望する内科サブスペシャリティ分野の研修を並行して行うことも可能です。

多摩南部地域病院では、内科専門医取得のための症例経験を積むことが出来る他、循環器、呼吸器、消化器、糖尿病、リウマチ膠原病の内科系サブスペシャルティ研修に対応します。当院は、東京都 CCU ネットワーク加盟病院、消化器領域では病棟回診・カンファレンス・内視鏡検査など外科との一体的診療体制、緩和ケア病棟併設、多摩市周辺地域でリウマチ膠原病内科病棟を有する唯一の施設、などの特徴を有しております。また、多摩総合医療センターとは、指導医クラスの人材交流、患者の紹介・逆紹介、施設間カンファレンス開催など、近年、連携を強化していますので、当院のような中規模病院との組み合わせ研修により幅の広い診療経験を積むことができます。

多摩市周辺は、都心と異なり人口規模に比して急性期病院が多くありません。このため、内科急性期医療のニーズがとても大きく、豊富な症例に恵まれた研修環境です。しかも中規模病院のため内科の各分野間においてシームレスな連携をとっています。マルチプロブレムを抱える高齢者医療の必要性が高まる中、個々の患者さんに全人的・包括的視点で取り組む中で、内科専門医としての総合力を高めることができます。

# 内科

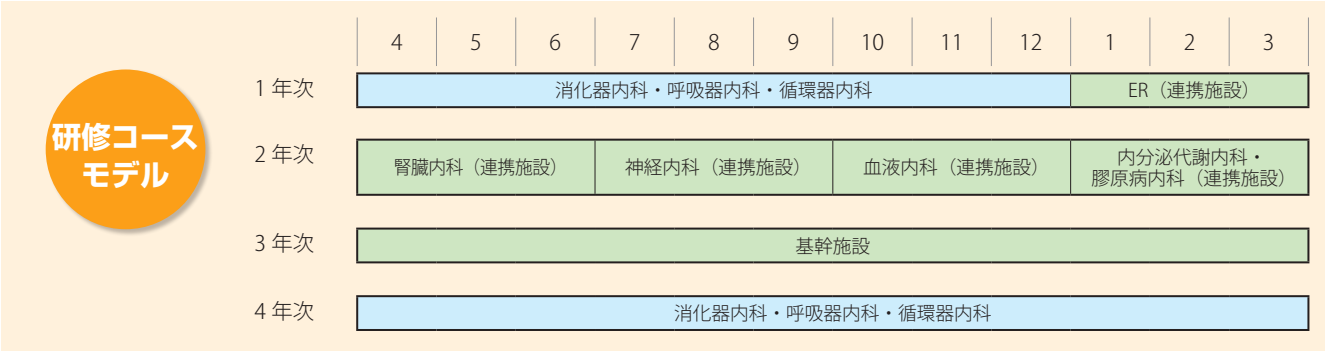



## ● 東部地域病院　（連携施設）

指導医責任者：内科　鈴木　聡子

研修は、東部地域病院と基幹施設病院の研修に加えて、他の連携施設等をローテーションして、内科全般の診療、技量の能力を身に付けた後、消化器、呼吸器、循環器いずれかの専門科の研修を進めていきます。

内視鏡検査（上部、下部、気管支鏡）、心臓カテーテル検査、超音波検査など幅広い技術を習得できます。各種内科学会への参加、発表を行います。




## ● 神経病院　（連携施設）

指導医責任者：脳神経内科　蕨　陽子

当院の脳神経内科コースは、広く都立病院の脳神経内科医療を担う神経内科専門医、またリサーチマインドを持った専門医の育成を目的としています。

(1) 都立病院（多摩総合医療センター、多摩南部地域病院、荏原病院）を基幹施設とし、4 年間で内科と神経内科の 2 つの専門医を目指すコースです。当院は日本神経学会の教育施設であり、神経内科専門医試験の高い合格率を誇ります。

(2) 脳神経内科は全国最大規模の病床数（204 床）と指導医数（27 名の各科指導医）を有し、あらゆる神経疾患に関する知識や診療技術を身につけることができます。スタッフには神経生理、神経病理、神経放射線、高次機能、認知症、筋疾患、免疫性疾患、臨床遺伝学などのエキスパートがいます。地域療養支援、訪問診療の研修も行っており、診断の初期から終末期に至るまでの患者サポートや緩和ケア、多職種連携、地域連携を学ぶことができます。

(3) 症例検討会や CPC をはじめとした各種カンファレンスは充実しており、また医師アカデミー生対象の講義が年 25 回と電気生理学に特化した講義が年 8 回組まれています。

(4) 臨床研究や学会発表、論文執筆にも力を入れています。

(5) なお、当院は連携施設であり、当院での研修は、基幹施設のプログラムにおける連携研修の一部として行われます。そのため、下図のコースは一例であり、多様性があることをご理解ください。

## 研修コースモデル

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 内科各科ローテーション（基幹施設） | | | | | | | | | ER 研修（基幹施設等） | | |
| | 説明：基幹施設での勤務を主体として、必修の救命救急短期研修と、専門医取得のために必要な内科症例や脳血管疾患の研修を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 連携研修（神経病院、または当院以外の連携病院） | | | | | | | | | | | |
| | 説明：基幹施設の連携研修として、基幹施設の連携施設である神経病院、または他の連携病院で内科および脳神経内科の研修を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 脳神経内科病棟 1，高次機能 | | | 脳神経内科病棟 2，神経放射線 | | | 脳神経内科病棟 3，神経生理 | | | 脳神経内科病棟 4，神経病理 | | |
| | 説明：神経病院での勤務を主体として、脳神経内科の各病棟医長の指導を受けながら，サブスペシャリティ研修も並行して行う。 | | | | | | | | | | | |
| 4 年次 | 脳神経内科病棟 5，リハビリテーション | | | 院内他科研修 | | | 脳神経内科病棟 6，神経耳科・神経眼科 | | | 脳神経内科病棟 7，神経精神科 | | |
| | 説明：神経病院に勤務し、脳神経内科病棟研修とサブスペシャリティ研修に加え、脳外科、小児科、放射線科などの院内他科研修も選択できる。 | | | | | | | | | | | |

（広尾病院 研修風景（心臓カテーテル））

（大塚病院 内科研修風景 ( 内視鏡 )）

（大久保病院 院内研修風景）

（多摩北部医療センター 研修風景）

# 外科

## 採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎墨東病院

○広尾病院
○大久保病院
○大塚病院
○駒込病院
○豊島病院
○荏原病院

◎多摩総合医療センター

○多摩北部医療センター
○東部地域病院
○多摩南部地域病院
○小児総合医療センター
○松沢病院

## 研修プログラムの特徴

### ● 墨東病院（基幹施設）
### 都立墨東病院外科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：外科　髙橋　道郎　　プログラム研修期間：3 年

基幹施設は墨東病院で、都立 7 病院と連携しています。外科研修で必要な領域すべてを網羅し、東京都の色々なエリアを含んでいます。本プログラムの目的は以下の通りです。

（1）　手術ができる外科医を育てる

外科専門研修の時期に一番大事なことは、とにかく手術を多くすることです。本プログラムでは、3 年間で術者を少なくとも 200 例以上経験することを目指します。外科専門医の最低必要経験症例 350 例、術者経験数 120 症例を、短期間のうちに経験できます。

○ 2026 年卒業の外科専修医：経験症例約 560 例、術者経験約 260 例／ 3 年間

（2）　研究発表、論文発表も積極的に指導

学術活動は、手術と同様に臨床医として必要不可欠なものであり、外科専門研修の時期に学んでおくべきものです。本プログラムでは、研究発表、論文発表のスキルを経験豊富な指導医が、積極的に指導し、研修に必要な 20 単位を大きく上回る業績を達成します。

○ 2026 年卒業の外科専修医：全国学会での研究発表 4 件、英文論文発表 1 件

（3）　サブスペシャルティに繋がる研修

基幹病院、連携病院を含めて、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科に加え、内視鏡外科、肝胆膵外科、乳腺外科などすべての領域で最前線の医療を行っているため、外科専門医を取得の上、希望のサブスペシャルティ領域に繋がる研修をすることができます。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 一般外科 | | | 上部消化管外科 | | | 救命／ ER 研修 | | | 乳腺外科 | | |
| | 3 ヶ月毎に 1 年次に習得すべき領域を研修します。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 下部消化管外科 | | | 肝胆膵外科 | | | 胸部外科研修 | | | 駒込病院 | | |
| | 2 年次で必要経験症例数達成を目指します。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 上部消化管外科 | | | 上部消化管外科 | | | 大塚病院 | | | 肝胆膵外科 | | |
| | 専門科やサブスペシャリティーにつながる研修を選択できます。 | | | | | | | | | | | |

### ● 多摩総合医療センター（基幹施設）
### 都立多摩総合医療センター施設群外科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：血管外科　保坂　晃弘　　プログラム研修期間：3 年

外科専門医を取得するための研修プログラムが主体です。専門研修期間は 3 年で、基幹病院または連携施設群のいずれかに所属し研修を行います。（どちらも最低 6 か月ローテーションすることが規則になっています。）3 年間で一般外科 / 救急 / 消化器 / 呼吸器 / 乳腺・内分泌 / 血管 / 小児などの分野を原則 3 ケ月を単位としてローテイトし、分野毎に

集中的に研修を行います。希望があれば心臓血管外科のローテーションも可能です。がん診療を重点的に研修するために、駒込病院の研修期間を長くしたり、また呼吸器外科を目指すために、呼吸器外科の研修期間を長くするなど、目的に応じて研修内容を調整することができます。手術経験数は、平均すると術者 200 例程度、助手 300 例程度です。多摩総合医療センターでは、手術動画を院内 LAN から視聴でき、手術の予習・復習が可能です。また内視鏡手術練習のための共用のドライボックスもあり、随時使用が可能です。また平成 30 年より手術支援ロボットダヴィンチが導入され、外科では胃癌、直腸癌、膵腫瘍、肝腫瘍、呼吸器外科では肺癌、縦隔腫瘍、重症筋無力症に対する胸腺摘出が施行されています。シミュレーターなどでの練習も可能で、術者ライセンスも取得することができます。消化器外科、呼吸器外科に関して、希望により研修終了後サブスペシャリティの消化器外科専門医、呼吸器外科専門医取得を目指し、4 年目以降在籍することも可能です。

研修コースモデル

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 乳腺外科 | | | ＥＲ・救命センター | | | 血管外科 | | | 肝胆膵外科 | | |
| 2 年次 | 下部消化管外科 | | | 下部消化管外科 | | | 上部消化管外科 | | | 連携施設 | | |
| 3 年次 | 連携施設 | | | 呼吸器外科 | | | 上部消化管外科 | | | 肝胆膵外科 | | |

## ● 広尾病院　（連携施設）

指導医責任者：外科　村瀬　秀明

当科では、後期研修医が身につけるべき急性虫垂炎や鼡径ヘルニア、胆石症・急性胆嚢炎などの症例が豊富です。基本的にこれらの疾患は、すべて後期研修医が執刀医として手術を担当することになります。また、食道癌・胃癌・大腸癌・肝胆膵悪性疾患についても、各領域の専門医が担当していますので、すべての臓器をローテーションし、様々な手術手技を学ぶことが可能です。3 年のプログラムの中で、各臓器チームを 2-3 回ローテイトすることになりますので、step by step で指導を受け、スムーズな skill up が可能なプログラムとなっています。当院には ER が併設されており、外科でも 1 次から 3 次救急まで対応しています。急性腹症、自然気胸、外傷などを中心に様々な救急疾患を受け入れていますので、緊急手術ならびにその周術期管理も習得できます。担当した救急患者については、主治医として緊急手術から術後管理まで担当することで、多くのことを学べます。また、3 か月程度 ER に出向し、集中的に救急治療を学んでもらうことが可能です。外科専門医取得に必要となる心臓・大血管や呼吸器外科手術も症例豊富ですので、当院での研修だけで必要な症例数を経験することが可能となっているのも特徴です。当科では、手術手技や周術期管理のみならず、診断にも力を入れていますので、後期研修医には内視鏡検査も指導しています。以上のように 3 年間の研修で、診断・手術・周術期管理につき総合的に大きく skill up できる研修プログラムを組んでいます。また、専門医取得も最短期間で可能です。

研修コースモデル

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 上部消化管 | | | 下部消化管 | | | 肝胆膵 | | | 呼吸器・乳腺 | | |
| 2 年次 | 墨東病院 | | | | | | 上部消化管 | | | 下部消化管 | | |
| 3 年次 | ER | | | 肝胆膵 | | | 呼吸器・乳腺 | | | 上部消化管 | | |

# 外科

## 大塚病院　（連携施設）

指導医責任者：外科　大島　令子　　プログラム研修期間：3 年

大塚病院外科では、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科という 4 つの分野で、良性疾患から悪性疾患の手術までを研修していただけます。

胸腔鏡・腹腔鏡手術の普及に伴い、大塚病院外科では、多くの手術が鏡視下手術で行われております。呼吸器外科手術は、ほぼ全例で胸腔鏡下手術を行っております。消化器外科では、虫垂炎、鼠径ヘルニア、胆石症といった良性疾患から、胃癌、大腸癌といった悪性疾患まで、ほとんど全ての症例で腹腔鏡下手術を行っております。後期研修医の方にも、術前に十分な指導・シミュレーションを行い、初めて経験する手術からでも腹腔鏡・胸腔鏡手術を執刀していただきます。習熟度に応じて、腹腔鏡下虫垂切除術など低難易度手術から、腹腔鏡下胃切除術・大腸切除術など難易度の高い手術へ進みます。術後はビデオカンファレンスで指導医から次回に改善する点を共有します。乳腺外科では、マンモグラフィーの読影、エコー・生検の手技、そして手術、さらには抗がん剤治療までの全てを外科だけで学ぶことができます。小児医療にも重点を置いており、新生児から小児まで多くの手術を経験できます。このように一人ひとりの後期研修医に幅広い分野で手厚い指導ができるのが、大塚病院外科の最大の特徴です。基幹施設での修練では、当院で十分な経験が難しい心臓血管外科・外傷外科などを経験することが可能です。当院のプログラム修了後は、東京科学大学、日本大学、東京医科大学、埼玉医科大学など東京近辺の大学の外科医局への入局の推薦も可能です。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 消化器外科 | | | 小児外科 | | | 呼吸器外科 | | | 乳腺外科 | | |
| | 4 つの分野を適宜ローテイトしチームの一員となり、各分野の周術期管理と手術全体の流れを習得。低難易度手術は全例後期研修医が執刀。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 墨東病院 | | | | | | 消化器外科 | | | 小児外科 | | |
| | 基幹施設の 6 か月間で、当院で経験不可の心臓血管外科などを経験。2 年目のローテイトでは中難易度手術の執刀まで進み、専門分野の選択に入る。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 呼吸器外科 | | | 乳腺外科 | | | 自由選択 | | | 自由選択 | | |
| | 3 年次の後半では自身で決めた専門分野を自由選択し、より難易度の高い手術へ進みます。 | | | | | | | | | | | |

## 駒込病院　（連携施設）

指導医責任者：外科　脊山　泰治

駒込病院は山の手の静かなエリアである文京区に位置します。良い環境で落ち着いて外科医としての基本を身につけませんか？

**・外科専門医を取得できます（積極的に術者経験を！）**

様々な症例の経験をしながら術者件数を確保するために、1～2 年次に術者経験ができる診療科を中心に選択してローテイトできます。また小児外科、血管外科はなるべく 2 年次までに症例経験できるように調整します。3 年次は消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科など次のサブスペシャルティに連動できるように自由選択となっていますので、次に繋がる研修をデザインできます。卒業生は症例経験 350 例、術者経験 120 例の外科専門医の必修条件を十分クリアしています。

**・がん専門病院における研修のメリット**

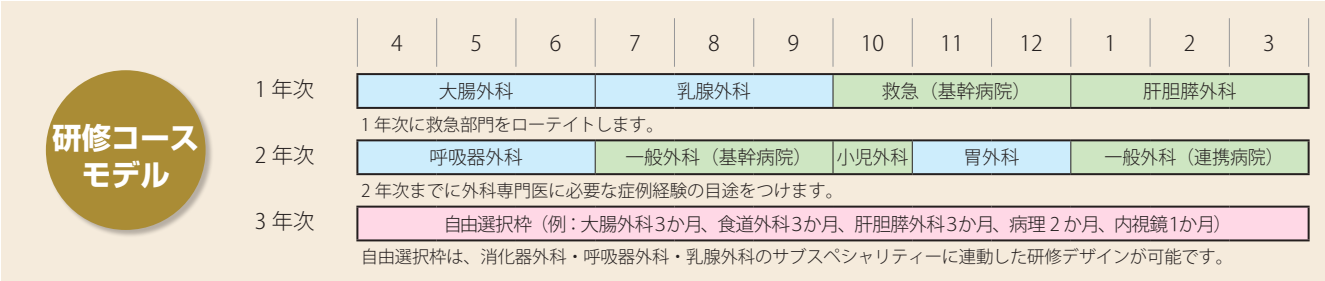
食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、乳腺外科の 6 領域が専門領域の治療に専念しており、ロボット支援手術、内視鏡外科手術など各領域の最先端手技を学べます。遺伝子診断、免疫チェックポイント治療薬も積極的に導入しており、最先端医療を学べます。

**・ロボット外科医教育**

近年、急速に普及したロボット支援下手術ですが、当院には既に da Vinci Xi が 2 台入っており 3 台目として SP（シングルポート）も導入されました。外科専門研修でもシミュレーター訓練、実機訓練などを行い certificate 取得のサポートをして、ロボット時代の外科医育成に力を入れています。

**・学術活動指導体制**

学会発表、症例報告、論文執筆など経験豊富な指導医が多く在籍しており、学術活動の機会は多くあります。研修中に英文報告の執筆指導も行います。



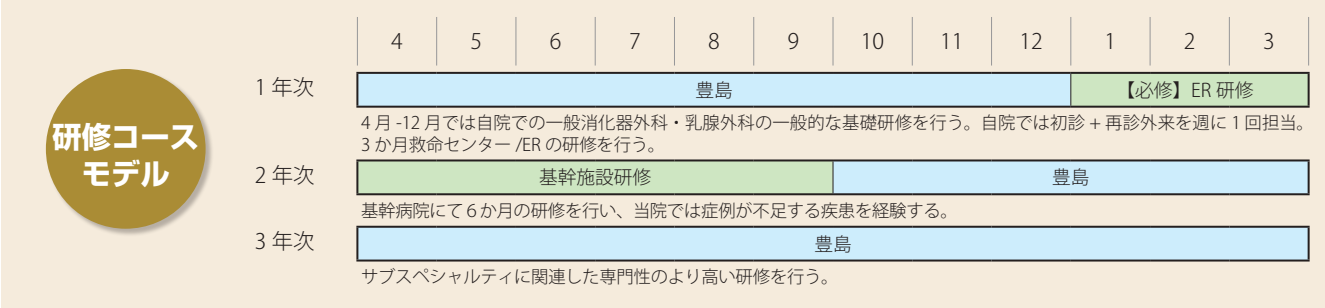

## ● 豊島病院　（連携施設）

指導医責任者：外科　飯田　聡

豊島病院外科は東京医師アカデミーの外科基幹病院・墨東病院外科プログラム及び多摩総合医療センター外科プログラムの連携施設となっています。各プログラムにおいて豊島病院所属を選択することで、豊島病院を中心とした研修を行うことも可能です（基幹施設において 6 か月以上研修する必要があります）。

豊島病院には消化管（食道、胃、大腸）、肝胆膵、乳腺外科の各専門医が在職しており、専門的な診療を行っています。呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科医はおりません。

外科手術件数は年間約 800 ～ 900 例で、初期研修医、外科専攻医の皆さんも能力に応じて多数例の手術の執刀や処置を経験することができます。手術以外にも内視鏡検査や PEG、EMR、ESD、EST などの内視鏡的治療、PTCD、CT 下ドレナージや神経ブロック等の IVR 、DMAT チームを中心に医療救護班活動や大規模災害訓練などの災害医療にも外科医が積極的に取り組んでいます。当院では " 断らない救急 " をモットーに、二次救急指定病院として救急医療にも積極的に取り組んでいます。若い医師には忙しくはありますが、多数例の手術症例を経験することができ大変勉強になると思います。




## ● 荏原病院　（連携施設）

指導医責任者：外科　吉利　賢治

外科研修プログラムは、都立墨東病院を基幹とし、当院は連携施設としてプログラムに参加します。しかし連携施設の採用でも、当院で研修できない領域を基幹施設での研修で補う形で、専門医の取得が可能となります（基幹病院での研修は最低 6 か月は必要です）。当院の外科には、消化器・一般外科、乳腺外科があります。消化器・一般外科は年間手術数約 350 例、地域医療の中核病院として急性虫垂炎、痔核、鼠経ヘルニア他、胆石症などの外科研修の初期に経験すべき低難度手術症例から、消化管穿孔、急性胆のう炎、絞扼性イレウスなどの緊急手術や胃癌、大腸癌といった消化管悪性腫瘍の手術も術者としての経験が可能です。これらは腹腔鏡下手術が主となっております。また肝胆膵領域の悪性腫瘍などの高難度手術に対しては、開腹手術にて積極的に取り組んでいます。

乳腺外科は年間約 50 例、乳腺腫瘍を中心に手術を行っています。当院はあまり専門に特化した病院ではなく、多く

の症例を扱う市中病院であり、そのため若手医師が外科研修を始める病院としては最適の施設ではないかと自負しております。当院では現状はロボット支援下手術は導入しておらず、そのため若手外科医が多くの手術を経験することができます。大人数の外科ではないですがスタッフは皆、各分野の指導医、専門医資格を有し、外科の基礎からマンツーマンで指導する体制をとっています。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 消化器・一般外科 | | | | | | | | | | | |
| | 虫垂炎、ヘルニア、痔核、胆石などの低難度手術を対象に術者として多数の症例を執刀し、外科の手術手技の基礎を学ぶ。症例報告などの学会発表も経験する。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 乳腺外科 | | | 呼吸器外科 | | | 墨東病院 | | | | | |
| | 外科専門医取得に必要な様々な分野の症例を経験する。当院では経験できない疾患は基幹病院ローテイトで経験してもらう。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 消化器・一般外科 | | | 呼吸器外科 | | | | | | 消化器・一般外科 | | |
| | 外科専門医取得に必要な症例数を確保していることを再確認する。外科専門医に続くサブスペシャルティの希望にも配慮してしてローテイトさせる。 | | | | | | | | | | | |

## ● 東部地域病院　（連携施設）

指導医責任者：外科　北島　政幸

一般外科診療に対する総合的な知識と技量を習得した医師を育成し、地域医療に貢献することを目標としています。また当院では、患者様だけでなく、医療従事者にも最良の環境を提供することを目指し、直腸癌、結腸癌い対するロボット支援下外科手術を導入しています。様々な手術に積極的に参加、体験してもらい将来の医療の最前線で活躍するための準備ができるように努めています。

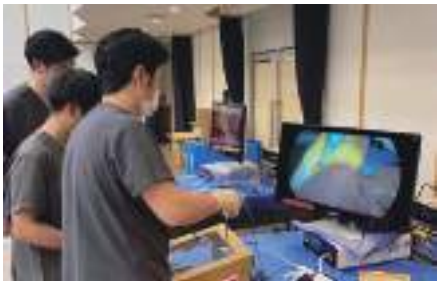
**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 消化器外科・一般外科・小児外科 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | ER/ 救命救急研修（連携施設） | | | 呼吸器外科（連携施設） | | | 消化器、一般外科、小児外科 | | | 心臓血管外科（連携施設） | | |
| 3 年次 | 消化器外科・一般外科 | | | | | | | | | | | |

（駒込病院外科 ロボット実習）

（駒込病院外科 ロボットシミュレーター訓練）

（駒込病院外科 消化管吻合実習）


（駒込病院 腹腔鏡下胆嚢摘出術のハンズオン実習）

（豊島病院 外科手術の様子）

## 採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎墨東病院

○大塚病院
○駒込病院

◎多摩総合医療センター

○多摩北部医療センター

## 研修プログラムの特徴

### ● 墨東病院（基幹施設）
### 都立墨東病院産婦人科専門研修プログラム

プログラム責任者：産婦人科　兵藤　博信　　プログラム研修期間：3 年

当院産婦人科は、東京都区東部唯一の総合周産期センターを新生児科とともに運営する周産期医療の要としての役割と、国の定める地域がん拠点病院における婦人科癌診療の中心施設としての側面で成り立っています。周産期部門では、年間約 1000 件の分娩を取扱い、とくにきわめて早い時期の早産や、ハイリスク妊娠、さまざまな合併症妊娠に対応し、広範囲から送られる母体搬送の件数は年間 200 件を超え、都内随一です。当院の研修では、正常分娩から鉗子分娩などの産科手術、帝王切開手術に数多く臨むことができます。婦人科部門では、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌をはじめあらゆる婦人科悪性腫瘍に対し、手術療法、放射線療法、抗癌剤による化学療法を数多く行っています。研修では多くの手術を経験し、さまざまな治療法を組み合わせた治療の計画に参画し、術前術後管理など、外科的治療の基本を学ぶことができます。良性疾患に対して、可能なものは腹腔鏡手術を行っています。開腹手術を含め、手術の執刀まで研修期間中に行うことが可能となります。当院産婦人科は、日本産科婦人科学会の専攻医指導施設であるばかりでなく、日本周産期・新生児医学会の周産期専門医（母体・胎児）認定基幹施設に、また日本婦人科腫瘍学会の婦人科腫瘍専門医指定修練施設に指定されており、それぞれの複数の専門医が研修指導にあたります。また、当院が 1 次・2 次および 3 次救急施設、精神科救急施設であることから、産科救急、婦人科救急の症例にも多く接する研修が可能です。第一目標は産婦人科専門医資格の取得です。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 周産期研修 | | | 周産期研修 | | | 周産期研修 | | | 婦人科研修 | | |
| | 周産期医療の基礎を学び、基本的な診療手技を身につけることが第一に必要である。産婦人科医療に対する基本を習得した段階で、婦人科手術に臨む基本的態度を身につける。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 地域医療（焼津市立総合病院） | | | 地域医療（焼津市立総合病院） | | | 生殖医療（聖路加国際病院） | | | 生殖医療（聖路加国際病院） | | |
| | 地域医療に接することにより、産婦人科医療の現状に対する視野を広める。焼津市立総合病院は、生殖医療も行っているので、生殖医療に接することも可能である。さらに、都市部における産婦人科医療に接するために、聖路加国際病院の勤務も可能である。また、東京大学医学部附属病院を選択することも可能である。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 婦人科研修 | | | NICU 研修 | | | 周産期研修 | | | 周産期研修 | | |
| | 悪性腫瘍診療における病棟業務を学びとる。再び周産期医療を行う前に NICU 研修を受け、新生児側の視点を身につけた後に、帝王切開の術者が可能となる。 | | | | | | | | | | | |

### ● 多摩総合医療センター（基幹施設）
### 東京都立多摩総合医療センター産婦人科研修プログラム（東京医師アカデミー専門研修プログラム）

プログラム責任者：産婦人科　本多　泉　　プログラム研修期間：3 年

東京都立多摩総合医療センター産婦人科研修プログラムは、専門医養成組織である東京医師アカデミーの専門研修プログラムの一つです。基幹施設である当院は、地域がん診療拠点病院で、全国的にも上位に位置する年間 160 件以上の婦人科悪性腫瘍手術件数を有します。また都立小児総合医療センターともに総合周産期母子医療センターの指定を受けており、年間約 200 件以上の母体搬送、20 件以上のスーパー母体救命症例を受けいれています。また、都立病院としての立場から、産科・婦人科ともに多くの困難症例を対応しています。研修は 1 年目と 3 年目を基幹施設である当院産婦人科、2 年目を東京都内もしくは神奈川県内の連携施設で行います。連携施設では、生殖補助医療と地域

# 産婦人科

医療を研修します。当院では婦人科腫瘍、周産期、女性のヘルスケアの 3 領域を全期間通して研修していただきます。当院は、基本専門研修修了後の婦人科腫瘍専門医、周産期専門医（母体・胎児）、女性ヘルスケア専門医、内視鏡技術認定医の修練施設でもあり、サブスペシャルティ領域までカバーする質の高い指導医が在籍しています。3 年次の当院産婦人科研修では、サブスペシャルティ領域の専門医取得に向けた機会を提供することも可能です。ゲノム診療科を兼任する臨床遺伝専門医も複数在籍しており、腫瘍・周産期いずれの領域でも必須となる臨床遺伝領域に関して早期から実臨床で触れる機会があります。3 年間で本邦の標準治療や先進的な医療と地域の実情に合わせた実践的な医療を行える人材の育成を目指します。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 産婦人科（多摩総合医療センター） | | | | | | | | | | | |
| | 産婦人科基礎（正常妊娠・分娩・産褥、正常新生児、婦人科良性腫瘍の診断・治療・手術） | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 連携施設① | | | | | | 連携施設② | | | | | |
| | 連携施設①は生殖補助医療含む生殖内分泌強化可能な病院。連携施設②は産婦人科地域医療の経験可能な病院。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 産婦人科 | | | | | | | | | | | |
| | 産婦人科応用（ハイリスク妊娠・分娩、婦人科悪性腫瘍の診断・治療・手術、腹腔鏡手術） | | | | | | | | | | | |

## ● 大塚病院　（連携施設）

指導医責任者：産婦人科　岩田　みさ子

当院は、東京都区部に存在する総合周産期母子医療センターとして高度な周産期医療を提供し、常時都内上位の母体搬送受け入れ件数を誇るとともに、地域中核病院として、婦人科疾患、女性のヘルスケア診療も行っています。また、恵まれた立地とセンター機能を活用し、さらには基幹施設である多摩総合医療センターや墨東病院での悪性腫瘍症例の経験、連携している東京科学大学病院での生殖医療の研修も含め、バランスの良いキャリア形成が可能なプログラムになっています。

[1 年次 ]　当院にて産婦人科の基本手技の習得を行うとともに、周産期医療における妊産婦管理、婦人科良性腫瘍患者の診断・治療、産婦人科救急医療を中心に研修を行います。妊婦健診、産後 1 カ月健診、一般初診、再診外来を担当します ( 当初は指導医の監督下に行います )。

[2 年次 ]　基幹施設である多摩総合医療センターまたは墨東病院に 6 か月所属し、婦人科悪性腫瘍の診療を中心に研修します。3 ～ 6 か月は多摩北部医療センターで地域医療研修として、婦人科領域全般を広く研修します。より主体的な立場が求められ、知識・技術の定着が期待されます。東京科学大学病院で生殖内分泌診療と婦人科手術を中心に研修を 3 か月行います。

[3 年次 ]　当院にて、これまでの経験をさらに深い知識・技術に深化させます。自分のサブスペシャルティへの方向性を持てるよう、診療内容の調整が可能です。初期臨床研修医、シニアレジデント 1 年目の指導を通じて、自身の知識、技術の再確認、定着を行います。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 大塚病院 | | | | | | | | | | | |
| | 基本手技の習得、妊産婦管理、産婦人科救急、婦人科良性疾患の手術を中心に研修。7 月頃から妊婦健診、一般外来も段階的に担当。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 多摩総合医療センターまたは墨東病院 | | | | | | 地域医療（多摩北部医療センター） | | | 生殖医療（東京科学大学） | | |
| | 多摩総合医療センターまたは墨東病院では悪性腫瘍を中心に研修を行う。地域医療では主体的な立場での診療も期待される。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 大塚病院 | | | | | | | | | | | |
| | 生殖医療研修は 2-3 年目の間で 3 か月間。3 年目は大塚病院でシニア 1 年次の指導も行い知識、技術を深化させるとともに専門医受験への準備を行う。 | | | | | | | | | | | |

## 採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎大塚病院
◎墨東病院
◎小児総合医療センター

〇広尾病院
〇豊島病院
〇荏原病院
〇多摩北部医療センター
〇神経病院

## 研修プログラムの特徴

### ● 大塚病院（基幹施設）
### 大塚病院施設群小児科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：小児科　古道　一樹　　プログラム研修期間：3 年

本プログラムは子どもの総合医育成を目的としており、特定の専門領域に偏ることなく幅広い研修が可能です。1・2 年目は都立大塚病院小児科で研修します。小児科指導スタッフは多彩な専門分野を幅広く網羅し、common disease のみでなく、複雑な背景を有する慢性疾患の診療を行っています。当科は基幹施設として 2 次までの救急患者を受け入れており、小児科医として欠くことのできない急性疾患の初期対応から集中治療管理まで一連の研修ができます。また、当院は東京都西北部の周産期医療を担う総合周産期母子医療センターであり、MFICU、NICU、GCU を有し、専門的な新生児医療の研修ができます。さらに当院には小児外科医、小児脳神経外科医、児童精神科医の常勤医がおり、小児の外科的疾患から心の問題まで幅広く経験できます。専門研修 3 年目に最長 9 か月間、連携施設である小児総合医療センター、日本大学医学部附属板橋病院、慶應義塾大学病院で、更なる専門領域の研修を行います。乳幼児健診・予防接種などの小児保健・社会医学は、3 年間を通じて研修します。診療体制としてチーム制を導入しており、月 4 ～ 6 回の日当直業務の翌日はオフとしています。また、互いにカバーし合うことで、duty free の週末を作れるようにサポートします。一般外来診療では、1 年目の夏から、指導医のアドバイスを受けながら、ひとりで診療していただき、自立を促します。小児科の特徴である generalist としての研修を行うとともに、その先のご自身の方向性を定める機会を提供する、サステナブルな未来につながるプログラムを目指しています。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 一般小児科（独り外来開始） | | | | | | 一般小児科 | | | | | |
| | 1 年次は大塚病院で一般小児科を研修。7 月頃から独り外来診療を開始し、8 月頃から独り当直を始めることを目標に研修を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 一般小児科 | | | | | | 新生児科 | | | 一般小児科 | | |
| | 2 年次も、引き続き大塚病院で一般小児科を研修。途中 3 か月間、大塚病院の新生児科で新生児疾患を研修。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 血液・悪性腫瘍、心臓、集中治療、小児救急など（小児総合医療センター等） | | | | | | | | | 一般小児科 | | |
| | 3 年次は、大塚病院では研修できなかった分野を、外部施設（小児総合医療センター、日大板橋小児科、慶大小児科より選択）で最長 9 か月間研修。 | | | | | | | | | | | |

### ● 墨東病院（基幹施設）
### 都立墨東病院小児科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：小児科　大森　多恵　　プログラム研修期間：3 年

小児科一般領域全体に対応できる小児科専門医になることを目標とします。ほぼすべての領域にわたりもれなく経験できる体制となっています。1 年目は当院小児科のみで 1 年間研修します。2 年目は、当院新生児科（6 ヶ月間）、当院小児科にて研修が不十分な血液・腫瘍疾患（3 ヶ月）・小児麻酔（1 ヶ月間）を院外研修します。3 年目は当院小児科と、各自の希望に基づいた関連施設での研修となります。当院の研修はチーム医療での研修が主体となります。専攻医の下にはジュニアレデント、上には指導医として小児科専門医が配置され、1 チーム 6 名前後で構成されます。院内での各チーム編成と関連施設研修では同学年の研修医は原則 1 名とし、同チーム・同研修施設で重複する研修医

# 小児科

がないように設定します。研修 1 年目から週に 1 回の外来診療（午後）・月 4 回の ER 当直業務を担当します。外来診療では自らが主治医となった患児の退院後の経過観察が主体となります。ER 当直業務では指導医の監督下に小児科医として欠くことのできない救急疾患の対応、急性疾患の管理・慢性疾患の初期対応を研修します。定期的に地域保健所にて乳幼児健診を指導医とともに行い、乳児健康診査・小児保健・社会医学を担当医として研修します。救急を含め症例数は豊富であり、概ね 2 年次までに小児科専門医取得に必要な症例は経験することが出来、学会発表・著者としての論文作成は終了します。そのため、3 年時の研修は半年間を各自の希望により比較的自由に計画することが可能です。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 小児科 | | | 小児科 | | | 小児科 | | | 小児科 | | |
| 2 年次 | 新生児科 | | | 新生児科 | | | 血液・腫瘍疾患（聖路加国際病院） | | | 小児麻酔（小児総合医療センター） | 小児科 | |
| 3 年次 | 小児科 | | | 小児科 | | | 連携施設 | | | | | |

1 年目は当院小児科のみの研修となります。

2 年目は当院新生児科（小児科とは独立しています、6 ヶ月間）、聖路加国際病院（血液・腫瘍疾患、3 ヶ月間）、小児総合医療センター（小児麻酔・1 ヶ月間）、当院小児科（2 ヶ月間）を行います。各研修の順番は他の研修医の研修内容と重複しないように時期を調整するため、順番が前後します。

3 年目は当院小児科（6 ヶ月間）、各自の希望に基づいた院外研修（6 ヶ月間、小児総合医療センターなど）となります。

## ● 小児総合医療センター（基幹施設）
## 小児総合医療センター施設群小児科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：副院長　幡谷　浩史　　プログラム研修期間：3 年

小児科専攻医は総合診療科に所属し、主担当医として患者・家族に接し、チーム制のサポートを得ながら学びます。

また、専門診療科の集まる小児病院の中にあって、総合診療科は小児科医の基本・中核を専門とする科であり、病気を診るのではなく人を診る、かゆいところに手が届く医療を実践しています。専門診療科との垣根の低さが当院の特徴の一つであり、一般小児科を超える範囲について、各専門診療科と協力して、より良い医療を提供しています。また、ER 患者（2025 年度 年間約 3.2 万人）および入院症例（平均 42 床）の診療を通じて、小児科の基礎を学び、抱いた疑問 clinical question から臨床研究に結びつけるよう、心がけています。

そして、最も大切にしていることのひとつが若手医師の教育です。3 年間のプログラムで① 1-3 次救急（ER スタッフの協力のもと重症患者・外傷の初期対応、内科 / 外科疾患の入院対応 )、②総合診療科外来 ( 発達・成長障害、健診異常、不定愁訴など、主に急性疾患でない紹介患者さんが対象 )、③予防医療（予防接種、こどもの事故予防、児童虐待）、④若手医師の教育（院外の初期、後期研修医の受け入れ）、⑤自主的な勉強会（外部講師招聘）、⑥国内外の学会発表、論文作成、⑦同期で協力しておこなう前向き臨床研究など、盛りだくさんのことを経験します。⑧年 1 回、院内や医師アカデミー発表を行うことで発表の仕方を学びます。またそのテーマを活かして論文を作成し、専門医試験に備えます。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 総合診療科 | | | | | | | 麻酔科 | 新生児科 | | | 救命救急科 |
| 2 年次 | 総合診療科 | | | | 地域医療 | | | 専門科ローテーション | | | | |
| 3 年次 | 総合診療科 | | | 集中治療科 | | 専門科ローテーション | | | 外来研修 | 総合診療科 | | |

必修診療科：
総合診療科 17 か月（1 年は担当医、2-3 年は中級指導医）、麻酔科 1 か月（1 年 6 月～ 2 年前半）、新生児科 3 か月（1 年 6 月～ 2 年前半）、救命救急科 1 か月（1 年 6 月～ 3 月）、集中治療科 2 か月（2 年～ 3 年前半）、外来研修 1 か月（3 年）
地域医療 3 か月（1 年後半～ 2 年）多摩北部医療センターおよび周辺開業医、松戸市立総合医療センター、山梨大学連携病院

専門診療科（選択）：8 か月(2-3 年)

## 広尾病院　（連携施設）

指導医責任者：小児科　山本　康仁

小児科専門医の取得を目的として、都心の急性期病院である当院と、基幹病院である小児総合医療センターで、幅広く一般小児医療と救急医療を経験します。新生児医療は大塚病院で３ヶ月かけて研修し、専門領域については、小児総合医療センターの各専門診療科で経験できるほか、０～６ヶ月間日本大学医学部附属板橋病院や日本大学病院の専門診療班をローテイトする選択肢もあります。また、研修期間を通じて、予防接種や乳児健診、地域の保健医療・福祉機関や教育分野との連携など、小児科医として必要なスキルを身につけることができます。実際の研修コースは、各人の希望を踏まえ、３年間という限られた時間を有効に使えるよう、指導医と一緒に考えながら作っていきます。

研修コースモデル

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １年次 | 広尾病院 | | | | | | | | | | | |
| １年次は、広尾病院で一般診療と救急医療、正常新生児を幅広く研修する。 | | | | | | | | | | | | |
| ２年次 | 大塚病院新生児科 | | | 小児総合医療センター（総合診療科、各専門診療科） | | | | | | | | |
| ２年次は、大塚病院で未熟児新生児の研修を行うほか、小児総合医療センターで一般診療、救急医療、専門領域の研修を行う。 | | | | | | | | | | | | |
| ３年次 | 広尾病院（日大板橋病院） | | | 広尾病院（日本大学病院） | | | 広尾病院 | | | | | |
| ３年次は、日大板橋病院・日本大学病院を０～６ヶ月選択し、専門診療班で研修を行うことも可能。広尾病院では一般診療に加え、アレルギー疾患、心身症などの経験を積みながら、専門医に求められる知識の総点検を行う。 | | | | | | | | | | | | |

## 豊島病院　（連携施設）

指導医責任者：小児科　中澤　友幸

24 時間体制で救急対応している総合病院であり、一般病院で多くみられる common disease も、大学病院でしかみられないような専門的な疾患も診ることができます。研修初期から主治医として外来・病棟での経験を積むことが可能です。当院で経験することが困難な専門性の高い領域については都立小児総合医療センター（６か月）、順天堂大学医学部附属順天堂医院（血液腫瘍・循環器を各３か月）、順天堂大学医学部附属浦安病院（NICU を３か月）で研修します。地域の乳幼児健診や虐待対応など社会医学的経験を積むことも可能です。

研修コースモデル

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １年次 | 豊島病院 | | | | | | | | | | | |
| ２年次 | 小児総合医療センター（基幹施設） | | | | | | 順天堂医院（血液腫瘍・循環器） | | | | | |
| 基幹施設での研修内容は希望により調整可能 | | | | | | | | | | | | |
| ３年次 | 順天堂浦安病院（NICU） | | | 豊島病院 | | | | | | | | |

## 荏原病院　（連携施設）

指導医責任者：小児科　佐藤　弘之

小児科コースは、小児科専門医の取得を目標として、日本小児科学会専門医研修ガイドラインに準拠して研修を行います。基幹施設は、小児総合医療センターで、当院、及び大塚病院新生児科を連携施設とします。研修期間は、18 ヶ月を小児総合医療センターで、12 ヶ月を当院で、６ヶ月を大塚病院新生児科で研修します。小児科専門医の取得には、感冒などの common disease から症例報告するような稀な疾患まで、幅広い疾患領域を経験する必要があります。また、これからの小児科医には、疾患の診断、治療だけでなく、小児保健、育児支援、健康支援、予防医療など、子どもの健全な発育を総合的に支援できるようになることが求められています。これに対応するように、本コースでは、高度医療を行う専門施設と地域に密着した二次医療機関という複数の施設で研修することによって、general pediatrician から subspeciality まで、臨床から研究まで、幅広く対応できるカリキュラムになっています。

# 小児科

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 小児総合医療センター | | | | | | | | | | | |
| | 1 年時には高度医療施設で、総合診療、三次救急、ICU 管理などを研修する。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 荏原病院 | | | | | | | | | | | |
| | 2 年目から 3 年目の前半は、地域の二次医療機関として、common disease や小児保健を含めた general pediatirician としての研修を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 大塚病院新生児科 | | | | | | 小児総合医療センター | | | | | |
| | 最終年度後半は、subspeciality として、研究テーマをもって研修する。 | | | | | | | | | | | |

## ● 多摩北部医療センター　（連携施設）

指導医責任者：小児科　柴田　映道

多摩北部医療センターは北多摩北部 5 市を保健医療圏とする基幹病院です。地域の中核病院として、小児二次救急医療や医療的ケアの必要な在宅重症児に対する診療、また登校困難や発達障害など幅広く入院を受け入れています。また、神経、腎泌尿器、内分泌代謝、アレルギー、睡眠、消化器、循環器等の専門外来を開設しており、専門性の高い診療も展開しています。このような診療を背景に、救急受患者数は年間延べ 3000 例、入院患者数も延べ 4500 例を超え豊富な臨床経験を積むことが可能です。研修内容は、初年次には小児診療の基本的疾患について学びます。救急外来で初期対応を、また病棟では入院症例の治療計画を自分で立案し、実際の診療を遂行する能力を養います。二年次は半年間小児総合医療センターにおいて、新生児医療、小児集中医療および小児麻酔を 5 か月の研修を行います。最終年では将来の専門を見据えてより高度な医療を小児総合医療センターで選択科を 6 か月間研修してもらいます。このようなプログラムにより、連携施設採用であっても 4 年次以降のサブスペシャルティ研修をしっかりと見据えた小児科専門医の取得が可能となっています。

当科の研修は自主性を重んじます。与えられたプログラムを遂行する型の研修ではなく、自ら問題点を見つけ解決へアプローチするスタイルです。我々指導医は解答を与えるのではなく、一緒に思考する伴走者的な立ち位置です。

こどもは地域で育まれ社会性を身に付けます。ですから、小児医療も地域との関わりが重要です。当院では地域密着型の小児医療研修を提供しています。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 多摩北部医療センター　小児科 | | | | | | | | | | | |
| | 前半…主に入院症例を担当し小児科医としての基礎を学ぶ　/　後半…救急外来にも対応できる能力を養う。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 多摩北部医療センター　小児科 | | | | | | | （小児総）ＰＩＣＵ | | ＮＩＣＵ | | 麻酔 |
| | 前半…一般病床におけるさらなる研鑽を行い、後輩の指導にあたる　/　後半…小児総合にて麻酔科 1 ヶ月、NICU・PICU 2 ヶ月ずつローテイト | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 循環器 | 呼吸器 | 感染症 | 血液 | アレルギー | 皮膚 | ＊府中療育 | 多摩北部医療センター　小児科 | | | | |
| | 前半…小児総合にて専門科 20 領域の中から希望の科を選択　/　後半…一般臨床におけるさらなる研鑽をおこない、チームリーダーとしての自覚をはぐくむ / 希望者は＊府中療育センターにて研修（1 ヶ月） | | | | | | | | | | | |

（小児総合医療センター 小児科・精神科①壮行会）

（小児総合医療センター 小児科・精神科②壮行会）

## 採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎豊島病院
◎荏原病院
◎墨東病院

〇広尾病院

◎多摩総合医療センター
◎小児総合医療センター
◎松沢病院

〇駒込病院

## 研修プログラムの特徴

### ● 豊島病院（基幹施設）
### 東京都立豊島病院精神科専門研修プログラム

プログラム責任者：精神科　奥村　正紀　　プログラム研修期間：3 年

原則、2 年間は基幹施設の当院、1 年間は連携施設をローテイトします。当院では、急性期精神疾患を中心に、統合失調症、気分障害、器質性精神疾患等の主要な精神疾患を経験し、指導医による指導の下、精神科的面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本を習得します。さらに、東京都夜間休日精神科救急での緊急措置診察、精神科身体合併症、コンサルテーション・リエゾン、ECT 等の身体療法、クロザピン導入など、精神科臨床の基礎と多職種によるチーム医療を経験します。テーマ別のクルズスや抄読会などを開催し、研究・学会発表等の指導も受けることができます。連携施設はそれぞれ特色があり、認知症を中心とする器質性精神疾患 ( 健康長寿医療センター、陽和 )、発達障害・摂食障害等を中心とする児童・思春期精神疾患 ( 小児総合医療センター・国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター )、医療観察法病棟での司法精神医療 ( 松沢、国立精神・神経医療研究センター )、リエゾン・コンサルテーション及び精神腫瘍学 ( がん研有明 )、アルコール依存症を中心とする物質使用障害 ( 松沢、成増厚生 )、慢性期精神疾患・地域精神医療・デイケア・アウトリーチ活動 ( 東京足立、恩田第二、小山富士見台、平川、大宮厚生、青梅成木台・多摩中央病院 )、精神保健行政 ( 精神保健福祉センター )、大学病院 ( 東京科学大学・日本医科大学附属病院 ) の中から、関心と希望に基づいた外部研修を行い、幅広い領域の臨床経験を積み、精神保健指定医、精神科専門医の資格取得に必要な症例を学ぶことができます。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 豊島病院 | | | | | | | | | | | |
| | 基幹施設での急性期を中心とする地域精神医療、精神科救急、精神科身体合併症、リエゾンなどの研修を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 小児総合医療センター | | | | 恩田第二病院 | | | | 大宮厚生病院 | | | |
| | 選択した連携施設での研修により、児童思春期、認知症を中心とする器質性精神障害、司法精神医療、精神腫瘍学などの専門領域での研修を行う（例）。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 豊島病院 | | | | | | | | | | | |
| | 基幹施設での研修を再開し、精神保健指定医・精神科専門医等の資格取得準備や学会等での研究発表に積極的に取り組む。 | | | | | | | | | | | |

### ● 荏原病院（基幹施設）
### 東京都立病院機構東京都立荏原病院施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：精神科　成島　健二　　プログラム研修期間：3 年

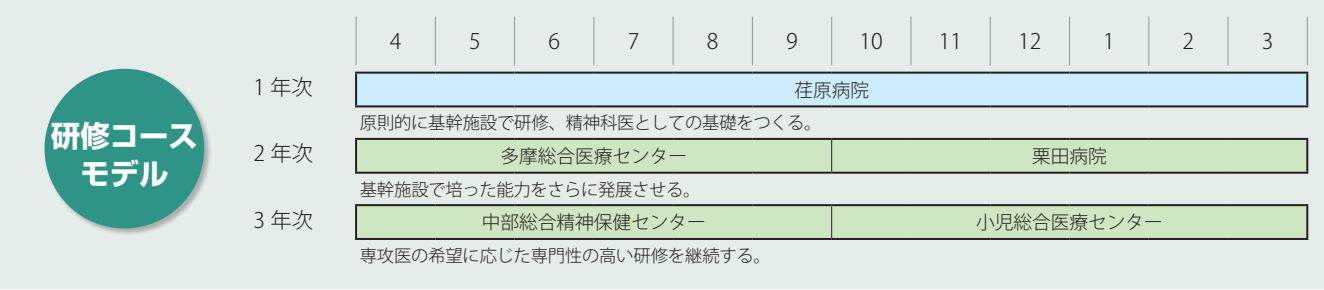
本プログラムは研修基幹施設を含む 10 施設群からなります。基幹施設の東京都立荏原病院は、総合病院の中に有床精神科を持ち、デイケアも併設されています。開放病棟であるにも関わらず重症例や身体合併症を得意とすることが特色です。専攻医は総合病院の豊富な医療資源を生かして最善の治療を行うプロセスを体験することができます。診療は、多職種とのチーム医療を基本とします。以下に連携施設の概略を紹介します。

東京都立小児総合医療センターでは、児童・思春期の精神医療を恵まれた環境で研修することができます。東京都立多摩総合医療センターでは、精神科 3 次救急や、重篤な身体合併症医療の研修が可能となっています。正慶会栗田

# 精神科

病院では、私立単科精神病院での特色ある研修や、精神科リハビリテーションを経験できます。また、東京都立中部総合精神保健福祉センターでは、デイケアやアウトリーチなど、地域と深く結びついた幅広い形の精神科医療を研修できます。横浜市立みなと赤十字病院では東京都とは異なるシステムの精神科３次救急や身体合併症の研修が、東京科学大学や自治医科大学では大学病院ならではの高度に専門化された精神科医療を、柏水会初石病院や翠会成増厚生病院では地域に寄り沿ったその地域ならではの医療が研修できます。

本プログラムでは、基幹施設での研修のみでも十分な精神医学的知識や実践的な治療技法を身につけることができますが、連携施設で研修を継続することによって、高レベルでユニークな精神科医となることが可能となっています。




## ● 墨東病院（基幹施設）
## 都立墨東病院精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：精神科　佐々木　健至　　プログラム研修期間：３年

本研修プログラムは、基幹病院の墨東病院神経科での業務を中心とし上記の連携施設での研修を組み合わせることにより、広範で多彩な精神科臨床を経験できます。墨東病院での主な業務は以下の４つです。

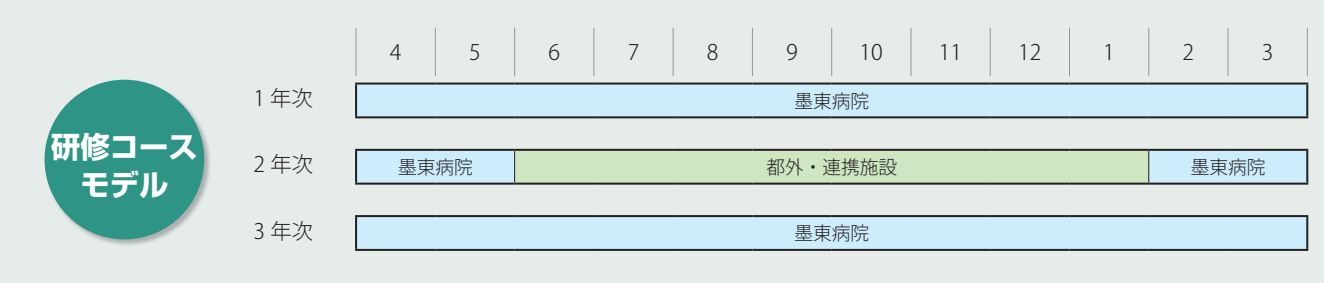
(1)　急性期を中心とした一般的な精神医療：当科外来や近隣医療機関に通院中の患者、及び東京都・区東部の保健・福祉機関から紹介された患者に対して入院及び外来治療を行います。閉鎖病棟である特質上、興奮や希死念慮の強い重症および難治性の精神疾患にも対応しています。専攻医は指導医とペアで患者を受け持ち、bio-psycho-social に患者を捉える経験を積みます。

(2)　東京都「夜間休日精神科救急事業」による緊急措置入院患者の診療：東京都が実施する「精神科夜間休日診療事業」として、いわゆる精神科３次救急（緊急措置診察および入院）を行っています。当科は第１ブロック（千代田、中央、港、文京、台東、墨田、江東、江戸川）を担当しています。

(3)　精神科リエゾン医療：救命救急センター、周産期医療センターを含む診療各科の依頼に応じ、入院患者の精神科的な問題に対して指導医とペアで対応します。多職種から構成される精神科リエゾンチームと協同してフォローアップします。

(4)　精神科身体合併症医療：院内身体科の治療中に生じた器質性精神疾患を、身体科と共同で患者の心身両面の治療を行います。また東京都の精神科身体合併症救急医療システムに則って、地域の精神科病院からの身体治療の依頼に対して転入院で対応します。2020 ～ 22 年度、COVID-19 パンデミック下においても、当科はこれらの業務を途切れることなく維持しました。

墨東病院における上記の業務に加えて、東京都外の連携病院での８ヶ月の研修及び都内の連携施設での研修を行うことで、精神科専門医及び精神保健指定医の取得に必要なすべての症例及び場面を経験することが可能であり、また、総合病院精神、児童精神、認知症関連、てんかん、司法精神等、精神科関連のサブスペシャルティ資格取得に向けた準備を行うことができます。



## ● 多摩総合医療センター（基幹施設）
## 東京都立多摩総合医療センター施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：精神神経科　岩田　健　　プログラム研修期間：3 年

基幹病院である多摩総合医療センターは多摩地区の基幹的な救命救急センターと総合周産期医療センターを擁しており、精神科救急の基幹病院及び精神科身体合併症事業においても重要な役割を果しています。従って本プログラムは精神科救急を学ぶこと、合併症医療、リエゾン医療に携わることが研修の中心になります。その上で ECT、緩和医療、周産期精神医学を研修できます。連携施設も豊富で希望に応じて児童・思春期や高齢者、リハビリ、依存症をそれぞれ専門的に治療を行っている施設もあり研修を受けられるように配慮されています。女性の専攻医（令和 7 年度の当プログラムに入った専攻医 3 人中 1 人が女性）も在籍しており性差なく研修できるプログラムです。 1 年目は基幹施設の多摩総合医療センター精神科で上級医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性障害、神経症性障害、アルコール・薬物依存性障害の急性期の患者等を受け持ちまた緊急措置診察に同席し基本的な診療技量を身に付けられるようになっています。リエゾン、外来診察も最初は上級医師の診察を見学し徐々に相談しながら自ら行うようにしています。２年目は医師少数区域・他県の連携施設で研修を受け経験する疾患、状態を広げるとともに、技量を深化させられるようになっています。 3 年目はそれぞれのプログラムの終了後の進路や専攻医の志向にあわせて、多摩総合医療センターを含む都立病院等での研修を受けられます。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 多摩総合医療センター | | | | | | | | | | | |
| | 急性期医療を中心に、精神科救急、リエゾン（含む　産科、緩和）、合併症医療を経験する　（指定医症例：措置症例、統合失調症、感情障害） | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 茨城県立こころの医療センター等の他県 / 医師少数区域に在る施設で研修 | | | | | | | | | | | |
| | 他県の施設で地域に密着した精神医療の展開を学ぶ　（措置症例：思春期症例、アルコール依存） | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 都立小児総合医療センター等の都立病院 | | | | | | 多摩総合医療センター | | | | | |
| | 原則都立病院から、最大２か所まで選択して、研修する　（措置症例：思春期症例、アルコール依存、器質性精神障害） | | | | | | | | | | | |

## ● 小児総合医療センター（基幹施設）
## 都立小児総合医療センター施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：児童・思春期精神科　長沢　崇　　プログラム研修期間：3 年

本施設群は６つの施設から構成されます。1 年目は研修基幹施設で、2、3 年目は研修基幹施設および研修連携施設をローテイトして研修します。研修基幹施設は東京都府中市にある小児総合医療センターで、主要な精神疾患の患者を受け持ち、面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本を学びます。更に、身体合併症、リエゾン・コンサルテーション、難治性精神疾患に対する生物学的治療、心理社会的療法など、臨床を幅広く経験します。また、研究・学会発表についても指導を受けることが出来ます。さらに松沢病院、多摩総合医療センター、多摩あおば病院、駒木野病院、鶴が丘ガーデンホスピタルと連携していて、精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、認知症医療、アルコール・薬物医療の他、デイケア、家族支援、地域支援など地域と密着した医療が経験できます。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 基幹施設研修 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 連携施設研修　６か月 | | | | | | 基幹施設研修 | | | | | |
| 3 年次 | 基幹施設研修 | | | | | | | | | | | |

# 精神科

## 松沢病院（基幹施設）
## 東京都立松沢病院精神科専門研修プログラム

プログラム責任者：精神科　正木　秀和　　プログラム研修期間：3 年

東京都立松沢病院（以下当院）が基幹施設である本プログラムは、東京医師アカデミーのシステムにより、都立病院、大学病院、地域精神医療の基幹病院等と連携し、総合的に精神科医療を研修するプログラムです。当院は東京都の行政精神科医療等で中核的な役割を担っている精神科病院です。808 床の精神科病床を有し精神科医が約 40 名在籍しています。精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、思春期・青年期医療、認知症医療、アルコール・薬物医療、医療観察法病棟の他、デイケア、作業療法等を行っています。専攻医は精神科領域のほとんどの疾患を経験し、措置入院や医療観察法入院を含め、すべての入院形態の症例を経験し研修することができます。精神医学の基本的な知識・技術を習得し、精神科専門医の資格を取得するのと同時に、精神保健指定医資格取得、学会発表や論文作成の技術を獲得することを目標とします。専攻医の希望を考慮しながら、救急病棟、急性期病棟、リカバリー病棟、思春期・青年期病棟、認知症病棟、アルコール・薬物病棟、身体合併症病棟等を約 6 か月ずつ研修します。3 年間の研修期間のうち、2 年間を当院、1 年間を連携施設で研修します。連携施設研修は、北海道大学、函館渡辺病院、あさかホスピタル、自治医科大学、栃木県立岡本台病院、埼玉医科大学、埼玉医科大学総合医療センター、埼玉県立精神医療センター、大宮厚生病院、千葉県総合救急災害医療センター、聖マリアンナ医科大学、神奈川県立精神医療センター、済生会横浜市東部病院、大阪精神医療センター、山口県立こころの医療センター、こころの医療センター五色台、TAOKA こころの医療センター、旭川医科大学病院など医師充足率の低い地域で 1 年間行うことを予定しています。

研修コースモデル

## 採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎多摩総合医療センター

○広尾病院
○駒込病院
○墨東病院
○小児総合医療センター

## 研修プログラムの特徴

### ● 多摩総合医療センター（基幹施設）
### 都立多摩総合医療センター施設群整形外科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：整形外科　伊賀　徹　　プログラム研修期間：4 年

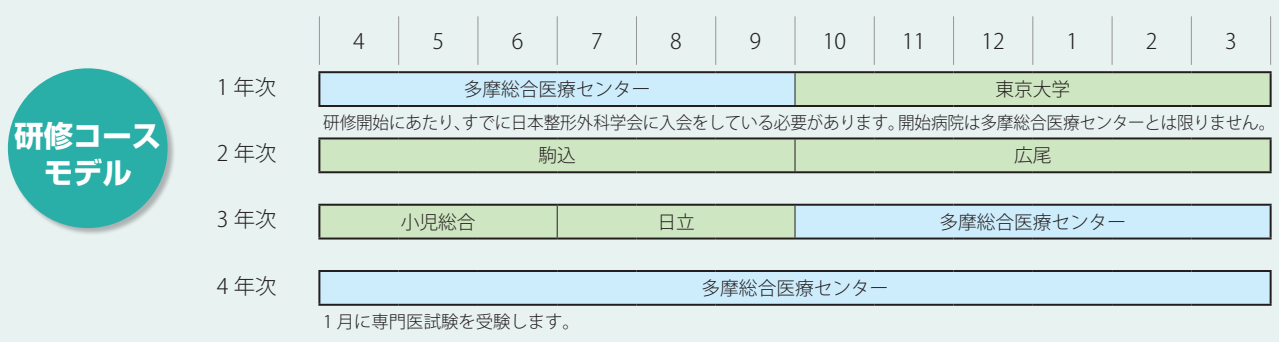
東京 ER を有する 3 つの三次救急病院（多摩総合、広尾、墨東）と、がん・腫瘍（駒込）ならびに小児（小児総合）の 2 つの専門病院などで、豊富な症例を経験できます。

研修ローテーションのうち必修は、基幹病院である多摩総合医療センターが 2 年 *、大学研修として東京大学（または自治医科大学）が 6 か月、腫瘍単位取得のための駒込病院が 2 か月、地域研修として日立総合病院が 3 か月です。残る期間は、日本整形外科学会の定める必修単位を考慮しつつ、できる限り専攻医の希望に沿って決めています。

研修は決して楽ではありませんが、意欲のある専攻医と楽しく働きたいと考えています。

* 日本整形外科学会では基幹施設研修期間を「基本的に 6 か月以上」と定めていますが、本プログラムでは東京医師アカデミーの規則に基づき、2 年以上としています。

** 当プログラムは救急科専門医取得者のダブルボード研修を積極的に受け入れています。これまでに 3 名の受け入れ実績があり、指導医の一部も救急科と整形外科のダブルボードを所有しています。ダブルボード研修は、旧専門医制度に準じた「カリキュラム制」での研修ができます。




### ● 広尾病院　（連携施設）

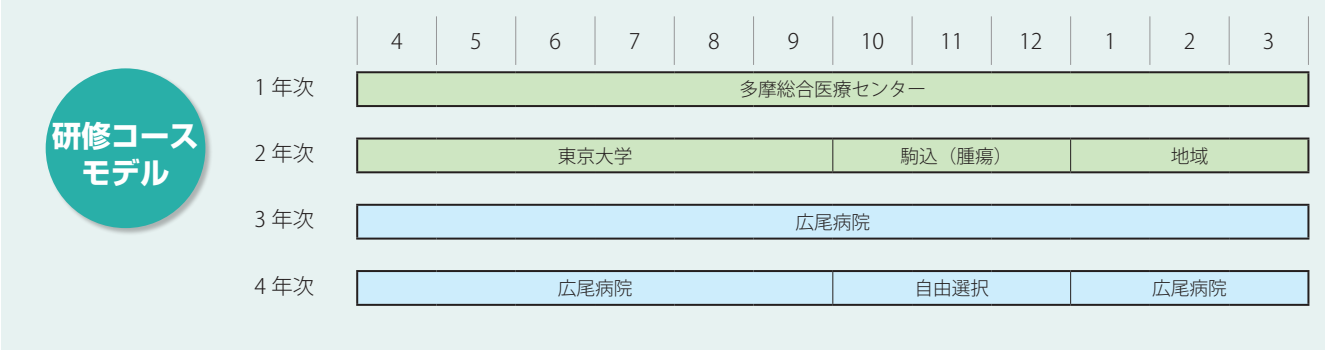
指導医責任者：整形外科　川野　健一

多摩総合医療センターを基幹施設とする整形外科専門研修プログラムの連携病院として、専門医資格取得に向けての研修を行っています。当院は JR 山手線内の都心部に立地しており、ほぼすべての診療科がそろった総合病院です。東京都の救急システムの中心を担う東京 ER を有し、救急診療や島しょ医療にも力を入れています。整形外科は四肢体幹の機能を再建する診療科ですが、その基本は外傷の診療であり、外傷の診断、治療（保存療法・手術療法）を若い頃にしっかり身につけておくことが、より専門的な診療へ進むための足がかりとなります。2025 年度より外傷センターが発足し、一般外来での比較的軽い外傷から、救命センターを受診する高度な救急外傷まで、外傷の専門医による治療を行っており、症例も豊富で外傷治療の研修には最適です。それのみならず、手外科・上肢機能再建外科、脊椎外科、関節外科などの専門医が在籍しており、大学病院レベルの専門性の高い診療を行っております。研修開始時は外傷症例が主となりますが、指導医の元で経験に応じてより専門的な手術も経験できます。当科でのカンファレンスや抄読会、

# 整形外科

また各種学会への参加により、進歩した新しい医学的知識を身に付けて、最終的に学会発表や学術論文を作成することを研修目標の一つとしています。

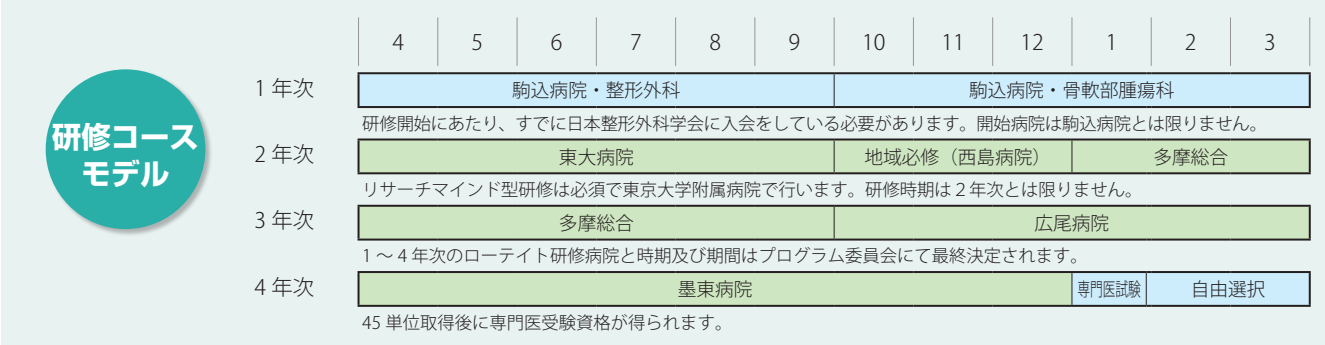
研修プログラムとしては、基幹施設である多摩総合医療センター（12 カ月）、比較的稀な腫瘍性疾患に対する駒込病院での研修（3 ヶ月）、地域医療研修（3 ヶ月）、東京大学（6 ケ月）は指定された研修期間となりますが、その他の期間をどの施設で研修するかはある程度希望に沿うことができます。




## 駒込病院　（連携施設）

指導医責任者：整形外科・骨軟部腫瘍科　杉田　守礼

駒込病院は文京区の閑静な住宅街の中に佇む歴史ある病院です。古くは「駒込ピペット」で知られる感染症の研究所に始まり、現在では東京都のがん拠点病院として最先端の医療を行っています。特に他の病院で接する機会の少ない骨・軟部腫瘍は、国内有数の症例数を誇ります。また脊椎腫瘍に対して、脊椎骨全摘術などの世界トップクラスの手技を駆使して、積極的に取り組んでいます。主に脊椎疾患と人工関節を扱う整形外科と、骨・軟部腫瘍に特化した骨軟部腫瘍科とが独立して診療を行っており、定期的にキャンサーボードを開催して密に連携しています。学会発表や論文執筆の機会が多く、スタッフは教育熱心ですので、多大な経験が積めると確信します。得意な分野・手術は脊椎疾患、骨・軟部腫瘍、脊椎腫瘍、人工関節です。



## ● 墨東病院　（連携施設）

指導医責任者：整形外科　山川　聖史　　プログラム研修期間：4年

本プログラムは、多摩総合医療センターを基幹施設とし、墨東病院、広尾病院、駒込病院および東大病院などの連携施設で研修して整形外科専門医取得を目標とします。墨東病院は、区東部医療圏の中心的急性期病院であるため、整形外科の基本である外傷研修に適した環境にあります（小児症例も豊富）。関節疾患や脊椎疾患などの一般的な変性疾患も学ことができます。主担当医として、入院から退院までの診断・治療を通じ、患者の全身状態、社会的背景を的確に把握し、患者ごとに適した医療を提供できることを目標とします。本研修期間には、基本的な外傷を中心に、脊椎や人工関節なども含めて、できるだけ数多くの術者を経験していただきます。また、日常診療の他に学術的な活動も重視し、地域の整形外科セミナー、整形外科関連の学会や学術講演会などに積極的に参加し、発表する機会をもちます。本プログラムに関係する基幹施設、連携施設においては、上記以外にも、手の外科、末梢神経、骨軟部腫瘍などほぼすべての領域で専門的かつ高度な医療を行っています。したがって整形外科専門医を取得の上、将来の希望のサブスペシャリティー領域に繋がる研修をすることも可能です。以上より、本プログラムにおいてはバランスのとれた研修を行うことができます。研修希望の方の応募をお待ちしています。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年次 | 墨東病院 | | | | | | | | | | | |
| 2年次 | 地域医療 | | | 駒込病院 | | | 東大病院 | | | | | |
| 3年次 | 多摩総合医療センター | | | | | | | | | | | |
| 4年次 | 多摩総合医療センター | | | | | | 自由選択 | | | 墨東病院 | | |

# 麻酔科

## 採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎広尾病院
◎大塚病院
◎駒込病院
◎荏原病院
◎墨東病院
◎多摩総合医療センター
◎東部地域病院

〇大久保病院
〇豊島病院
〇多摩北部医療センター
〇多摩南部地域病院
〇神経病院
〇小児総合医療センター

## 研修プログラムの特徴

### ● 広尾病院（基幹施設）
### 東京都立広尾病院施設群東京医師アカデミー麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　羽深　鎌一郎　　プログラム研修期間：4 年

救命救急センターを含む「東京 ER・広尾」を運営している、地域中核病院です。
全外科系診療科が揃っており、専門医取得に必要な経験症例はもちろん、外傷や熱傷手術の麻酔も多く経験出来ます。
病院の立地は非常に良く、よく働きよく遊ぶには最高の場所です！

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 広尾病院 | | | | | | | | | | | |
| | 定時手術の麻酔計画を立てられるようになることを目標とする。また、臨床研究のテーマを決めて、その計画を立てる。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 広尾病院 | | | | | | | | | 小児総合医療センター | | |
| | 分離肺換気や開心術等の麻酔管理、緊急手術の麻酔計画を立てられるようになることを目標とする。また、連携施設において小児麻酔の研修を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 広尾病院 | | | 連携施設 | | | | | | | | |
| | 計画から実施まで主体的に麻酔管理が出来るようになることを目標とする。また、連携施設での研修も可能である。 | | | | | | | | | | | |
| 4 年次 | 広尾病院 | | | | | | | | | | | |
| | 専門医取得に向けて、学会発表等を目標とする。また、連携施設での研修も可能である。 | | | | | | | | | | | |

### ● 大塚病院（基幹施設）
### 東京都立大塚病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　五十嵐　達　　プログラム研修期間：4 年

当プログラムは、麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく、麻酔科専門医の育成を目標とする研修プログラムです。専攻医はプログラムの履修により、日本麻酔科学会「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた、経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成し、専門医としての十分な知識、技能、態度を習得することができます。なお、研修期間終了後には、当院及び東京医師アカデミーの連携施設のスタッフとして、採用の可能性があります。当プログラムの専門研修基幹施設である東京都立大塚病院は、総合周産期センターを併設しているため、一般的な麻酔管理に加えて、産科麻酔や新生児・小児麻酔についての十分な経験が可能です。また、日本区域麻酔学会指導医が在籍しており、神経ブロックについての専門的な知識と技術を学ぶことができます。当院に診療科のない心臓血管外科麻酔などについては連携施設で経験することが可能です。専門研修連携施設には、東京医師アカデミーの連携施設に加えて、さいたま市立病院、慶応義塾大学病院も加わっていて、より専門性の高い知識と経験が得られるよう努めています。連携施設における研修は 3 か月を基本単位としていますが、研修内容の希望により柔軟な対応を心がけています。

## ● 駒込病院（基幹施設）
## 東京都立駒込病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　部長　佐藤　洋　　プログラム研修期間：4年

当院はがん専門病院であるため、がん患者の手術における術前評価および術中術後管理が研修の中心となります。外科系各科の高度専門手術に対して安全な麻酔管理ができる能力を育成します。ロボット支援手術（ダヴィンチ手術）を含めた内視鏡下手術、数科にまたがるコラボ再建手術などが多いのも特徴です。当院に診療科のない心臓血管外科、産科、小児外科などの麻酔管理は専門研修連携施設での研修を加えることで、専門医に必要な知識と経験を確実に得られるようにしています。また麻酔科の別側面であるペインクリニック研修や、他科研修（緩和ケア診療・救急診療）などを行える環境を整えています。

通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・くも膜下脊髄麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の特殊麻酔を担当医として経験します。

- 胸部外科手術の麻酔：呼吸器外科手術（胸腔鏡下及びロボット支援手術）、食道外科手術（含むロボット支援手術）など
- 脳神経外科手術の麻酔：覚醒下脳腫瘍摘出術の麻酔管理など
- 整形外科の麻酔：脊髄腫瘍、脊椎腫瘍（神経モニタリング）の麻酔管理など
- 泌尿器科の麻酔：ミニマム創内視鏡手術、ロボット支援手術（ダヴィンチ手術）
- 胃外科・大腸外科・肝胆膵外科・婦人科・耳鼻科・乳腺外科の手術も内視鏡手術やロボット支援手術（ダヴィンチ手術）で行っています。

# 麻酔科

## 荏原病院（基幹施設）
## 東京都立荏原病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　加藤　隆文　　プログラム研修期間：4 年

本プログラムでは、東京都区南部二次医療圏の中核的な急性期病院である当院を基幹施設として、都立小児総合医療センター、都立墨東病院、都立駒込病院、都立広尾病院、都立大塚病院、都立多摩総合医療センター、都立神経病院、豊島病院、東部地域病院、昭和医科大学病院、昭和医科大学横浜市北部病院、静岡済生会総合病院その他の病院と連携し、麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供します。また、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。

当院の特徴としては総合脳卒中センターがあり、地域の急性期の脳血管疾患医療の中核となっています。脳神経外科の他、ほぼ全ての診療科に対応しており、偏りのない麻酔管理が経験できます。緊急手術も多く、救急診療における麻酔管理を学べます。当院に診療科のない心臓外科、小児外科などの麻酔管理は上記関連施設で研修を行い、より専門的な知識と経験を得られるようにしています。

麻酔科外来であるペインクリニックを行っており充実した研修ができます。緩和ケアチームの研修も行えます。合計９人のスタッフによりきめ細かい充実した研修が得られます。是非一度見学に来てください。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 一般麻酔研修（前半は合併症のない患者、後半は高齢者・小児等） | | | | | | | | | | | |
| | 荏原病院にて研修を行う。全身麻酔症例 400 例以上、その他の麻酔症例を含めて計 500 例以上の麻酔管理を経験することを目標とする。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 一般麻酔研修（脳外科・胸外科） | | | | | | 新生児・小児麻酔（他院研修） | | | | | |
| | 前半は荏原病院にて研修を行う。後半は他院で小児麻酔の研修を行う、2 年次終了時に麻酔科標榜医、麻酔科認定医を取得。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | ER、特殊麻酔 | | | | | | 心臓血管手術麻酔（他院研修） | | | | | |
| | 前半は荏原病院または他院で救急救命領域、重症患者における麻酔管理を行う。後半は他院で心臓外科領域の研修を行う。地方での研修も行う可能性有。 | | | | | | | | | | | |
| 4 年次 | ペインクリニック研修 | | | ICU | | | 緩和医療 | | | 総合研修 | | |
| | ペインクリニック外来において癌性疼痛患者の緩和ケア等の研修を行う。 | | | | | | | | | | | |

## 墨東病院（基幹施設）
## 都立墨東病院麻酔科東京医師アカデミー専門研修プログラム

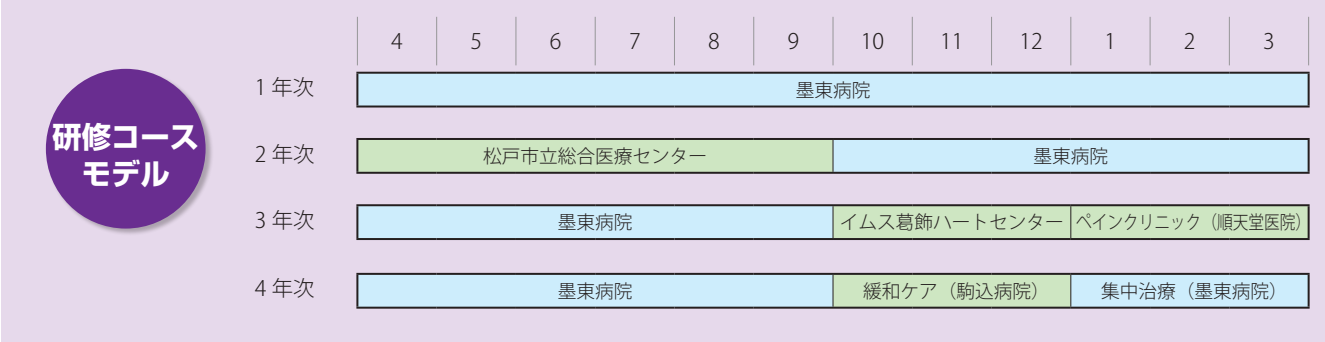
プログラム責任者：麻酔科　後藤　尚也　　プログラム研修期間：4 年

当院は東京東部地域の広域な医療圏を守る急性期型基幹病院であり、高度救命救急センター、総合周産期母子医療センターを有しています。当院を基幹とした麻酔科研修プログラムでは、日常的に緊急性、重症度が高い症例を経験でき、どんな症例に対しても柔軟に対応できる臨床麻酔スキルを身につけることができます。また、東京都脳卒中急性期医療機関、東京都 CCU ネットワーク加盟施設、地域がん診療連携拠点病院でもあり、当院で経験できる症例は多岐にわたります。

また、都立病院が一体となって提供する東京医師アカデミーによる研修の他、順天堂大学、松戸市立総合医療センター、イムス葛飾ハートセンターなど、専門性の高い研修施設とも連携しており、臨床麻酔のスペシャリストを育成することを大切にしています。

専攻医（特に 1，2 年目）に対しては必ず専門医、指導医が指導を行い、手厚い指導を心掛けるとともに、専攻医を守ることを大切にしています。当直は 2 人体制、必ず麻酔科専門医が院内に常駐しています。当直明けは休み、その他の条件においても、無理せず勤め続けられる勤務態勢を整えています。

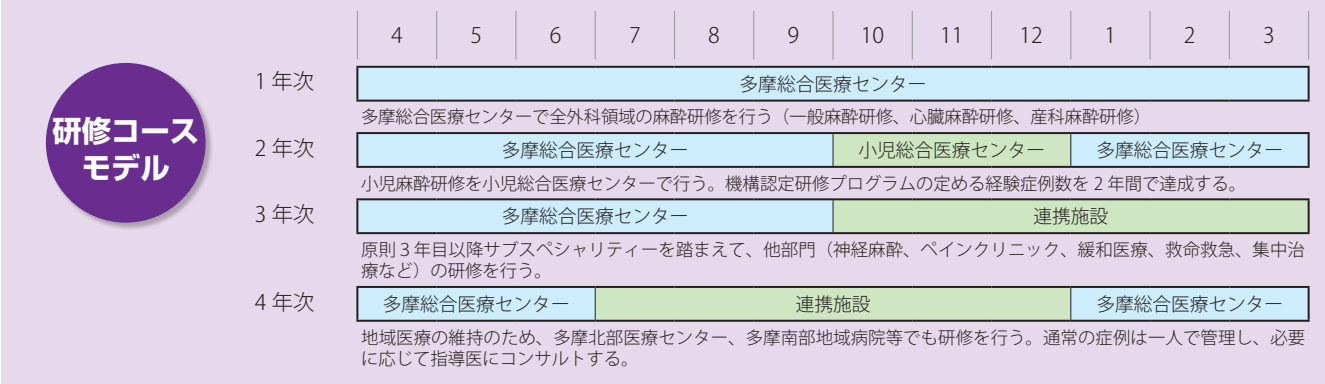
その他の特徴として、重症産科救急症例、無痛分娩麻酔の専門的な研修が可能な他、先駆的な臨床的取り組みにも注力し、希望者は呼吸器外科と共同で低侵襲手術研修を目的とした海外研修も参加可能です。院内の集中治療部、救命救急センターでの研修も可能であり、これら幅広いサブスペシャルティにおける専門医資格取得を視野に入れた研修、相談を院内で行うこともできます。




## ● 多摩総合医療センター（基幹施設）
## 東京都立多摩総合医療センター施設群東京医師アカデミー麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　山本　博俊　　プログラム研修期間：4 年

本研修プログラムは「東京医師アカデミー」の麻酔科コースの一部門です。東京医師アカデミーとは、都立病院が一体となって提供する後期臨床研修システムのことで、各病院の特色を生かし、臨床を重視した質の高い医師の育成を行います。都立 14 病院のスケールメリットを最大限に活用できるように病院間連携を行って研修を行います。専門研修基幹施設である東京都立多摩総合医療センター、専門研修連携施設 A の東京科学大学病院、東京都立小児総合医療センター、国立成育医療研究センター、慶應義塾大学病院および専門研修連携施設 B の東京都立駒込病院、東京都立広尾病院、東京都立大塚病院、東京都立墨東病院、東京都立神経病院、東京都立荏原病院、東京都立豊島病院、東京都立東部地域病院、東京都立多摩北部医療センター、東京都立多摩南部地域病院、聖路加国際病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、埼玉医科大学病院、埼玉医科大学国際医療センター、埼玉医科大学総合医療センター、TMG あさか医療センター、順天堂大学病院、武蔵野赤十字病院、順天堂大学医学部附属静岡病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。



# 麻酔科

## 東部地域病院（基幹施設）
## 東京都立病院機構東京都立東部地域病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科　浦里　裕子　　プログラム研修期間：4 年

責任基幹施設である東部地域病院、関連研修施設の墨東病院、小児総合医療センター、駒込病院、広尾病院、大塚病院、多摩総合医療センター、神経病院、荏原病院、豊島病院、多摩北部医療センター、順天堂大学附属順天堂医院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。本研修プログラムでは、連携施設での研修により、幅の広い一般診療だけでなく、救急診療、ペインクリニック、集中治療、緩和医療、地域医療を網羅する研修を特徴としています。研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が、経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築します。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 消化器外科・一般外科・小児外科 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | ER/ 救命救急研修（連携施設） | | | 呼吸器外科（連携施設） | | | 消化器、一般外科、小児外科 | | | 心臓血管外科（連携施設） | | |
| 3 年次 | 消化器外科・一般外科 | | | | | | | | | | | |
| 4 年次 | 麻酔科 | | | | | | | | | | | |

麻酔科専門医として麻酔全般を一人で管理し、初期研修医にも説明指導ができるようになる。また他科とのコミュニケーションが円満にできるように研修をする。

## 採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎多摩総合医療センター

〇駒込病院
〇神経病院
〇小児総合医療センター

## 研修プログラムの特徴

### ● 多摩総合医療センター（基幹施設）
### 多摩総合医療センター耳鼻咽喉科専門研修プログラム

プログラム責任者：耳鼻咽喉科　中屋　宗雄　　プログラム研修期間：4 年

耳鼻咽喉科医師としての人格の涵養に努め、耳、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭・喉頭、頭頸部腫瘍の全ての診療分野において、幅広い知識と臨床能力を習得し、「国民に安全で安心な標準的医療を提供できる」耳鼻咽喉科専門医を育成することを目的とします。また、診療技能のみならず、学会発表や論文作成を通じ、科学者としての能力を取得することも目標とします。基幹研修施設である多摩総合医療センターを中心に、多摩総合医療センターに隣接する小児総合医療センター・神経病院と虎の門病院において、それぞれの特徴を生かした耳鼻咽喉科専門研修を行い、日耳鼻研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験します。4 年間の研修修了時にはすべての領域の研修到達目標を達成し、4 年間の研修中、認定されている学会において学会発表を少なくとも 3 回以上行います。また、筆頭著者として学術雑誌に 1 編以上の論文執筆・公表を行います。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 多摩総合医療センター | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 多摩総合医療センター | | | | | | 小児総合医療センター | | | | | |
| 3 年次 | 多摩総合医療センター | | | | | | | | | | | |
| 4 年次 | 多摩総合医療センター | | | | | | | | | | | |

東京医師アカデミーシニアレジデント合同発表会

東京医師アカデミーシニアレジデント合同発表会表彰式

# 耳鼻咽喉科

## 駒込病院　（連携施設）

指導医責任者：耳鼻咽喉・頭頸部外科　杉本　太郎

当プログラムは、多摩総合医療センターを基幹研修施設とした「多摩総合医療センター耳鼻咽喉科専門研修プログラム」に属し、連携施設である駒込病院耳鼻咽喉・頭頸部外科を中心に研修を行うコースです。日本耳鼻咽喉科学会が定めた研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験し、耳鼻咽喉科専門医取得を目標とします。プログラムに定められた研修の評価は施設ごとに指導管理責任者、指導医、および専攻医が行い、プログラム責任者が最終評価を行います。4 年間の研修修了時にはすべての領域の研修到達目標を達成し、4 年間の研修中、認定されている学会において学会発表を少なくとも 3 回以上行います。また、筆頭著者として学術雑誌に 1 編以上の論文執筆・公表を行います。研修の評価や経験症例は日耳鼻が定めた方法でオンライン登録します。駒込病院耳鼻咽喉・頭頸部外科の特徴としては、頭頸部癌に対する低侵襲な手術（経口的切除術、CO2 レーザ手術）から拡大切除 + 再建手術、IMRT を利用した化学放射線療法、分子標的薬治療、免疫チェックポイント阻害薬治療、緩和医療まで幅広い頭頸部癌診療を施行している事が挙げられます。拠点病院として多数の症例が集中し、特に食道癌と頭頸部癌の合併症例、甲状腺癌症例が多いです。また、耳鼻咽喉科領域感染症、鼻副鼻腔、咽喉頭領域の良性疾患の保存的治療や手術加療等も積極的に行っています。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 駒込病院 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 駒込病院 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 多摩総合医療センター | | | | | | 駒込病院／多摩総合医療センター | | | | | |
| 4 年次 | 駒込病院 | | | | | | | | | | | |

（東京医師アカデミー シニアレジデント合同発表会風景）

（多摩総合医療センター 合同発表会風景）

## 採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎駒込病院

○大塚病院
○豊島病院
○墨東病院
○多摩総合医療センター
○多摩北部医療センター
○多摩南部地域病院
○小児総合医療センター

## 研修プログラムの特徴

### ● 駒込病院（基幹施設）
### がん・感染症センター都立駒込病院泌尿器科東京医師アカデミー専門研修施設群専門研修プログラム

プログラム責任者：腎泌尿器外科　古賀　文隆　　プログラム研修期間：4 年

地域中核病院であると同時に本プログラムの基幹施設であるがん・感染症センター都立駒込病院は都道府県がん診療連携拠点病院に、都立多摩総合医療センターと都立墨東病院はがん診療連携拠点病院および救命救急センターに、都立小児総合医療センターはがん診療連携拠点病院に指定されています。また、サブスペシャルティ領域として各種低侵襲手術（ロボット支援手術・腹腔鏡下小切開 [ ロボサージャン手術 ]・腹腔鏡）、結石治療、小児泌尿器科、透析の専門的研修を提供しています。本専門研修プログラムの施設群では、腹腔鏡手術や腹腔鏡下小切開手術を含めた年間 1,800 ～ 2,200 例の泌尿器科腫瘍・尿路結石・前立腺・小児泌尿器科疾患などの幅広い領域にわたる一般的もしくは専門的泌尿器科手術を行っているほか、救急疾患をはじめとする幅広い泌尿器科疾患の研修に対応しています。このように、診療に関しては、地域医療と専門医療の両面へ配慮する事で、バランスのよい優れた泌尿器科専門医を育成する事を特色としています。一方で、先導的立場に立つ泌尿器科専門医としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養の育成を目的に、症例報告のみならず臨床研究にも積極的に参画し、国内外での学会発表や論文報告を行っていきます。さらに興味のある専攻医は、文部科学省科学研究費を取得しての研究を行うことができる体制（駒込病院および多摩総合医療センター）も整っています。

また、総合診療能力の向上を図るための研修として都立多摩総合医療センターや都立墨東病院におけるＥＲ研修や島しょ等の都内へき地医療機関における地域医療研修も実施しています。

### ● 大塚病院　（連携施設）

指導医責任者：泌尿器科　高沢　亮治

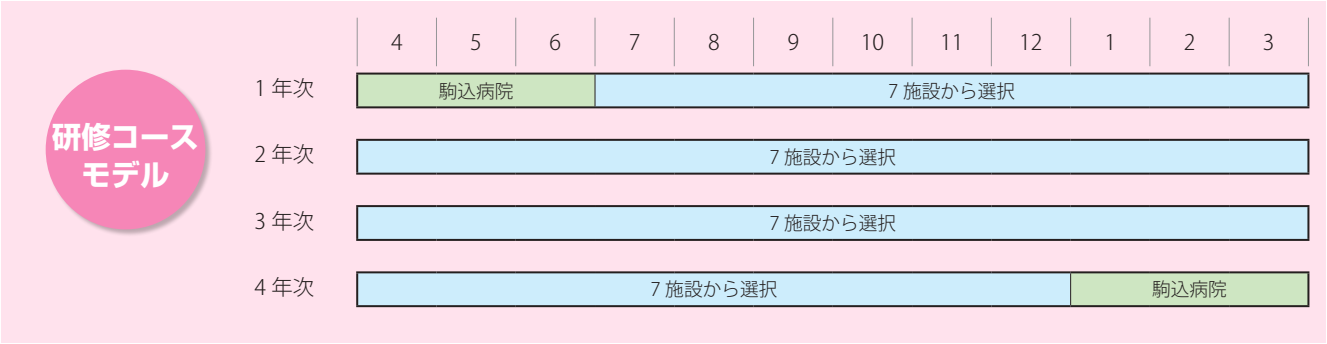
首都圏を代表する尿路結石センターとして、豊富な症例のエンドウロロジー手術を特徴としています。同分野の最先端治療を経験することができます。国内外の学会に積極的に参加して演題発表するとともに、学術論文作成をおこなっています。また、結石治療だけでなく、東京都区西北部の基幹病院として、泌尿器がん・排尿障害の診療にも取り組んでいます。良性疾患・悪性疾患どちらも幅広く症例を経験し、泌尿器科専門医としての基礎的な知識と技術を習得することができます。大塚病院採用でも専門医取得は十分可能です。

# 泌尿器科

## ● 多摩総合医療センター　（連携施設）

指導医責任者：泌尿器科　佐藤　悠佑

東京医師アカデミー泌尿器科研修プログラムの研修基幹施設および連携施設は、東京都広域 16 市 5 区の合計 5 つの 2 次医療圏にある 6 つの地域中核病院（駒込病院、大塚病院、豊島病院、多摩総合医療センター、小児総合医療センター、多摩北部医療センター、多摩南部地域病院）の役割を担うと同時に、7 研修施設全てがサブスペシャルティ領域の専門性の高く、特色のある泌尿器科医療を提供しています。これらの研修施設群で泌尿器科の研修をする事で、泌尿器科医としての多彩な専門研修の実現と偏りのない診療経験の獲得、地域医療への貢献を可能としています。4 年間の研修期間のうち、初年度と 4 年目に 3 ヶ月ずつの合計 6 ヶ月間を、研修基幹施設である駒込病院で研修する事としています。残りの 3 年 6 ヶ月間は研修連携施設または基幹施設での研修となりますが、本人の希望や研修の進捗状況に応じて、１研修施設に最大 3 年 6 ヶ月までの研修期間が許容されます。多摩総合医療センターでは、尿路悪性腫瘍を中心に、排尿障害、尿路感染、尿路結石など泌尿器科領域全般について診療をしています。腎癌、腎盂・尿管癌には腹腔鏡下手術を、前立腺癌、腎癌、膀胱癌には、ロボット手術を行っています。これらの手術に加え、尿路悪性腫瘍に対する薬物療法も積極的に行っております。当科には、がん薬物療法専門医が在籍していますので、薬物療法を基本から学ぶことが出来ます。今話題の免疫療法に関しても、腫瘍免疫の専門家がいますので、学ぶことが可能です。さらに、学会発表および学術論文の作成を指導し、科学者としての能力を取得することも目標とします。



## 採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎駒込病院

○広尾病院
○大久保病院
○豊島病院
○墨東病院

◎多摩総合医療センター

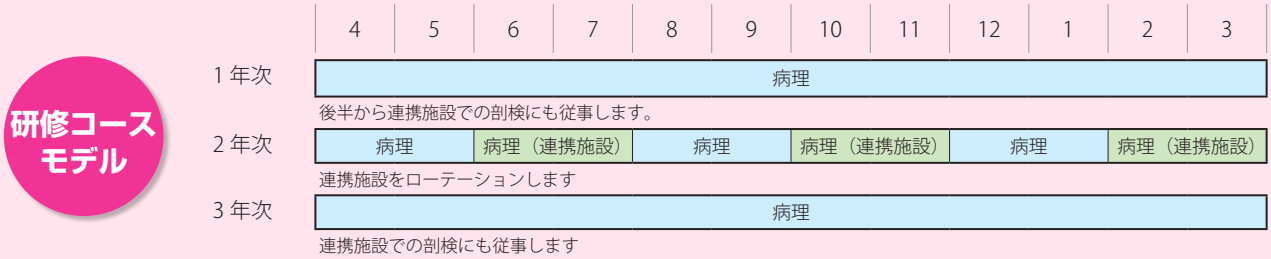
○多摩北部医療センター
○神経病院
○小児総合医療センター

## 研修プログラムの特徴

### ● 駒込病院（基幹施設）
### 東京都立駒込病院施設群病理専門研修プログラム

プログラム責任者：病理科　比島　恒和
プログラム研修期間：3 年（4 年）研修終了後、都立病院での勤務を条件に、4 年間のコースも選択可。

本プログラムは、剖検例、生検、手術例の組織診断、術中迅速診断、細胞診などの分野を 3 年間で研修し、病理専門医受験資格を得ることを目標としています。基幹施設である駒込病院は、がんの専門病院として都道府県がん診療連携拠点病院に指定されていますが、総合基盤に則った医療を実践しているため、がんのみならず非がん例も含めた幅広い症例を経験することが可能です。さらに、3 年間のうち都内の中核病院に相当する他の都立病院 ( 墨東病院、広尾病院、豊島病院、大久保病院、大塚病院）をローテーションし、基幹施設にはない多彩な症例を経験することもできます。また、都立病院以外の連携施設においても剖検に従事することが可能で、専門医受験資格に必要な剖検数は十分確保されています。各施設にはベテランの専門研修指導医が揃っており、カンファレンスの場も多く、病理医として成長していくための環境が整っています。駒込病院では手術材料は未固定の状態で手術室から送られてくるため、検体の処理、肉眼所見の取り方、切り出し、報告書作成まで同一症例で学ぶ機会が多い点も本プログラムの特徴の一つです。診断能力の習得に加え、学会発表や論文作成に関しても指導、支援を行っています。




### ● 多摩総合医療センター（基幹施設）
### 都立多摩総合医療センター施設群病理科・東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：病理診断科　岡田　晴香　　プログラム研修期間：3 年

日本における病理専門医数は近年横ばい状態で、増加する臨床からのニーズに十分対応できる状態とは言い難いのが現状です。このような状況を改善するため、本プログラムでは病理学のやりがいと楽しさを満載した、実務的で魅力的な病理専門プログラムを提供することを目指しています。本プログラムでは、多摩総合医療センター病理科を基幹施設とし、3 年間は公立昭和病院、多摩北部医療センター、川崎幸病院、小児総合医療センター、神経病院、東京西徳州会病院の各専門研修連携施設での研修を通して、病理専門医資格の取得を目指します。各施設を合わせると症例数は豊富で、小児、神経など多彩で専門的な領域にも及び、剖検も十分な数を実施しています。指導にあたる研修指導医や専門医も各施設に揃っています。各種の院内カンファランスも多くあり、病理医として日々研鑽、成長していくための環境が整っています。また、本プログラムでの研修においては、ライフ・ワークバランスも重視しています。充実した病理専門研修を行うのは勿論重要ですが、第一線の病理医として長期にわたって継続的に仕事を行っていく

# 病　理

ためには、病理以外においても充実した人生を送ることが大切です。そのために病理業務は可能な限り時間内に切り上げ、それ以外の時間を有意義に使えるよう配慮しています。本病理専門研修プログラムに是非参加して、知識のみならず技能や態度にも優れた、次代を担う病理専門医を目指してください。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 多摩総合医療センター（週 1 回程度連携施設で研修。） | | | | | | | | | | | |
| | 剖検（ＣＰＣ含む）と基本的な病理診断と細胞診への従事、関連法規や医療安全に関する知識習得を主な目的とする。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 多摩総合医療センター（週 1 回程度連携施設で研修。） | | | | | | | | | | | |
| | 剖検（ＣＰＣ含む）とやや専門的な病理診断及び基本的な細胞診への従事を主な目的とする。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 多摩総合医療センター（週 1 回程度連携施設で研修。） | | | | | | | | | | | |
| | 多摩総合での研修を基本とし、連携施設で週 1 回の研修を行う。剖検（ＣＰＣ含む）と専門的な病理診断及び専門的な細胞診への従事を主な目的とする。この年次までに専門医試験受験資格として必要な講習会を受講完了する。死体解剖資格を取得する。 | | | | | | | | | | | |

（駒込病院 病理指導風景）

## 採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎駒込病院

○大塚病院
○荏原病院
○墨東病院
○多摩総合医療センター
○神経病院
○小児総合医療センター

## 研修プログラムの特徴

### ● 駒込病院（基幹施設）
### 東京都立アカデミー駒込放射線科専門研修プログラム

プログラム責任者：放射線科　高木　康伸　　プログラム研修期間：3 年

当プログラムは駒込病院（駒込）を基幹施設として、多摩総合医療センター（多摩総合）、大塚病院、荏原病院、小児総合医療センター（小児総合）、墨東病院、神経病院、筑波大学附属病院、鳥取大学医学部付属病院、横浜市立大学附属病院、国際医療福祉大学成田病院を連携施設とする放射線科専門医を養成するプログラムです。都内 7 病院で約 4000 床の病床を有し、豊富な指導医のもと放射線科関連の検査が数多く行なわれ、救急から慢性疾患、そして癌の診断まで、単純写真から CT、MRI、血管造影そして PET-CT や IVR も含めた十分な放射線診断の研修が受けられます。放射線治療に関しては駒込と多摩総合にて豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から最先端の高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行なう事が出来ます。以上のように当プログラムはいずれの施設も都内に位置し（連携している大学病院を除く）、相互間の距離も隔たっていない好環境で、病院間の連携体制も良好で、なおかつ満遍なくバランスの取れた研修が可能であり、放射線科専門医取得のために絶好のプログラムであると考えられます。

**研修コースモデル**

コースモデル（ローテイト例）

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （治療専攻） | | | | | | | | | | | | |
| 1 年次 | 放射線治療 | | | | | | 放射線診断（大塚病院） | | | | | |
| | 治療専攻の専攻医のモデルの一例です。３年間に診断 12 か月、治療６か月の研修を必須とし、その他は専攻医の希望に沿った研修が出来ます。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 放射線治療 | | | | | | 放射線診断 | | | | | |
| | ３年間の間に基幹施設である駒込病院にで 12 か月間の研修が必須となっています。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 小児総合 | | | 放射線治療 | | | | | | | | |
| | 小児総合医療センターでの研修を必須としています。 | | | | | | | | | | | |
| （診断専攻） | | | | | | | | | | | | |
| 1 年次 | 放射線診断 | | | | | | 放射線治療 | | | | | |
| | 診断専攻の専攻医のモデルの一例です。３年間に診断 12 か月、治療６か月の研修を必須とし、その他は専攻医の希望に沿った研修が出来ます。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 放射線診断（多摩総合医療センター） | | | | | | 放射線診断（大塚病院） | | | | | |
| | ３年間の間に基幹施設（放射線科総合修練機関）である駒込病院にで１２か月間の研修が必須となっています。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 小児総合 | | | 放射線診断 | | | | | | | | |
| | 研修後半に小児総合医療センターでの研修を必須としています。 | | | | | | | | | | | |

### ● 大塚病院　（連携施設）

指導医責任者：放射線科　山田　佳菜

当院は、総合病院としての基盤の上に最重点医療として、総合周産期母子医療・小児医療をかかげています。また心身障害児、リウマチ・膠原病系難病診療、がん医療などの幅広い分野を、地域医療連携支援病院として推進しています。当科は日本医学放射線学会、日本核医学会からそれぞれ修練機関病院としての認定を受けており、原則 3 年で専門研修医を受け入れます。年間の報告書作成件数は約 15,000 件で、専門医受験資格取得には十分な症例数を確保しています。不足分は基幹施設病院や他の連携施設病院へのローテーション時に補填されます。当科は駒込病院を基幹

# 放射線科

施設病院とする放射線科専門研修プログラムに参加しており、任期 3 年の間に他施設を定期的にローテーションすることで、幅広い放射線科的知識、技術を体得し専門医試験、診断専門医資格の取得を目標としています。研修は原則、1 対 1 のマンツーマン方式で、適宜当科で作成しているティーチングファイル等を用いてのディスカッションを追加します。また放射線治療も行われており、がん治療における放射線治療の役割などを研修することができます。以下に、当院の専門研修医のローテイト例を掲げますが、希望により研修期間や研修施設は調整が可能です。一例として参考にしていただきたいと思います。

研修コースモデル

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 大塚病院 | | | | | | 診断（駒込病院） | | | | | |
| | 新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で 1 年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計 1 年となります。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 大塚病院 | | | | | | 治療（駒込病院） | | | 診断（駒込病院） | | |
| | 新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で 1 年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計 1 年となります。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 大塚病院 | | | | | 小児 | | 大塚病院 | | | | |
| | 小児 = 小児総合医療センターでの小児科領域の画像診断 | | | | | | | | | | | |

## ● 荏原病院　（連携施設）

指導医責任者：放射線科　岡田　洋一

放射線診断専門医の取得を目標とし、日本医学放射線学会専門医研修ガイドラインに準拠して研修を行います。General radiologist 育成を目的とし、さらに subspeciality を専攻して臨床研究、学会発表、論文作成を行います。診療においては読影のみならず、画像診断管理についても習得し画像診断を通じて日常診療、救急診療に積極的に介在します。核医学、放射線治療の基礎についても習得します。1 年次：CT,MR、各種造影検査の原理と撮像プロトコールの特徴を理解し、基本的な所見の読み方、鑑別診断、さらに最終診断への考え方を学びます。血管造影、IVR 主手技の基本を習得する。院内各科および院外におけるカンファランスに参加し発表します。subspeciality と研究テーマを選択し、臨床研究、学会発表の方法を学び、実際に学会発表を行います。2 年次は放射線腫瘍学、放射線治療学を研修します。2 年次後半からは、より専門性の高い診断学、超音波医学、核医学、放射線腫瘍学を研修し、subspecialty も含めた専門的な分野を習得します。

研修コースモデル

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 荏原病院 | | | | | | | | | | | |
| | 1 年次は荏原病院にて撮像法の原理や画像診断（読影）、造影検査手技等を研修する。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 治療（駒込病院） | | | | | | 診断（駒込病院） | | | | | |
| | 2 年次は基幹施設である駒込病院にて、前半は治療・後半は診断について研修する。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 大塚病院 | | | | | | 小児 | がん検診 | 荏原病院 | | | |
| | 3 年次は荏原病院のほか、小児総合医療センターやがん検診センターでより専門性の高い研修を行う。 | | | | | | | | | | | |

## ● 墨東病院　（連携施設）

指導医責任者：放射線科　高橋　正道　　プログラム研修期間：3 年

（東京医師アカデミー　ホームページ　駒込病院　放射線科より　一部改変）

当プログラムは駒込病院を基幹施設として、多摩総合医療センター、大塚病院、荏原病院、小児総合医療センター、神経病院、墨東病院を連携施設とする、放射線科専門医を養成するプログラムです。その特徴は 7 病院で 4,000 床以上の病床を有し、豊富な指導医のもと放射線科関連の検査が数多く行われ、救急から慢性疾患、そして癌の診断まで、単純写真から CT、MRI、血管造影そして PET-CT や IVR も含めた十分な放射線診断の研修が受けられます。放射線治療

に関しては、駒込と多摩総合にて、豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から先進的な高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行う事が出来ます。以上のように当プログラムは、いずれの施設も都内に位置し、相互間の距離も隔たっていない好環境で、なおかつ満編なくバランスの取れた研修が可能であり、放射線科専門医取得のために絶好のプログラムです。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 墨東病院 | | | | | | 診断（駒込病院） | | | | | |
| | 新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で 1 年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計 1 年となります。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 墨東病院 | | | | | | 治療（駒込病院） | | | | | |
| | 新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で 1 年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計 1 年となります。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 墨東病院 | | | | | 小児 | 神経病院 | 墨東病院 | | | | |
| | 説明：小児 = 小児総合医療センターでの小児科領域の画像診断、神経病院 = 神経病院で神経領域の画像診断などを研修（いずれも期間は調整可能） | | | | | | | | | | | |

## ● 多摩総合医療センター　（連携施設）

指導医責任者：放射線科　荒木　潤子

多摩総合医療センター放射線科は、駒込病院の連携病院として、大塚病院、荏原病院、小児総合医療センター、墨東病院、神経病院を連携施設とする放射線科専門医を要請するプログラムです。全 7 病院で約 4,000 床の病床を有し、病院ごとの特色を生かしたローテーションプログラムにより幅広い研修を行うことができます。

多摩総合医療センターは、東京ＥＲを有し多種多彩な救急症例を毎日のように経験可能であるとともに、がん、周産期、難病、感染症等の画像診断、それらに合併する救急症例、IVR 症例も、豊富な施設です。最近では研修できる施設が減少している超音波検査も、スクリーニング症例の他、救急や超音波ガイド下生検等も研修します。単純Ｘ線写真、CT、MRI、IVR 等を併せ、細分化された臨床各科の間を繋ぎ、技師や看護師等他職種とも協力しあい、チーム医療の一員として能力を発揮できる、幅広い視野を持った General Radiologist の育成を目指しています。

放射線治療に関しても、多摩総合医療センターと駒込病院にて経験豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から先進的な高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行うことができます。

指導医と共に CPC、画像カンファレンスや各種カンファレンスに参加し、放射線科医の立場から最善の治療を目指して discussion が出来るスキルを身に着けます。年 2 回の学会・研究会発表、研修中の論文作成を推奨します。

東京医師アカデミーという比較的コンパクトな立地の中で、利便性も良く、尚且つバランスの取れた幅広い研修が可能と考えます。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 放射線診断（多摩総合） | | | | | | 放射線治療（多摩総合） | | | 放射線診断（多摩総合） | | |
| | 診断希望の専攻医モデルの一例です。専攻医の希望を優先して予定を立てますが、専攻医試験に必要な経験症例数を満たすために、治療部門もローテーションに組み込みます。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 治療（駒込病院） | | | 診断（駒込病院） | | | 診断（大塚病院） | | | 診断（荏原病院） | | |
| 3 年次 | 診断（小児総合） | | | 放射線診断（多摩総合） | | | | | | | | |
| | 3 年目には、小児総合などのローテイトも可能です。 | | | | | | | | | | | |

# 救急科

## 採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎広尾病院
◎墨東病院
◎多摩総合医療センター

〇多摩北部医療センター
〇小児総合医療センター

## 研修プログラムの特徴

### ● 広尾病院（基幹施設）
**東京都立広尾病院 救急科 東京医師アカデミー専門研修プログラム**

プログラム責任者：救命救急センター　中島　幹男　　プログラム研修期間：3 年

基幹研修施設の都立広尾病院は、都市部の救命救急センターであり、3 次救急・集中治療だけでなく、島しょ医療、災害医療、東京 ER、ドクターカーなどにも力を入れています。3 次救急は単なる振り分けではなく、各診療科と協力しつつ可能な限り自己完結を基本としています . 入院管理は ICU から一般病棟まで , 多発外傷 , ショック , 呼吸不全 , 敗血症 , 薬物中毒 , 熱傷など多岐にわたります . 島しょ医療、伊豆諸島・小笠原諸島から年間 200 件程度のヘリコプター・航空機搬送に対応しています。また島しょ医療機関との画像伝送ネットワークによる診断補助や医師派遣なども行っています。災害医療は東京 23 区唯一の広域基幹災害拠点病院として、各種災害対策訓練を行っています。東京 DMAT としての都内出動もあります。東京 ER の一つとして 1・2 次救急にも力を入れており , 日中は総合診療的な walk-in 患者から 3 次救急まで全てに対応しています。ドクターカーによりプレホスピタルの医療も学ぶことができます。さらに豊富な研究業績があり、やる気があれば臨床研究も実施可能です。本プログラムを通して、3 次救急だけの研修ではなく、1・2 次救急や一般病棟管理、ドクターカーによるプレホスピタル活動、島しょ医療への関わり、災害研修、などで総合診療能力を養いつつ、島しょ医療機関のような医療資源の限られた環境でも役に立てる救急医の養成を目標にしています。プログラムについてはニーズに応じて柔軟な対応が可能であり、臨床研究指導・論文執筆も可能です。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 救急・集中治療 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 救急・集中治療、災害医療、プレホスピタル、地域医療、関連施設研修（杏林大学医学部付属病院高度救命救急センターなど） | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 選択研修（島しょ医療機関も可能） | | | | | | 救急診療・集中治療 | | | | | |

### ● 墨東病院（基幹施設）
**都立墨東病院救急科東京医師アカデミー専門研修プログラム**

プログラム責任者：救命救急センター　杉山　和宏　　プログラム研修期間：3 年

救急医には、目前の患者の緊急度と重症度を判断し即座に対応する「緊急性」、疾病・外傷などの原因や罹患・損傷臓器の種類を問わず対応する「多様性」、加えて、様々な背景の患者の診療に対応する「社会性」が求められます。これらをたゆまず確実に実践していくことが、救急医療を支えていくための礎となる救急科専門医のモットー（すすむべき道・信条）です。墨東病院は ER と独立型の高度救命センターを有し、walk-in 患者から生命の危機が切迫した患者まで、幅広い救急診療に携わることができ、救急医の研修に適した環境にあります。また、集中治療科での研修を合わせて行うことができ、重症患者の ICU 管理を深く学ぶことができます。当プログラムでは、都内有数の症例数を誇る当院での研修を中心に、東京大学附属病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、前橋赤十字病院、島根県立中央病院、小児総合医療センターといった多彩な連携施設にご協力いただき、救急医としての視野を広げることができます。また、研修を通して区東部医療圏の救急医療体制、特に救急搬送 ( プレホスピタル ) と医療機関との連携の維持・発展、災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する仕事も学びます。日常の診療の他に学術的な活動も重視し、積

極的に学会発表、論文発表を行っております。我々とともに地域の救急医療の更なる発展を目指して研修いただける方をお待ちしています。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 救命救急センター | | | ER | | | ICU | | | 他科ローテーション | | |
| 2 年次 | 連携施設 | | | 連携施設 | | | 救命救急センター /ER | | | | | |
| 3 年次 | 連携施設 | | | 救命センター / ＥＲ | | | | | | | | |

## 多摩総合医療センター（基幹施設）
## 東京都立多摩総合医療センター施設群救急科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救急科　清水　敬樹　　プログラム研修期間：3 年

【幅広い診療】

当プログラムは、多摩総合医療センターを基幹施設として、上記の連携施設と連携し救急科専門医を養成するプログラムです。当院では、心肺停止、内因性救急疾患、多発外傷、中毒、広範囲熱傷、ドクターカー、ドクターヘリ、神経集中治療、母体救命、精神科救急、災害医療など幅広い診療が特徴です。初療室から入室した重症患者を主科として管理し、速やかに集中治療管理に移行させ、迅速かつ質の高い集中治療管理を行っています。診療の向上・維持・教育を目的に毎日重症患者のケースプレゼンテーションを若手医師が中心になってじっくりと行います。救急・集中治療に関するエビデンスに基づいた知識を経験が豊富なスタッフからフィードバックを受けることが可能です。我々が重要視していることとして「チーム医療」があります。多職種間でと協調性を持ちながら最善の医療を提供できる救急科専攻医の養成を目指します。また、救急科専門医の取得後のサブスペシャリティーを探す 3 年間となるように院内だけでなく、院外研修など様々な機会を提供します。

【ECMO】

当院は、重症呼吸不全に対する体外循環装置を使用した VV-ECMO に関して、世界基準での管理を確立しています。他院で ECMO を導入し ECMO カーで当院に搬送する primary transport も積極的に行っており、実際の経験やシミュレーション教育を通じて本邦で最高レベルの ECMO 研修が可能です。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 救急、集中治療 | | | | | | | | | | | |
| | 救急医、集中治療医の基礎を、臨床経験を軸に学びます。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 救急、集中治療、病院前診療 | | | | | | | | | | | |
| | 1 年次の経験を基にさらに臨床能力を高め、また主にドクターカーによる病院前診療の研修を開始します。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 連携施設 | | | | | | 救急、集中治療、病院前診療 | | | | | |
| | 2 年次、もしくは 3 年次に合計 6 か月間の院内もしくは院外研修が可能です。6 か月を超えた研修に関しては要相談です。 | | | | | | | | | | | |

（医師アカデミー 災害医療研修風景）

（医師アカデミー 感染症対応能力向上研修風景）

# 総合診療

## 採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎広尾病院
◎駒込病院
◎墨東病院

〇大久保病院
〇神経病院

◎多摩総合医療センター
◎多摩北部医療センター
◎松沢病院

〇小児総合医療センター
〇多摩南部地域病院

## 研修プログラムの特徴

### ● 広尾病院（基幹施設）
### 東京都立広尾病院施設群総合診療専門研修プログラム

プログラム責任者：総合救急診療科　北村　亮
プログラム研修期間：3 年：病院総合医養成コース　　4 年：島医者養成コース

広尾病院は東京都島しょ地域の後方病院かつ、東京総合診療推進プロジェクトの研修施設としても位置づけられています。当プログラムでは家庭医、救急医、行政医の性格を併せもつ『島医者』を養成する 4 年コースと病院総合医、家庭医を養成する 3 年コース（希望により 4 年も可）があり、家庭医、救急医、行政医の性格をあわせもつ『島医者』や『病院総合医』、『家庭医』と様々な目標を持つ専攻医に合わせた柔軟な研修が提供できます。研修では総合救急診療科・病院総合診療科・救命救急センターの他、各専門内科、小児科での必修研修を行います。そして、産婦人科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科などの外来診療研修も準備し、まさに科にとらわれない総合診療医を目指します。地域で 1 人で自立できる学びを支えるワークショップや、レクチャーも豊富で海外研修も準備しています。研修を行う連携医療機関のうち、島しょ部や山間部のへき地医療機関では、診療以外に地域保健なども含めた地域医療を学ぶことができます。また都心部の一次医療機関でも、身近な医師患者関係を背景に総合診療のコアコンピテンシーを学ぶことができます。高次医療機関では専門性の高い研修も可能です。総合診療を極める上で最も整備された医療環境が用意されています。研修修了後は地域と病院で活躍できる病院総合医や家庭医はもちろんのこと、へき地診療や国際貢献などで活躍できる医師像が待っています。どっぷり浸かってみるだけの価値は保証付きです。

**研修コースモデル**

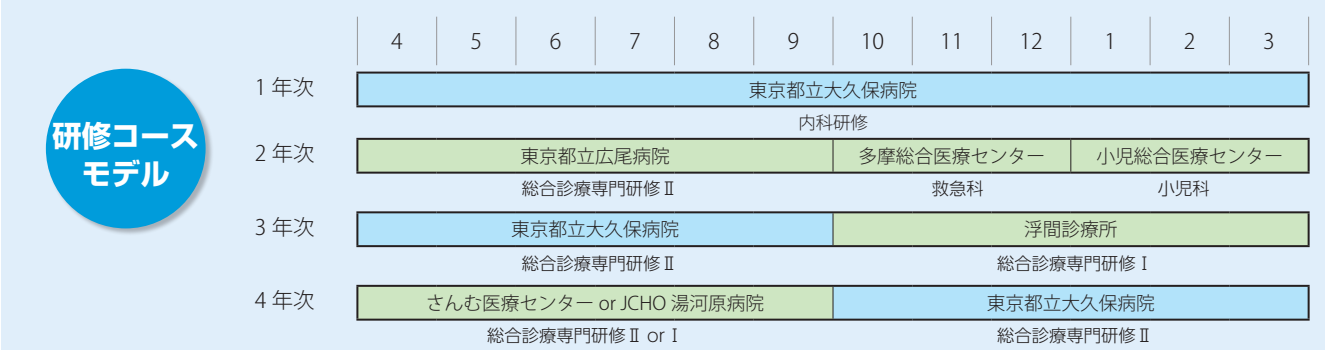
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 病院総合診療（内科） | | 内分泌内科 | 循環器内科 | | | 消化器内科 | | 神経内科 | 呼吸器内科 | | 腎臓内科 |
| | 内科全体で 1 年間の研修を行います。専門内科は希望にあわせ偏りのないよう研修を組みます。内科研修中も総合診療外来研修も行います。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 小児科 | | | 産婦人科 | | | 総合救急診療科（総合診療研修 II） | | | | | |
| | 小児科、産婦人科では入院診療の他、乳幼児健診、妊婦検診なども学びます。総合救急診療科では病院総合医としての診療を学びます。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 島しょ診療所・病院もしくは山間部病院　（総合診療研修 I） | | | | | | | | | | | |
| | 島しょ部もしくは山間部の診療所・病院での総合診療の実践、地域保健への参画などを行います。地域での役割を認識する 1 年となります。 | | | | | | | | | | | |
| 4 年次 | 眼科 | | 耳鼻科 | 救急科 | | | 皮膚科 | | 内視鏡 | 整形外科 | | |
| | 救急科では救命救急センターで 3 次救急と ICU 管理を主体に学びます。他、診療科では外来診療を中心に必要とされるスキルを学びます。 | | | | | | | | | | | |

### ● 大久保病院（基幹施設）
### 東京都立大久保病院総合診療専門研修プログラム

プログラム責任者：総合診療科　福田　達也　　プログラム研修期間：４年

東京都立大久保病院は、新宿・歌舞伎町という都内最大級の繁華街に位置し、外国人居住者や旅行者、独居高齢者、生活困窮者など、多様な社会背景を有する患者の診療を日常的に経験できることが大きな特徴です。疾患そのものだけでなく、言語や文化の違い、経済的問題、家族関係、医療アクセスの困難さなど、患者を取り巻くコンテクストを踏まえた診療能力が求められます。救急外来では軽症から重症まで幅広い症例を経験し、病棟では多疾患併存患者の包括的マネジメントを実践します。さらに、本プログラムでは関連施設での研修を通じて、都市部の急性期医療のみならず、外来・在宅医療、地域包括ケア、小児医療、救急医療、地域中核病院での診療など、多様な医療現場を経験することが

できます。それぞれ異なる地域特性や医療資源の中で診療にあたることで、場に応じて柔軟に対応できる総合診療能力を養います。都市型総合診療の最前線から地域医療の現場まで、多様な症候・疾患への対応力と、複雑な社会的課題に向き合う視点を身につけ、「病気だけでなく人を診る」総合診療医としての真の実践力を修得できることが、本プログラムの大きな魅力です。

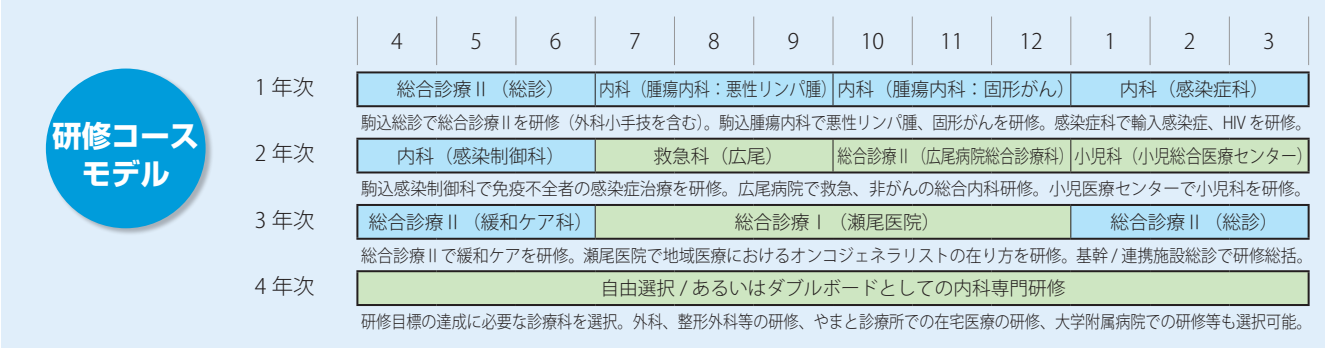



## ● 駒込病院（基幹施設）
## 東京都立駒込病院総合診療科専門研修プログラム

プログラム責任者：総合診療科　久保田　尚子　　プログラム研修期間：3年（～4年）

東京都立駒込病院は、各診療科の総合基盤を備えた、がんと感染症を重視した病院であると同時に、東京都区中央部医療圏の2次救急病院です。当院総合診療科は外来研修や病棟研修を通じて一般的な症候学や疾病を学ぶのみならず、専門診療科へのコンサルテーションを通じて、診断困難な症例へのアプローチをも習得できる場です。2次救急までの救急領域の研修も可能です。総合診療科を軸に腫瘍内科、緩和ケア科、感染症センター等とも協働し「がん診療に強い総合診療医、オンコ・ジェネラリスト」を目指す、「腫瘍総合診療プログラム」という位置づけです。

プログラムに自由度を持たせるために連携施設を拡大し、専攻医の将来ビジョン（病院総合診療医、家庭医、内科医、緩和ケア医、腫瘍内科医等）にあわせたローテイトを組むことが可能です。都立病院連携に加え、東京科学大学総合診療科、東京北医療センター総合診療科、台東区立病院、練馬光が丘病院、大泉生協病院、やまと診療所、瀬尾医院（広島県）とも連携しています。4年目も研修目標に応じて幅広く診療科を 選択して研修することが可能です。R8年度は総合診療→内科ダブルボード研修（4年で修了）も計画しています。



# 総合診療

## 墨東病院（基幹施設）
## 都立墨東病院総合診療科専門研修プログラム

プログラム責任者：感染症科　中村　ふくみ　　プログラム研修期間：4 年

都立墨東病院施設群総合診療科専門研修プログラムは病院、診療所などで活躍するための高い能力を有する総合診療専門医を養成することを目的として創設されました。その特徴は以下の通りです。

・人口 145 万人を抱える東京都区東部医療圏（墨田区・江東区・江戸川区）において最大かつ唯一の都立総合病院であり、高度救命救急センターを有する 24 時間 365 日の救急医療（東京 ER・墨東）、総合周産期母子医療センター、感染症やがん、難病医療も重要な柱として強力に地域医療を支える当院の総合診療基盤を、基幹施設として最大限に活用します。

・都内島しょや被災・復興地域を含む国内過疎地で地域医療、在宅診療を支える連携施設（岩手県一関市、陸前高田市、新潟県妙高市の各医療機関）での計 12 ヶ月の研修が行えます。

・4 年コースにより内科 12 ヶ月、小児科 3 ヶ月、救急 3 ヶ月、総合診療 I 、II 合計 18 ヶ月以上の必修研修 + 個々の希望やニーズに応じた選択研修も十分な余裕があります。

・多彩な施設群での研修によりさまざまな現場を体験する中で、総合診療の意義を体感し、救急に強く多様なステージで力を発揮できる骨太の総合診療医を目指します。

・病院総合診療医として、臓器・領域別の専門医や院内外の様々な部署、機関とも連携を図りながら患者さんの全人的・総合的な問題解決を図るノウハウを習得できます。

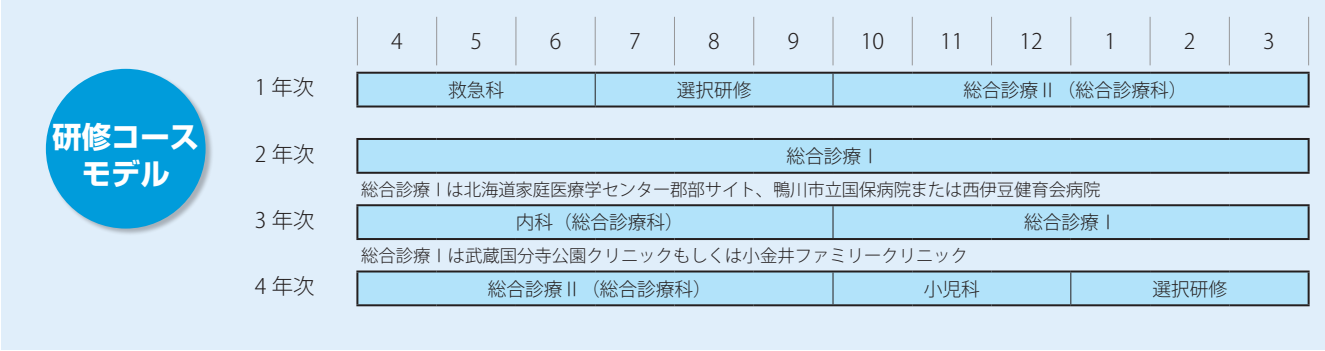
**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 内科 | | | 内科 | | | 内科 | | | 救急科 | | |
| 2 年次 | 内科 | | | 放射線科・整形外科・産婦人科 | | | 小児科 | | | 総合診療専門研修 II | | |
| 3 年次 | 皮膚科・耳鼻科・泌尿器科 | | | 総合診療専門研修 II（聖母病院） | | | 総合診療専門研修 I（島しょ等） | | | 総合診療専門研修 I（都内連携施設） | | |
| 4 年次 | 総合診療専門研修 I （都外連携施設） | | | | | | | | | 総合診療科 | | |

## 多摩総合医療センター（基幹施設）
## 多摩総合医療センター施設群総合診療科東京アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救急・総合診療科　村田　研吾　　プログラム研修期間：4 年

東京西部の多摩地域を中心とした、都市部における医療施設で研修プログラムを提供します。拠点と成る東京都立多摩総合医療センターは、多摩地域における基幹総合病院であり、幅広い年齢層に対する一般外来診療・救急診療・入院診療をほぼ全診療科に渡り提供しています。幅広い健康問題に対して向き合う環境にあり、総合診療研修に適しています。人に起こる多様な問題に対して、その臨床現場のコンテクストに沿って対応できる臨床医の育成を基本理念としています。本プログラムでは、小児期については小児総合医療センターと連携、成人については多摩総合医療センター救急・総合診療科を中核とし、各診療科との連携で症例経験を得ることが可能です。さらに通院困難者・高齢者においては近隣医療機関や東京都島しょの施設と連携し、在宅医療もフィールドに含み、医療を展開します。生物科学的な観点だけでなく、ライフサイクルイベントに配慮し、家族関係・心理社会的な観点からもアプローチを行うことが可能な医師の育成を図ります。この中で、他職種ともチームを形成し、連携することで、調整・統括業務が可能となるよう、コミュニケーションスキルの向上とともに、チームビルディングの実際を経験できる環境を提供します。各診療科での指導とともに、2-3 ヶ月に 1 回の定期的な面談、ポートフォリオ指導・勉強会、ER ランチョンレポート（臨床推論指導）、家庭医療勉強会（家庭医療のコア内容・診療科 / チーム運営に必要なマネジメントスキルなどを指導）等により内容を補完します。




## ● 多摩北部医療センター（基幹施設）
## 多摩北部医療センター総合診療専門研修プログラム

プログラム責任者：総合診療科　金井　貴夫　　プログラム研修期間：3～4年

多摩北部医療センターを基幹施設とする、東京都北多摩北部医療圏 ( 人口約 74 万人 ) 中心の総合診療専門医育成を目的とした研修プログラムです。当院は医療圏の中心的な急性期病院であり、北多摩北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とともに研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる総合診療専門医を目指せます。

将来、総合診療医として活動する場に応じて、診療所に比べて主に病院での研修に重点を置く研修（病院重点）や病院に比べて主に診療所での研修に重点を置く研修（診療所重点）など、多様なローテーションを組み立てることができます。

なお、内科とのダブルボードを希望する者はさらに 1 年間の内科研修を付加することができます。

上記の様に多くの施設と連携を組んでおり、基幹施設である多摩北部医療センターと連携施設との 3 年間で、総合診療専攻研修において求められる 7 つの資質・能力（包括的アプローチ、一般的な健康問題に対する診療能力、患者中心の医療・ケア、連携重視のマネジメント、地域包括ケアを含む地域志向アプローチ、公益に資する職業規範、多様な診療の場に対応する能力）を効果的に習得することができます。

症例をある時点で経験するということだけではなく、主治医として、初診、入院から退院、外来通院まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

# 総合診療

## 松沢病院（基幹施設）
## 松沢病院総合診療専門研修プログラム

プログラム責任者：総合診療科　島田　恵　　プログラム研修期間：3 年

東京都立松沢病院は、約 140 年の歴史を持つスーパー精神医療センターであり、身体合併症を持つ様々な精神疾患患者の診療を内科や外科、整形外科等の診療科と精神科の専門医師たちが中心になって 1 つのチームとして対応する総合診療体制を組んでいます。精神科と総合診療科は患者の社会的な背景も含めて全人的な医療を行う点で共通する部分も多いため、病院から在宅まで広く活躍する総合診療医を育成する体制が整っています。特に、精神疾患を持つ方の全人的医療・ケアについては、地域の診療では大きな課題であるにも関わらず、総合診療的な視点から学べる施設はほとんどありません。これらの利点を生かし松沢病院では、心のケアに強い総合診療医を育成すべく新たな総合診療の研修プログラムを立ち上げました。

**研修コースモデル**

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年次 | 総合診療 II（松沢病院） | | | | | | 総合診療 II（松沢病院） | | | 救急（都立広尾病院） | | |
| | 4－9 月は松沢病院で身体合併症医療を中心とした診療、10－12 月は小児、1－3 月は救急研修を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 2 年次 | 精神科（松沢病院） | | | | | | 小児科（都立小児総合医療センター） | | | 総合診療 II（広尾病院） | | |
| | 4－9 月は松沢病院で精神科のみの研修、10－3 月は広尾病院で総合診療 II の研修を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 3 年次 | 総合診療 I（佐渡総合病院または高山赤十字病院） | | | 総合診療 I（佐渡総合病院または高山赤十字病院） | | | 内科（松沢病院） | | | | | |
| | 4 － 9 月は佐渡総合病院または高山赤十字病院で総合診療 I の研修、10 － 3 月は松沢病院で内科研修を行う。 | | | | | | | | | | | |

# HOSPITAL DATE

病院紹介

# 広尾病院

〒 150-0013
東京都渋谷区恵比寿二丁目 34 番 10 号
電話　03-3444-1181

広尾病院
HP

## 病院概要

救急・災害医療、島しょ医療、心臓病医療及び脳血管疾患医療に重点を置いた総合的な病院であり、「東京 ER・広尾」を擁するほか、心臓循環器救急及び、熱傷救急にも対応しています。島しょから重症患者の航空搬送および受け入れを行っています。基幹災害拠点病院として、他の災害拠点病院、災害ボランティア、企業及び行政の防災担当者等を対象とした訓練・研修を行うとともに、大規模災害時における重傷患者の受入体制を確保し、DMAT 及び医療救護班の派遣体制を常時整えています。 また、国際化対応にも力を入れ、都立病院としては初の認証（JMIP 認証）を受けております。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 408 床 | 109 人 | 14 人 | 23 人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 253 人 | 585 人 | 11,553 人 | 6,238 台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

血液内科　糖尿病内分泌科　消化器内科　腎臓内科　脳神経内科　感染症内科　リウマチ膠原病科　呼吸器科
循環器科　神経科小児科　外科　心臓血管外科　整形外科　リハビリテーション科　脳神経外科　形成外科
皮膚科　泌尿器科　産婦人科　眼科　耳鼻咽喉科　放射線科　歯科口腔外科　麻酔科　救命救急センター
総合救急診療科　内視鏡科　輸血科　検査科　病院総合診療科　外傷センター

## 臨床研修委員会委員長からのメッセージ

循環器科医長
**北條　林太郎**

各診療科コースプログラムのうち、当院で研修が困難な内容については東京医師アカデミー関連病院等での院外研修も可能です。原則として専門診療科コース研修ではありますが、診療科ローテーションなど、各人の研修希望を可能な限り尊重しつつ研修プログラムを立案しています。研修管理委員会では、診療技術・知識の習得を目的とした院内学習会、臨床研究サポートチームによる研究計画立案・学会発表のアドバイス、院外講師を招いての研究手法の講義、などを定期的に行っております。私自身、当院シニアレジデントの出身でもあり、その様な経験を活かし、皆様の研修が有意義になるようサポートしていきます。

広尾病院 R8 年度生

## 専攻医の声 Q&A

循環器科
3年次
横関　文弥

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 当院ではカテーテル治療をはじめとした循環器疾患の検査・治療件数が多く、循環器科の若手レジデントの人数も多い環境のため、活気ある現場で研修を行うことができます。専攻医が始まったばかりの頃は突然循環器内科の医師として院内や救急の循環器疾患に対応することになり不安も大きいため、年次の近い先輩レジデントや虚血・不整脈の上級医に気軽に相談できる環境は非常にありがたく感じます。学会発表の機会も豊富で、診療科として発表を奨励しておりプレゼンテーションの能力を高めることができます。また、専攻医は夜間や土日の内科救急の対応も行っており、多彩な症例の初療にあたります。診療科の垣根は低く気軽にコンサルトが可能な環境で、内科専攻医としての症例に困ることもありません。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** 若手にどんどん経験を積ませようという雰囲気があり、シニアレジデント1年目から術者としての経験を多く積むことができます。一方でチームでの診療を行っていますので、オンコールや休日の診療は協力しながら実施でき、メリハリのある生活を送ることができています。院外研修や連携施設も豊富にあり、自分の希望にあった研修を行うことができました。院内では他科へのコンサルトを行うと快く引き受けていただけることが多く、診療科同士の円滑な連携が行えています。循環器診療の多くを自院で経験でき、研修しやすく生活しやすい環境です。ぜひ当院での研修を検討ください。

カンファの様子

心臓カテーテル

HCU 病棟

JMECC 講習

ドクターカー

ヘリ搬送

# 大久保病院

〒160-8488
東京都新宿区歌舞伎町二丁目44番1号
電話　03-5273-7711

大久保病院
HP

## 病院概要

当院は新宿区歌舞伎町に位置する東京都区西部医療圏の中核病院です。急性期病院として、①腎医療(腎移植、透析、IgA腎症、慢性腎臓病)、②循環器医療（心臓カテーテル、不整脈治療)、③がん医療（乳がん、消化器がん)、④脳卒中医療（脳神経内科、脳外科、リハビリ科)、⑤救急医療（二次救急指定医療機関）を重点医療として位置づけています。これらの機能に加えて回復期病床（地域包括ケア病棟）も備え、地域医療支援病院、在宅療養後方支援病院として地域住民との関係を密にした医療を推進しています。さらに当院周辺には在日外国人が多く居住されているという環境の中で、訪日外国人の増加に備えた病院の国際化にも取り組んでいます。304床というコンパクトな施設ですが、急性期に対応する専門性と地域支援の両方の機能を兼ね備えた病院として、各診療科が高い意識を持ちつつ日常臨床を行っています。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 304床 | 60人 | 8人 | 5人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 164人 | 318人 | 10,345人 | 4,808台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

内科（消化器内科　呼吸器内科　内分泌代謝内科　脳神経内科　救急科）　腎臓内科　循環器内科
外科（一般外科　消化器外科　乳腺内分泌外科科）　血管外科　乳腺外科　整形外科　リハビリテーション科
脳神経外科　泌尿器科／移植外科　婦人科　眼科　耳鼻咽喉科　歯科口腔外科　麻酔科　放射線科　精神科
皮膚科　病理診断科

## 臨床研修委員会委員長からのメッセージ

麻酔科医長
山縣　克之

当院の内科総合専門医は15名おり、多数の学会の認定教育病院です。各科の専門医資格を持つ指導医が充足しています。指導医の先生は皆熱心で、医局は全科同室で、アットホームな雰囲気です。一般的に病院では各科の垣根が高くなりがちですが、当院では垣根が低く、患者さん中心の医療を心掛け、人の輪を大事にしています。新宿歌舞伎町という立地条件で、交通アクセスは良好で、症例、手技も豊富です。レジデントが成長していくのは指導医の楽しみとなっています。知識欲旺盛な先生に来ていただくことで、指導医自身も活力と向上心を共有できます。内科専門医制度でのサブスペシャルの専門医取得を危惧している研修医の方もいらっしゃると思いますが、心配ありません。内科総合専門医と各サブスペシャル専門医の取得を同時進行できるように考慮しています。専門の科を決定していれば、他科、他院をローテイトしていても専門医取得に必要な学会発表、論文投稿も行えます。症例の経験や手技も認定医、専門医取得に向けた指導を行います。

イベント出展時の様子

内科カンファレンスの様子

## 専攻医の声 Q&A

腎臓内科
２年次
齊藤　航貴

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 当院は都立病院機構における腎センターとして IgA 腎症を代表とする糸球体疾患や急性腎障害（AKI）、慢性腎臓病（CKD）、高度な透析管理に至るまで、腎疾患全般に対し急性期から慢性期まで一貫した医療を提供しています。特筆すべきは移植外科との強固な連携体制であり、自施設において生体腎移植を含めた腎代替療法の選択肢を経験できる点は専門医研修において非常に有意義な環境です。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** 中規模病院としての機動力を活かし、診療科の枠組みを超えた緊密なコンサルテーションが日常的に行われている点に大きな意義を感じています。複雑な合併症を呈する症例においても、他科の指導医や多職種チームと迅速に連携できる環境が整っており、多角的な視点から臨床推論を深めることができました。

## サブスペシャルティ領域（詳しくはホームページをご参照ください）

| 内科（プログラム期間） | |
|---|---|
| 循環器（４年） | 腎臓（４年） |

研修医室

図書室

外観

ヘリポート

# 大塚病院

〒170-8476
東京都豊島区南大塚二丁目８番１号
電話　03-3941-3211

大塚病院
HP

## 病院概要

周産期医療、小児医療、救急医療、がん医療、リウマチ膠原病医療、そして小児精神医療（外来）を重点医療として掲げ、地域に密着した総合的医療を展開している病院です。ほぼ全ての診療科を網羅しつつフットワークが軽いというバランスのとれた規模が特色で、都心にありながら静かな環境にある病院です。早産の赤ちゃんから 100 歳を超えるご高齢の患者さんまで、あらゆる年齢層の患者さんを受け入れています。総合周産期母子医療センターとして、M-FICU 及び NICU を活用した高度の周産期医療を提供しており、都内でも有数の母体搬送受け入れ実績及び超低出生体重児入院実績をあげています。総合診療や救急医療にも力を入れており、充実した研修を行う事ができる施設であると自負しています。また、優れた医療人材、コメディカル、事務スタッフが集まり、患者や地域の医療機関を引き付けて離さない魅力ある病院“マグネット・ホスピタル”であることを目標としています。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 405 床 | 95 人 | 43 人 | 12 人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 267 人 | 621 人 | 12,986 人 | 5,167 台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

消化器内科　腎臓内科　糖尿病内科　血液内科　脳神経内科　呼吸器内科　循環器内科　児童精神科　精神科
リウマチ膠原病科　小児科　外科　整形外科　形成外科　脳神経外科　皮膚科　泌尿器科　産婦人科　眼科
耳鼻咽喉科　リハビリテーション科　麻酔科　口腔科　放射線科　救急診療科

## 臨床研修委員会委員長からのメッセージ

小児科医長
**江崎　隆志**

初期研修では多くの診療科をローテイトして医師としての基本的な心構えとプライマリケアの基本的な診療能力を養いますが、後期研修では専門領域の研鑽を積んで学会の専門医資格を取得することが目標になります。大塚病院では、専門研修に加えて総合診療能力を育成しバランス感覚の優れた医師を育てたいと考えています。

「総合周産期母子医療センター」は常時三次救急対応で高度な周産期医療を提供しています。母体搬送を年間 100 件以上受け入れており、例年都内上位に入ります。ちなみに超緊急帝王切開は手術決定から胎児娩出まで 20 分以内です（最短実績 12 分）。母性内科というコンセプトのもと内科やリウマチ膠原病科と密に連携し、合併症妊婦を多数診療しています。新生児科では NICU15 床、GCU30 床を備え、1,000g 未満の超低出生体重児を含む新生児を年間 500 例前後受け入れています。

また、当院は区西北部保健医療圏の二次救急医療機関として、また地域連携医緊急診療依頼専用電話を活用し、「断らない救急」をめざしています。救急患者取扱い数は年間 1.3-1.7 万例あります。2021 年には 1 次脳卒中センターとしての認定を受け、脳卒中急性期の疑われる患者に対しすみやかな診断・治療をおこなっています。超高齢社会にあっては自分の専門外の問題に取り組まなければならないことも多いのですが、各科で常に協力体制をとって診療にあたっています。多くの優秀な指導医や習熟したコメディカルスタッフが支援し、横の連携のよい「アットホームな雰囲気の病院」で研修できますが、充実した研修になるかどうかは皆さんのやる気や熱意にもかかっています。やる気と熱意、積極性のある若者を募集します！

研修の様子①

研修の様子②

## 専攻医の声 Q&A

小児科
３年次
山本　裕記

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 東京都立大塚病院小児科後期研修プログラムは、大塚病院小児科２年３か月、大塚病院新生児科３か月、外部病院６か月のローテーションで構成されています。多くの期間を過ごす大塚病院小児科では外来・入院を通じて幅広い症例を主治医として担当し、指導医のもとで実践的な力を養うことができます。当院は総合周産期母子医療センターとして超早産児への対応も行っており、新生児症例も豊富に経験をつめます。さらに外部施設では小児の重症管理や専門疾患の経験を積むことができ、一般的な疾患から専門領域までバランスよく習得できる点が大きな魅力です。

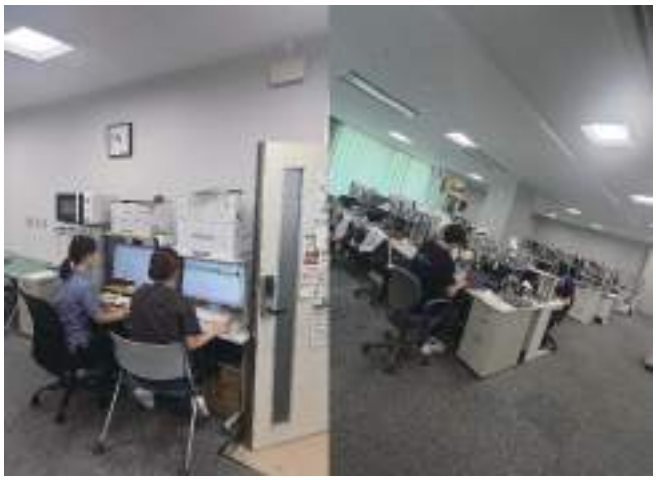
### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** 小児科は専門性と同時に Generalist としての一面が強い診療科です。患者である子どもの病気だけでなく、その成長発達を支え、時には家族や地域にも関わる力が求められます。大塚病院小児科では専攻医が主治医として診療にあたり、多様な症例に主体的に関わることができます。主治医としての責任を持って診療に臨む中で、病気だけでなく患者に寄り添う姿勢や、小児科医として真に求められる役割を学ぶことができていると日々実感しています。このような環境で研修できることは、小児科医としての第一歩を踏み出す上で非常に恵まれていると感じています。

## サブスペシャルティ領域（詳しくはホームページをご参照ください）

| 内科（プログラム期間） | 産婦人科（プログラム期間） |
|---|---|
| 糖尿病（１～４年） | 周産期（３年） |

外来の様子



研修医医局

症例発表会

修了式

# 駒込病院

〒113-8677
東京都文京区本駒込三丁目18番22号
電話　03-3823-2101

駒込病院
HP

## 病院概要

がん・感染症を中心とする疾患に対し高度な医療サービスを行う専門病院であり、併せて、一般医療機関の要請による地域医療サービスも行う病院です。総合診療基盤に支えられ診療各科の連携のもとそれぞれの専門領域を尊重した診療を行っています。都道府県がん診療連携拠点病院、エイズ診療中核拠点病院、第一種感染症指定医療機関、造血幹細胞移植推進拠点病院等に指定され全国から多数の患者を集めています。当院は教育・研究活動の充実を図っていることも特徴です。臨床研修医制度による指定病院であるとともに各種の臨床研修の指定をうけています。その他、一般医療機関に対する研修の場の提供や都立病院に勤務する医療従事者、医療関係学生および看護学生等の実習・教育も行っています。院内ではキャンサーボード等カンファランスを活発に行っているほか、臨床研究、学会活動および論文作成など、高度な医療水準の維持に努めています。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 815 床 | 209 人 | 26 人 | 51 人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 55 人 | 1,212 人 | 4,096 人 | 2,264 台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、脳神経内科、血液内科、腎臓内科、肝臓内科、膠原病科、糖尿病内科、総合診療・救急科、精神腫瘍科、腫瘍内科、緩和ケア科、小児科、外科、食道外科、肝胆膵外科、胃外科、大腸外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、リハビリテーション科、骨軟部腫瘍科、脳神経外科、形成再建外科、皮膚・皮膚腫瘍科、腎泌尿器外科 、婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、歯科口腔外科、感染症科、感染制御科、麻酔科 、輸血・細胞治療科、放射線診断科、放射線治療科、内視鏡科、病理科、遺伝子診療科

## 臨床・教育研修委員会委員長からのメッセージ

肝胆膵外科部長
**脊山　泰治**

当院の専門臨床研修医制度は平成4年に開始され平成20年から東京医師アカデミーの研修コースに組み込まれ、平成30年度から日本専門医機構による新専門医制度にも対応しております。当院での専門臨床研修の特徴は、各診療科の総合基盤に支えられた最先端のがん診療、感染症診療を経験できることです。また学会活動や論文発表を活発に行っている指導医のもとで、様々な学会での発表や論文作成の機会にも恵まれています。ロボット手術では da Vinci Xi が2台、更に SP（シングルポート）が導入され、外科、泌尿器科、婦人科、耳鼻科など多くの診療科が最先端の手術を行っており、レジデントのロボット外科教育にも力を入れています。がんの診断、治療、研究だけでなく緩和ケアなど患者サポートも充実しており、がん診療を総合的に学ぶことができます。がん、感染症以外も専門性の高い科が揃っていますので、是非一度見学に来てください！

外科合同カンファレンス（特別講演）

肝胆膵キャンサーボード風景

## 専攻医の声 Q&A

乳腺外科
令和7年度修了
尾﨑　沙羅

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 当院の研修プログラムでは、豊富な症例を通して外科専門医取得に必要な症例を十分に経験できる上に、各分野のエキスパートである指導医の先生方から高度な知識やスキルを学ぶことができます。さらにローテイトする診療科を希望に合わせて選択できる期間もあり、関連病院や志望科に関わりの深い他の診療科を実際に研修することで、病院ごとに異なる診療体制や多様な疾患・背景を持つ患者さんの診療に関わり、幅広い視点から経験を積むことができます。また、学会発表や論文執筆などの学術活動も活発で、日々の診療を学術的な視点から振り返り、発信する力を身につけられる点も大きな魅力です。ぜひ一度見学にお越しください。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** 学生時代から乳腺外科医を志望していた私にとって、当院には十分な乳腺外科症例があり、日々多くの経験を積めることが大きな魅力でした。病棟管理や手術手技だけでなく外来診療も経験させていただき、診断から手術や再発治療、緩和ケアまで一貫して患者さんに主体的に関わりながら乳癌診療を学ぶことができました。また、形成再建外科、病理科、放射線治療科、緩和ケア科、遺伝子診療科などを研修し、それぞれのスペシャリストから多角的に乳癌診療を学べたことは非常に貴重な経験でした。診療科同士の垣根も低く、他科へ相談しやすい環境に加え、上級医も非常に教育熱心で、診療や進路について気軽に相談できる教育環境が整っています。初期研修から継続して学んできた経験を活かし、今後は後輩にも当院で学ぶ魅力を伝えていきたいと思っています。

## サブスペシャルティ領域（詳しくはホームページをご参照ください）

| 内科（プログラム期間） |
|---|
| 呼吸器（3／4年） |
| 感染症（3年） |
| 消化器内視鏡（3年） |
| 腫瘍内科（がん薬物療法）（2～5年） |

| 外科（プログラム期間） |
|---|
| 消化器外科（3年） |
| 乳腺外来（3年） |

| 泌尿器科（プログラム期間） |
|---|
| 泌尿器（3年） |

| 放射線科（プログラム期間） |
|---|
| 放射線治療（3～5年） |
| 放射線診断（3年） |

CPC カンファレンスシーン

腎泌尿器外科

災害医療研修

# 豊島病院

〒 173-0015
東京都板橋区栄町 33 番 1 号
電話　03-5375-1234

豊島病院
HP

## 病院概要

豊島病院は東武東上線大山駅（池袋から 5 分）から徒歩約 8 分、中板橋駅から徒歩約 10 分、都営三田線板橋区役所前駅から徒歩約 12 分の立地にあり、地域支援型病院として 23 区西北部（板橋区、練馬区、北区、豊島区）の地域医療を担っています。（1）救急医療（二次救急）、（2）がん医療（消化器系・呼吸器系、血液、泌尿器系、婦人科系悪性腫瘍等）、（3）脳・心血管疾患（東京都 CCU ネットワークに参画・脳神経外科および神経内科が協力して脳卒中ケアユニットを構築）を重点医療として取り組み、地域との連携を重視した医療を推進しています。当院では“断らない救急“を目指しており、二次救急指定病院としての救急医療、緩和ケア、精神科救急、感染症、リハビリテーション、障害者歯科にも積極的に取り組んでおります。また病床約 411 床の中規模病院ですので各科、各部署との連携が取りやすく、風通しもよく、小回りがきくのが特徴です。
豊島病院の基本運営方針でも掲げているように、患者中心の医療に病院総合力を結集し、将来の医療を支えるため優れた医療人を育成することに力を注いでいます。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 438 床 | 102 人 | 18 人 | 8 人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 286 人 | 529 人 | 9,592 人 | 4,649 台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

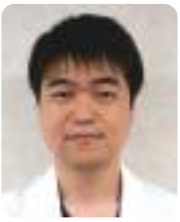
内科　脳神経内科　内分泌・代謝内科　呼吸器内科　消化器内科　循環器内科　腎臓内科　血液内科　精神科
小児科　外科　消化器外科　食道外科　肝臓・胆のう・膵臓外科　大腸外科　乳腺外科　整形外科　形成外科
脳神経外科　皮膚科　泌尿器科　産婦人科　眼科　耳鼻咽喉科　リハビリテーション科　放射線科　歯科口腔外科
麻酔科　感染症内科　緩和ケア内科　病理診断科　救急科　肛門外科

## 臨床研修委員会委員長からのメッセージ

腎臓内科部長
**奥津　理恵**

豊島病院は内科、精神科の基幹病院ですが、その他の診療科も連携病院として充実した研修をおくれるよう、各科専門領域の認定医、専門医の取得を目標としてカリキュラムが作られています。当院における研修の一番の特徴は、技術習得の機会が多いことにあります。レジデントの経験する手術症例数、検査手技数が他の施設と比べて非常に多くなっています。日常の臨床では、専攻医（シニアレジデント）の活躍の場が多く、後期研修に要求されるプライマリケア症例を多数経験できます。また一般臨床だけでなく二次救急の場でも、みなさん活躍しています。その他、初期研修医への教育も担ってもらいます。豊島病院としての診療環境の特質は、看護師、検査技師、コメディカル、各科、各部署の連携がとても取りやすく、アットホームであることです。コミュニケーションを大切にするということは、医療を円滑に行うことができるということであり、専攻医が活躍してゆくのにも極めて重要です。院内研修会、CPC、学会発表など機会も多く、参加費の助成制度もあります。
ぜひとも希望する科のカリキュラムをご覧ください。そして見学に来ていただければ、より豊島病院を知ることができ、実感できると思います。一緒に働けることを楽しみにしております。

## 専攻医の声 Q&A



循環器内科
２年次
町田　宗将

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 当院は、総合病院として様々な診療科の医師をはじめ、多くのコメディカルと協力し診療を行っております。総合医局であり、科の垣根を越えて相談がしやすく、またコメディカルの皆様とも連携を取りやすい環境となっております。自身が専攻する循環器内科では、救急対応から病棟管理、心臓カテーテル検査や経食道心エコー検査など、率先して経験できる環境が整っております。上級医師の指導の下、日々研鑽を積むことができ、研修の場として大変ありがたく思っております。また内科 J-OSLER も指導体制が整っており、必要な症例は他科の協力を得ることが可能です。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** 東京医師アカデミーでは、外部施設で３か月間救急科ローテイトをする機会があります。救急科としての知識や経験を積めるだけではなく、他施設の方々と接する機会でもあり大変有意義な期間でした。またシニアレジデントへの研修費用もあるため、医学書や学会費用に充てることができます。非常に有意義な時間を過ごさせていただいております。シニアレジデントとしての第一歩を歩む場所としては大変良い環境だと思いますので、ぜひ興味のある方は当院へ見学にいらしてみてください。

## サブスペシャルティ領域（詳しくはホームページをご参照ください）

| 内科（プログラム期間） |
| --- |
| 循環器（２年） |

院内修了式

病院中庭「パティオ」（スペイン語で「中庭」の意）

消化器シニア内視鏡レクチャー

外科シニアオペ

# 荏原病院

〒 145-0065
東京都大田区東雪谷四丁目５番 10 号
電話　03-5734-8000

荏原病院
HP

## 病院概要

荏原病院は、設立から 100 年を超える東京都大田区に位置する歴史ある病院で、田園調布を中心に、城南地区と呼ばれる大田区・品川区・世田谷区・目黒区の地域医療を担う中核病院としての役割を果たしています。当院は、急性期医療において、地域医療機関と連携しながら二次医療機能を担う病院としての役割を担っていますが、脳血管疾患医療や集学的がん医療などについても重点的に取り組んでいます。総合病院としての背景を生かし、救急医療、高気圧酸素治療、総合脳卒中センター、認知症疾患医療センター、緩和ケア、感染症内科などの特色ある機能を持っています。日本の医療の将来を担う若手医師の育成も当院の重点項目の一つであり、新専門医制度に対応した基幹施設として、内科、麻酔科、精神科の専門プログラムが設定されており、多くの若手医師が日々院内外で研鑽を積んでいます。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 461 床 | 86 人 | 12 人 | 14 人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 216 人 | 414 人 | 11,079 人 | 5,159 台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

内科　循環器内科　感染症内科　神経内科　脳神経外科　外科　乳腺外科　整形外科　リハビリテーション科
小児科　皮膚科　形成外科　泌尿器科　眼科　産婦人科　耳鼻咽喉科　歯科口腔外科　精神科　麻酔科
放射線科　検査科　病理診断科

## 臨床研修委員会委員長からのメッセージ

精神科部長
**成島　健二**

荏原病院は東京医師アカデミーに属し、３つの専門医研修プログラムを持ちます。461 病床、21 診療科をもつ当院は、働きやすい中規模の総合病院であり、医師同士の距離感が近いため、アットホームな雰囲気でフットワークのよい診療が実践されています。このような診療環境は、若手医師の教育の場面でも存分に活かされています。内科専攻医は、消化器、循環器、呼吸器、内分泌、感染症に所属する専門医から直接指導を受けるとともに、地域に根差した病院であることを背景に、いわゆる common disease を幅広くかつ十分に経験することができます。麻酔科専攻医は、恵まれた指導体制のもとに、きめ細かい指導を受けますが、小児や心臓手術などの高度に専門的な麻酔は院外研修が可能です。ペインクリニックや緩和ケアなども、希望があれば経験できます。精神科専攻医は、総合病院の医療資源を生かして十分な検査を行い、薬物療法、精神療法などを柔軟に組み合わせて最善の治療を行うプロセスを体験できます。専攻医は指導医からの指導に加え、カンファレンスで多面的な指導を受けるため、精神科医療の基本を効率的に体得できます。看護師、心理士、精神保健福祉士等との密度の濃いチーム医療は、研修をより実りあるものにするでしょう。全ての研修プログラムは、院内研修のみでも実践的かつ具体的な知識や治療技法を身につけられるよう設定されていますが、専門性の高い他施設と連携することで、専攻医に理想的な研修環境を提供しています。

病院救急車

オリエンテーション

## 専攻医の声 Q&A

精神科
Y.F

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 当院プログラムの最大の特色は、総合病院ならではの豊富な医療資源を生かしつつ、関係する診療科と密に連携して十分な検査を行い、薬物療法等を柔軟に組み合わせながら最善の治療を行う過程を主体的に学ぶことができる点です。また、私は初期研修も当院で行いましたが、当院には研修先や働き方等の希望を最大限尊重していただける風通しのよさがあると感じています。具体的には、各研修医の希望に応じて他の専門性の高い研修施設での研修を柔軟に調整することも可能で、当院後期研修中の先輩方には出産・育児休暇を取得される方もおられます。学びに最適かつ非常に働きやすい環境が整っていることも当院ならではの特色であると考えます。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** 指導医のみならず、看護師、検査技師、心理士などの他職種の方々からも指導を受けながら、主体的に研修を行うことができることです。私は当院での初期研修を通じて、小さな事柄であっても自らが主体的に確認し、判断を下して行動に移すことが最大の学びとなることを実感いたしました。私は４月より後期研修を開始し始めたところではございますが、自らの興味関心の強い専門分野で、充実した指導体制のもと、数多くの実践の場が用意されていることは当院で研修を行う上での大きな魅力となりうるのではないかと感じております。当院での研修に少しでも興味をお持ちの方は、ぜひ一度見学にお越しいただき、当院の雰囲気に触れていただけますと幸いです。心よりお待ちしております。

## サブスペシャルティ領域（詳しくはホームページをご参照ください）

| 内科（プログラム期間） | |
|---|---|
| 消化器（４年） | 循環器（４年） |

# 墨東病院

〒 130-8575
東京都墨田区江東橋四丁目 23 番 15 号
電話　03-3633-6151

墨東病院
HP

## 病院概要

墨東病院は東京都の区東部 ( 墨田区、江戸川区、江東区および葛飾区の一部 ) の約百数十万人の医療圏をカバーする広域基幹病院です。周辺に同様の病院が少ないことから、地域の最終病院としてニーズに応えていく必要がある病院です。
病院の特徴としては、三次救急を含む総合救急体制である「東京 ER・墨東」、周産期医療、精神科救急、感染症医療が有名ですが、それ以外にもがん医療、難病医療、心臓病医療、脳血管疾患医療にも携わっています。
当院の特徴としてはなんといっても救急診療です。1 次、2 次の救急診療部 (ER)、自己完結型の救命センター、集中治療室に加え、新生児・産科・循環器科・脳卒中・精神科などあらゆる診療科が救急医療に対応しています。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 765 床 | 238 人 | 32 人 | 75 人 |
| **1 日あたり入院患者数** | **1 日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 64 人 | 1,014 人 | 32,344 人 | 9,365 台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

内分泌代謝内科　脳神経内科　血液内科　消化器内科　呼吸器内科　腎臓内科　総合診療科　循環器科
神経科　小児科　外科　心臓血管外科　呼吸器外科　整形外科　脳神経外科　形成外科　皮膚科　泌尿器科
眼科　産婦人科　新生児科　耳鼻咽喉科　リハビリテーション科　リウマチ膠原病科　歯科口腔外科
感染症科　救急診療科　救命救急センター　集中治療科　麻酔科　診療放射線科　輸血科　内視鏡科　検査科

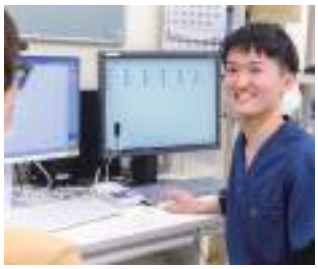
## 臨床研修委員会委員長からのメッセージ

脳神経内科医長
**水谷　真之**

当院は東京都の区東部医療圏をカバーする広域基幹病院で、高度先端医療、多種領域の救急医療、かかりつけ医と様々な側面を有しています。当院のアカデミー生は、当院初期研修を含めた様々な出身の先生方が年々増えていて、2026 年度は 75 名在籍しています。多くの仲間と切磋琢磨し、各科で救急患者を含めた豊富な症例に対応することで、修練を積んで行くことができます。また、多くのアカデミーの卒業生が常勤医となり、墨東病院の屋台骨となって、アカデミー生、初期研修医を教育する体制が確立されてきていることも当院の強みの一つと考えています。

一緒に墨東病院を支えるやる気のあるスタッフを募集しています。是非一緒に働いて、墨東病院をより発展させていきましょう。

病院外観



外来

研修 1

研修 2

## 専攻医の声 Q&A

循環器内科
3年次
柏木　祐俊

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 内科専門医を取るためには多数の内科症例を中心に効率よく症例を経験することが必要ですが、墨東病院の内科研修では循環器科だけでなく腎臓内科や脳神経内科などの専門外の内科を一年間ローテイトします。さらに市中病院ではみる機会の少ない膠原病や感染症の症例も経験することができ、多数の内科症例を経験することができます。循環器内科に進むうえで、内科医として専門以外の知識や経験も得ることができる環境は非常に魅力的に感じました。また、当院の循環器内科は CCU ネットを通じて多数の循環器救急患者を対応します。さらに、術者として PCI やカテーテルアブレーションを行うことができます。後期3年目には自身が希望する循環器に特化したハイボリュームセンターなどでも研修することができ、大変魅力的な環境となっています。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** 私は墨東病院で初期研修を行い、循環器内科の専門研修医として墨東病院に残りました。熱心で優秀な指導医が多く在籍していることも魅力で、日々の診療に加えて、内科専門医の取得に必要な J-OSLER の病歴要約の添削や学会発表の準備まで、熱く、そして丁寧に指導していただけます。豊富な経験に加えて正しい知識を身に着けることが医師としての臨床能力を磨くことに繋がるのだなと日々実感しております。そのような病院で経験を積んだ上級医の先生が多数いらっしゃるため、多角的な視点を持った診療を獲得することができ、また、様々なロールモデルを知ることができる貴重な環境であると考えます。このような環境で専門研修を行うことで、初期研修とは異なった責任感を得ながら、専門医取得に向けて土台を作りながら進んでいくことができると確信しています。

## サブスペシャルティ領域（詳しくはホームページをご参照ください）

| 内科（プログラム期間） | |
|---|---|
| 消化器内科（3年） | 感染症（3年） |
| 循環器（3年） | 脳神経内科（2年） |
| 呼吸器（3～4年） | リウマチ（3～4年） |
| 血液（3～4年） | 消化器内視鏡（3年） |
| 腎臓（3年） | 内分泌・糖尿病（3年） |
| 肝臓（3年） | |

| 外科（プログラム期間） |
|---|
| 消化器外科（3年） |
| 呼吸器外科（2年） |
| 心臓血管外科（3年） |
| 乳腺外来（3～5年） |

| 産婦人科（プログラム期間） |
|---|
| 婦人科腫瘍3年（～7年） |
| 周産期（3年） |

| 小児科（プログラム期間） |
|---|
| 新生児科（3年） |

| 放射線科（プログラム期間） |
|---|
| 放射線治療（3～5年） |
| 放射線診断（3～5年） |

| 救急科（プログラム期間） |
|---|
| 集中治療（2年） |

| 整形外科（プログラム期間） |
|---|
| リウマチ外科（3年） |

救命救急センター

ドクターヘリ

# 多摩総合医療センター

〒 183-8524
東京都府中市武蔵台二丁目 8 番 29 号
電話　042-323-5111

多摩総合医療センター HP

## 病院概要

多摩地域における唯一総合的な医療機能を持つ都立病院として、救急医療、がん医療、周産期医療、脳血管疾患医療、生活習慣病医療、難病医療、リハビリテーション医療、精神科救急医療、結核医療、障害者歯科医療及び骨髄移植医療といった高度・専門医療を実施しております。当院の重点医療は、救急医療、がん医療、周産期医療ですが、それらを支える総合診療機能も強靭で、ほぼ全ての診療を網羅しております。救急医療では、救命救急センター、東京 ER 多摩総合を有し、365 日 24 時間の救急医療を提供しています。特に、脳卒中、心筋梗塞、心不全などの取扱件数は都内有数の実績です。がん医療では、がん診療連携拠点病院として、緩和医療やがん相談支援にも積極的に取り組み、あらゆるがん症例で高い診療実績を誇ります。周産期医療は、小児総合医療センターの NICU・GCU 部門と一体となり、多摩地域には 2 つしかない母体救命対応型の総合周産期センターとして多摩地域の困難事例に対応しております。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 789 床 | 242 人 | 28 人 | 104 人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 60 人 | 1,532 人 | 23,231 人 | 9,330 台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

総合内科　腎臓内科　消化器内科　内視鏡科　内分泌代謝内科　感染症科　緩和ケア科　血液内科　脳神経内科　神経・脳血管内科　呼吸器・腫瘍内科　循環器内科　精神神経科　外科　乳腺外科　呼吸器外科（胸部外科）　心臓血管外科　整形外科　脳神経外科　形成外科　皮膚科　泌尿器科　産婦人科　眼科　耳鼻咽喉科・頭頸部外科　リウマチ膠原病科　リハビリテーション科　診療放射線科　歯科口腔外科　麻酔科　病理・検査科　救急・総合診療科　救命・集中治療科

## 専門研修管理委員長からのメッセージ

総合診療科部長
**村田　研吾**

当院の後期研修では、豊富な症例と充実した指導体制のもと、幅広い臨床力と専門性を磨くことができます。研究・学習支援環境も整っており、臨床と学術の両面で成長できる場です。私たちが求めるのは、知識や技術の習得だけでなく、患者さんや多職種への敬意を持ち、仲間と協力しながらより良い医療を目指す先生です。主体的に学び、挑戦を楽しみながら共に成長できる皆さんをお待ちしています。

ECMO カー・ドクターカー

カンファレンス

研修の様子

手術の様子

## 専攻医の声 Q&A

神経・脳血管内科
3年次
山田　真央佳

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 本プログラムの特徴は、初期対応力の徹底した養成と、幅広い内科・神経疾患を段階的に学べる点にあります。内科1年次には救急科・救命科ローテーションと救急当直を通じて初療から主体的に関わり、実践的な対応力を身につけます。また、内科J-OSLERに必要な症例を確保できるよう、専門外ローテーションも柔軟に調整可能です。2年次には連携病院から研修先を選択し、私は亀田総合病院の脳神経内科で脳卒中に加え自己免疫疾患や神経変性疾患を急性期から終末期まで幅広く経験し、General Neurologyの視点を養いました。3年次以降は神経病院での回診や短期研修を通じ神経難病も経験可能で、急性期脳卒中を中心に幅広い診療力を高められる環境です。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** 多摩総合医療センターは多くの診療科を有する総合病院で、他科コンサルトを通じて多様な疾患を経験できる点が魅力です。神経・脳血管内科では脳卒中に加え、隣接する神経病院との連携により神経変性疾患や筋疾患など幅広い症例に触れられます。毎朝の脳外科とのカンファレンスでは外科的視点も学ぶことができ、診療の理解が深まりました。過度に忙しすぎず症例も十分な環境で、一例ごとに丁寧に向き合いながら診療の質を高められる点も魅力です。指導医の丁寧な指導や学会発表の機会にも恵まれ、臨床・学術の両面で成長できる環境だと実感しています。

## サブスペシャルティ領域（詳しくはホームページをご参照ください）

| 内科（プログラム期間） | |
|---|---|
| 消化器病（3年） | アレルギー（基幹）（2年） |
| 循環器（β）2年（内科専攻医連動研修）<br>（γ）3年（非連動研修） | アレルギー（連携）（2年） |
| 呼吸器（3年以上） | 感染症（3～4年） |
| 血液（3年以上） | リウマチ（1～3年） |
| 内分泌代謝（3年） | 消化器内視鏡（3年） |
| 腎臓（3年以上） | がん薬物療法（2年以上、5年以内） |

| 外科（プログラム期間） |
|---|
| 消化器外科（2年） |
| 呼吸器外科（2～5年） |
| 心臓血管外科（HP参照） |

| 放射線科（プログラム期間） |
|---|
| 放射線治療（2年以上、5年以内） |
| 放射線診断（3～5年） |

| 救急科（プログラム期間） |
|---|
| 集中治療（2年） |

| 整形外科（プログラム期間） |
|---|
| 手外科（3年） |

| 総合診療科（プログラム期間） |
|---|
| 病院総合診療（1年） |
| 新・家庭医療（1～2年） |

| 産婦人科（プログラム期間） |
|---|
| 周産期（3年） |

| 耳鼻咽喉科（プログラム期間） |
|---|
| 内分泌外科／頭頸部がん（4年） |

院内設備

待合スペース

# 多摩北部医療センター

〒189-8511
東京都東村山市青葉町一丁目７番地１号
電話　042-396-3811

多摩北部医療センター HP

## 病院概要

当院は東村山市にあり地域の急性期病院として、北多摩北部医療圏（西東京市、東村山市、清瀬市、東久留米市、小平市）74 万人の医療を支えています。内科系・外科系ともに各領域の専門医のもとにあらゆる疾患に対応できる総合診療基盤を有しています。また、横断的なカンファレンス、抄読会、院外有名講師によるレクチャーなどを定期的に開催しており、教育体制も充実しています。なかでも、救急医療（年間救急患者約 11,200 人、救急車約 4,200 台）、がん医療（東京都がん診療連携協力病院（大腸がん・前立腺がん）に認定）を重点医療とし、さらに小児医療（年間救急患者約 5,200 人、救急車約 1,100 台）にも力を入れており、新生児から超高齢者までオールラウンドな診療を展開しています。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 337 床 | 64 人 | 10 人 | 7 人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 2,309 人 | 435 人 | 8,774 人 | 3,154 台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

総合診療科　内分泌・代謝内科　循環器内科　腎臓内科　呼吸器内科　消化器内科　神経内科　血液内科
リウマチ膠原病科　小児科　外科　消化器外科　脳神経外科　整形外科　皮膚科　麻酔科　泌尿器科
産婦人科　眼科　耳鼻咽喉科　精神科　歯科口腔外科　リハビリテーション科　放射線科　病理診断科

## 臨床研修委員会委員長からのメッセージ

腎臓内科部長
**小林　克樹**

これから専攻医になろうとしている先生方は専門研修期間をどのように考えているでしょうか？初期研修の２年間と後期研修の３年間（領域によっては４年間）を合せた５年間は、医師としての基本的な考え方（アイデンティティと呼んでも良いかもしれません）を形作る時期であり、その分、その後の医師人生に決定的な影響を及ぼす時期でもあります。では単に数多くの患者さんを診て、ただ忙しければいいのでしょうか？それでは患者さんを「捌く」技能は身についても、患者さん一人一人と向き合って、患者さん自身だけでなく、周りの家族や地域との関りにまで思いを巡らすことはできないでしょう。しかし一方で、暇ならいいというわけでもありません。自立した医師になるためには、やはり時にはギリギリの経験も必要です。その点、当院はちょうどバランスが取れていると思います。適切な症例には事欠きませんし、時には「あ～～～あ、もう大変！」と声をあげたくなる時もあるかも知れません。しかし、先生達を孤立させることは絶対にしません。先生達の後ろには必ず見守ってくれている指導医がいます。恐れずに研修に邁進して下さい。そして専門研修が終わった時に、一皮むけて見違えるほど逞しくなった自分と出会えるでしょう。まずは一緒に始めてみませんか？

カンファレンスの様子

専攻医による内視鏡の様子

## 専攻医の声 Q&A

総合診療科
３年次
藤本　拓也

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** ４年間の研修で総合診療科、内科の２つの専門医取得を目指すことができ、内科系のみならず全診療科が取得を応援してくれます。内科研修での診療科選択の自由度も高く、多彩な疾病に触れる機会が得られます。連携施設も多彩で、学びの幅を広げてくれます。半年間の近隣クリニックでの地域研修では、クリニックのその先である地域の中核病院で自分がやるべきことを再確認する経験を重ねる機会を得ることが出来ました。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** 一番は温厚な人柄の先生が多く、心穏やかに充実した毎日を過ごせていることです。
各診療科での研修で多くの手技を経験、身につけることが出来、一人で対応可能となるまで指導いただける機会を得られます。
自身の経験例では、小児科では乳幼児のルート確保、腸重積の対応、消化器内科では内視鏡手技を、血液内科では骨髄穿刺、腰椎穿刺、関節穿刺、生検、A ライン確保、CV 挿入、PICC 挿入等の手技を指導いただけ、さらには化学療法について学ぶことが出来ました。
多くの経験により余裕を持って診療に臨めるようになり、患者さんとの距離が縮まったと感じます。

## サブスペシャルティ領域（詳しくはホームページをご参照ください）

| 内科（プログラム期間） | |
|---|---|
| 腎臓内科（３年）（４年まで延長可） | 内分泌・代謝内科（３年）（４年まで延長可） |
| 血液内科（３年）（４年まで延長可） | 循環器内科（３年）（４年まで延長可） |
| 消化器内科（４年） | リウマチ膠原病科（３年）（４年まで延長可） |
| 神経内科（２～３年） | |

| 小児科（プログラム期間） |
|---|
| 小児内分泌・糖尿病（３年） |
| 小児神経内科（５年） |

| 総合診療科（プログラム期間） |
|---|
| 総合診療科→<br>内科ダブルボード<br>（総合診療専門研修＋１年） |

ロボット手術風景

病院エントランス

# 東部地域病院

〒125-8512
東京都葛飾区亀有五丁目14番1号
電話　03-5682-5111

東部地域病院
HP

## 病院概要

東京都の東部地域（葛飾・足立・江戸川・墨田・江東・荒川の各区）における中核病院です。急性期疾患を対象にがん医療、救急医療、循環器医療、内視鏡医療、小児医療を重点医療として取組んでいます。地域医療支援病院（都内指定第1号）として、地域医療機関（診療所等）と積極的で緊密な連携を図ることで医療の継続性を確保し、地域住民の方々に適正な医療を提供しています。当院は救急患者を除き、原則として地域医療機関からの紹介患者を診療しています（紹介予約制）。
患者が当院での診察・検査後に当院で診療を受ける必要のない状態に回復した場合は、症状に応じて紹介元医療機関への返送や適切な地域医療機関への逆紹介も行っています。また、当院の地域連携システムの趣旨に賛同する地域医療機関の医師を連携医として登録し、連携医は、自己の紹介した患者が当院に入院した場合、必要に応じて当院の医師と共同で診療することができます。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 314床 | 59人 | 5人 | 0人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 179人 | 356人 | 9,107人 | 3,966台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

内科　消化器内科　呼吸器内科　循環器内科　糖尿病内科　腎臓内科　小児科　外科　整形外科　脳神経外科
心臓血管外科　消化器外科　泌尿器科　婦人科　眼科　耳鼻咽喉科　放射線科　麻酔科　病理診断科

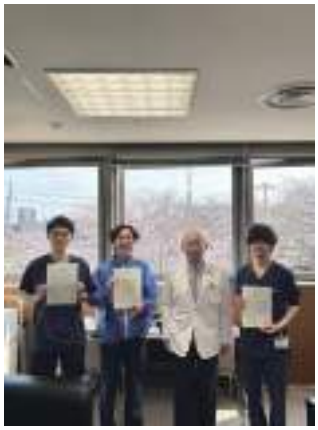
## 臨床研修委員会委員長からのメッセージ

副院長
鈴木　聡子

当院は日本医療機能評価機構の認定をうけており、またDPC対象病院として地域住民に対する二次救急・急性期医療を中心とした診療を行っております。さらにがん医療が重点医療となっております。多数の専門医をはじめとする医療スタッフの充実が図られ、病院全体の活気も非常に高いものがあります。後期臨床研修施設として平成20年4月に開講した東京医師アカデミーに参加し、基幹施設として麻酔科コース、連携施設として内科系（消化器・呼吸器・循環器）、外科系（外科）のコースを用意しております。

基幹施設である麻酔科コースでは、麻酔の基本から応用、さらに救命救急など充実した研修が用意されております。連携施設である内科系コースでは消化器疾患・呼吸器疾患・循環器疾患において、それぞれのエキスパート指導医から直接指導を受けられます。同じく連携施設である外科系コースでは、消化管、肝・胆・膵疾患や一般外科疾患に優秀なスタッフがそろっております。なお、当院で研修できない領域に関しては、東京医師アカデミーの連携施設と連携を取り、不自由のないシステムが既に構築されております。

当院は各種学会における研修指定施設であり、各専門医資格習得を目指した症例も十二分に経験することが可能です。さらに、他の資格習得等に関する支援体制も充実しており、医学博士号収得の道も開けております。また、国際学会発表における助成制度もあり、アカデミックな環境も整っております。やる気のある後期臨床研修医を、スタッフ一同、心より歓迎いたします。



ジュニアレジデント修了式

## 専攻医の声 Q&A

外科（医員）
岸根　健二

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 私は 2010 年から 3 年間、外科後期研修医として東京都医師アカデミーで研修を行わせていただきました。基本は東部地域病院・外科に所属し消化器外科領域をご指導いただき、救命救急をはじめ当院にない科については、関連大学や他都立病院への出張研修を行わせていただきました。
救命救急研修中には諸島医療も経験させていただき、とても良い経験になったと思っています。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** 学会発表等の機会もありますが、主に現場で体を動かしての研修が多く検査・手術を中心に十分な症例を経験させていただく事ができました。私はそのまま現在の東部地域病院に非常勤医として残留させていただき、現在常勤として勤務しておりますが、後期研修 3 年間に覚えた手技や経験は現在の診療の土台となっていると日々実感しております。

カンファレンスの様子

ロボット支援下外科手術の様子

ロボット支援下手術①

ロボット支援下手術②

葛飾区医療救護訓練

病院外観

# 多摩南部地域病院

〒206-0036
東京都多摩市中沢二丁目１番２号
電話　042-338-5111

多摩南部地域病院
HP

## 病院概要

東京都南多摩保健医療圏（八王子・町田・日野・多摩・稲城の５市）の中核病院として、「地域医療支援病院」の指定を得ています。地域医療機関からの紹介予約制を基本とし、地域医療機関との機能分担及び共同診療、高額検査機器の共同利用、地域医師の生涯研修等を通じて地域医療機関と緊密な連携を図りながら、地域住民に対し継続性と一貫性のある適切な医療を提供しています。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 287 床 | 55 人 | 12 人 | 5 人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 216 人 | 365 人 | 9,243 人 | 3,265 台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

内科　神経科　循環器内科　小児科　外科　整形外科　脳神経外科　皮膚科　泌尿器科　婦人科　眼科
耳鼻咽喉科　放射線科　歯科口腔外科　麻酔科　緩和ケア科　検査科（病理）

## 臨床研修委員会委員長からのメッセージ

副院長
手塚　徹

摩南部地域病院は、1998 年以来の臨床研修指定病院としての実績を元に、2004 年の初期臨床研修必修化以降も毎年多くの応募を頂いております。さらに後期臨床研修として内科系コースを設定し、４年間でそれぞれ専門知識・経験を積んでいただき、将来当院のスタッフとしても参加できるような医師の育成を目指しております。

内科系コースは、東京医師アカデミーに参画することにより、東京医師アカデミーの連携施設での研修が可能となり、幅広い知識・経験を習得することで内科専門医を取得することができます。

また、当院の特徴でもあります地域医療連携を通して、地域に根ざした総合医・家庭医の育成のほか、重点医療でもありますがん医療においては診断から治療、緩和医療、在宅医療に至るまで、継続した医療を実践できるような指導体制が整っております。

内科カンファレンス

リウマチ内科外来の様子

消化器センター

緩和医療

## 専攻医の声 Q&A

内科
1年次
芦田　匠

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 当院の研修プログラムの特徴は、内科を基盤とした総合的な診療能力を実践的に身につけられる点です。高齢化の進む地域という特性上、複数の疾患を抱える患者が多く、臓器別にとどまらない総合的な診療が求められます。少人数での研修のため、一人ひとりが主体的に診療に関わる機会が多く、救急対応から入院管理まで幅広く経験できます。また、ローテーションは、比較的柔軟に調整可能で、自身の興味や将来の進路に応じた研修ができる点も魅力です。日常診療の中で指導医と密に関わりながら学べる環境が整っています。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** 少人数の環境だからこそ、主体的に診療に関われる点が大きな魅力でした。救急外来での初期対応から入院後の全身管理まで一貫して担当することで、患者さんを総合的に診る力が身についたと感じています。また、高齢で多疾患併存の患者が多く、教科書通りではいかないケースに日々向き合う中で、臨床判断が鍛えられています。指導医との距離が近く、気軽に相談できる雰囲気もあり、フィードバックを受けながら、着実に成長できる環境です。総合的に診療したい人にとって非常に恵まれた研修先だと思います。

## サブスペシャルティ領域（詳しくはホームページをご参照ください）

| 内科（プログラム期間） | |
|---|---|
| 内分泌代謝（3年） | リウマチ（3年） |

明るく広々とした院内

たまなん救急車

手術支援ロボット

内視鏡センター

# 神経病院

〒 183-0042
東京都府中市武蔵台二丁目６番１号
電話　042-323-5110

神経病院
HP

## 病院概要

脳神経系疾患に対する内科系および外科系臨床科を網羅した高度専門病院です。神経疾患に特化した専門病院としては国内最大規模を誇ります。有床標榜科は脳神経内科・脳神経外科・神経小児科・神経眼科・神経耳科・麻酔科であり，これに神経精神科・リハビリテーション科・神経放射線科・歯科を加えた 10 の診療科があります。稼働病床 296 床のうち，脳神経内科が 204 床を占め、29 名の脳神経内科医（うち神経内科専門医 23 名）が、あらゆる神経疾患の診療にあたっています。また神経救急医療から慢性期ケア，終末期緩和治療，病理解剖に至るまで神経疾患に関する高度専門医療を提供しています。さらに，地域連携・多職種連携による切れ目のない神経難病診療を特徴としています。患者・地域サポートセンターを中心とした往診制度により、患者を長期にわたってフォローできる他，院内の多職種チームが摂食嚥下や呼吸器装着などをサポートしています。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 304 床 | 57 人 | 0 人 | 8 人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 296 人 | 117 人 | 378 人 | 54 台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

脳神経内科　神経精神科　神経小児科　脳神経外科　神経眼科　神経耳科　リハビリテーション科
神経放射線科　麻酔科　歯科

### 臨床研修委員会委員長からのメッセージ

脳神経内科部長
蕨　陽子

私たち都立神経病院は、脳神経内科だけで約 200 床を持つ世界有数の神経専門病院です。毎週 50 名ほどの神経難病患者さんが入退院し、診断や初期治療から呼吸器装着、リハビリテーション、在宅診療、終末期緩和ケア、病理解剖まで、神経難病のすべてを診療しています。キャリアに応じた多彩な研修コースを備え、初期研修後から専門医取得後まで、幅広い層が高度な専門性を磨ける環境です。令和 11 年の新病院開設を見据え、豊富な症例をもとに臨床や研究、国際学会や論文執筆、学位取得に挑戦する意欲的な医師を募集しています。皆さんの期待を裏切らない研修ができるはずです。ご見学申し込みをお待ちしております。

院内修了式

ハンズオン講義①

レジナビフェアレクチャー①

レジナビフェアレクチャー②

## 専攻医の声 Q&A

脳神経内科
4年次
中村　周弥

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 当院は、脳神経系疾患に対する内科系・外科系を網羅した、国内最大規模の神経専門病院です。脳神経内科や脳神経外科に加え、神経小児科、神経眼科、神経耳科など10の専門診療科を擁しており、非常に密度の高い研修が可能です。
プログラムの大きな特色は、内科および神経内科の2つの専門医取得に向けた手厚いサポート体制です。神経疾患の研修と、内科基幹施設の内科ローテイトを組み合わせることができ、将来を見据えた資格取得をバックアップしています。また、月1～2回の臨床講義では、神経生理や神経エコーのハンズオン、神経耳科・神経眼科の講義など、他では得られない学びの機会が充実しています。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** シニアレジデントが主体となって診療に携わりながら、一人一人の患者さんについて深く考え抜くことができる環境が整っている点です。症例への適切なアプローチ方法や、主治医としての責任ある対応力を着実に身につけることができました。
また、相談のしやすさも魅力です。自身の指導医だけでなく、病棟の垣根を越えて他分野の専門医の先生方にも気軽にアドバイスを仰ぐことができます。医師同士はもちろん、コメディカルの方々とのコミュニケーションも非常に円滑で、雰囲気が良く働きやすい職場です。専門病院としての高度な知識を学びながら、温かいチーム医療の中で成長を実感できる素晴らしい環境で研修ができていると感じています。

## サブスペシャルティ領域（詳しくはホームページをご参照ください）

| 内科（プログラム期間） |
|---|
| 神経内科（2年） |
| 臨床神経生理（2年） |
| 認知症（2年） |
| てんかん（2年） |

| 小児科（プログラム期間） |
|---|
| 小児神経（2年） |

HAL 訓練風景

送別会

ハンズオン講義②

# 小児総合医療センター

〒183-8561
東京都府中市武蔵台二丁目８番29号
電話　042-300-5111（代表）

小児総合医療センター
HP

## 病院概要

東京都多摩地区に位置する、臨床・教育・研究の各分野で日本を代表する小児専門病院です。「すべての子ども達が笑顔になれるよう、最善の医療を行う」を使命に掲げ、専門性を生かした多職種によるチーム医療を実践しています。小児内科系･外科系、児童･思春期精神科、小児救急医療、新生児･小児の集中治療に加え、行政と連携した小児虐待対応、離島･僻地医療、災害医療、新興・再興感染症医療など、行政医療も提供しています。小児病床数は561 床と国内最大規模を誇り、豊富で多様な症例に触れることができます。臨床研修は、小児内科である総合診療科、児童・思春期精神科、各専門診療科で行われ、各専門医の取得や実践力を身につけることができます。また研究活動も盛んで、国家戦略特区に指定され治験や臨床試験の実施、研修医や若手医師による臨床研究も立案から統計解析、英文校正まで、充実した支援体制で学術的な成長も図ることができます。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 561 床 | 155 人 | 0 人 | 24 人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 364 人 | 705 人 | 32,161 人 | 4,477 台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

総合診療科　在宅診療科　感染症科　免疫科　アレルギー科　心療内科　児童・思春期精神科　循環器科　内分泌・代謝科
血液・腫瘍科　緩和ケア科　腎臓・リウマチ膠原病科　神経内科　呼吸器科　消化器科　小児外科　呼吸器外科
心臓血管外科　泌尿器・腎移植科　整形外科　リハビリテーション科　形成外科　脳神経外科　眼科　耳鼻いんこう科
皮膚科　小児歯科　病理診断科　検査科　輸血科　放射線科　超音波診断科　麻酔科　集中治療科　救命救急科
新生児科　臨床遺伝科　臨床試験科　遺伝子研究科　トランスレーショナルリサーチ推進科

## 臨床研修委員会委員長からのメッセージ

感染症科、免疫科部長
**堀越　裕歩**

国際的にも有数規模の小児専門医療機関です。内科系、外科系の小児専門医療、一次から三次までの小児救急・集中医療、周産期の新生児医療、児童・思春期の精神医療まで、幅広い診療による研修環境を提供しています。当院の最大の特徴は、各診療科の垣根のない連携のとれたチームによる診療体制です。国内外からエネルギッシュな研修医が集まり、お互いに切磋琢磨できる環境も魅力の一つです。研修医による国内外での学会や論文発表も盛んです。また個々のワークライフバランスにも配慮し、休暇取得や男女問わず育児休暇も可能です。ぜひ私たちと共に、子どもたちの未来を支える医療を創っていきましょう。興味のある方は、ぜひ見学にいらしてください。

小児科 STEP セミナー①

小児科 STEP セミナー②

精神科送別会

## 専攻医の声 Q&A

小児科コース
（令和7年度修了）
山口　颯矢

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 当センターのプログラムは、総合診療科を軸に一般小児を幅広く学びながら、高度な専門診療にも触れることができる点が大きな魅力です。日常診療で出会う頻度の高い軽症例から集中治療を要する重症例まで、どの段階においても主体的に関わることができ、疾患の起承転結を学ぶことができます。また PICU・麻酔科の研修が必須であり、小児の全身管理を体系的に習得できます。さらに、日本有数の小児 ER において 3 年間継続して診療を行うことで、重症例の初期対応の経験を積むことができます。専門診療科も豊富であり、自由に研修を受けることも可能です。さらに、臨床試験科主導の臨床研究に学年で取り組む環境も整っており、臨床・研究の両面で成長できるプログラムです。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** ER・総合診療科・PICU と横断的に経験することで、疾患の初期対応から集中治療、回復に至るまでの一連の経過を学ぶことができました。最も研修期間の長い総合診療科においては、非常に教育的かつ多様なバックグラウンドを持つ指導医の先生方のもと、多角的な視点で子どもを診る力を養うことができました。また、専門診療科の研修も柔軟に選択できるため、自身の関心や将来進みたい分野を見据えた研修内容にアレンジすることができました。学年で取り組んだ臨床研究は着想から発表までの全ての行程を経験できる貴重な機会でした。また、全ての職種が子どもを第一に考える雰囲気の職場であり、志の高い同期と切磋琢磨しながら日々成長できたことも大きな財産となりました。

## サブスペシャルティ領域（詳しくはホームページをご参照ください）

| 小児科（プログラム期間） | |
|---|---|
| 小児血液（3年） | 小児消化器科（3年） |
| 子どもの病院総合診療医（3年） | 小児外科（2年） |
| 小児感染症（3年） | 小児整形外科（2年） |
| 小児アレルギー（3年） | 小児脳神経外科（2年） |
| 小児循環器（3年） | 小児麻酔（2年） |
| 小児内分泌・代謝（3年） | 小児集中治療（3年） |
| 小児腎臓病（3年） | 小児救急医学（3年） |
| 小児リウマチ膠原病（3年） | 新生児科（3年） |
| 小児神経内科（3年） | 臨床試験科（3年） |
| 小児呼吸器（3年） | 臨床遺伝科（3年） |

広場上からの外観

南ラウンジ

院内修了式

ファシリティドッグアイビー

# 松沢病院

〒 156-0057
東京都世田谷区上北沢二丁目１番１号
電話　03-3303-7211

松沢病院
HP

## 病院概要

当院は、東京都の行政精神科医療等で中核的な役割を担っている精神科病院です。精神科病床が808床、内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科などの一般病床及び身体合併症病床が90床あります。精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、思春期・青年期医療、認知症医療、アルコール・薬物医療、医療観察法病棟の他、デイケア、精神科作業療法等を行っています。精神科領域のほとんどの疾患を経験することができ、措置入院や医療観察法入院を含め、すべての入院形態の症例を扱っています。また、2025年度から総合診療科を立ち上げ、精神と身体両面からの診療体制の充実をさらに図っています。
当院は東京都世田谷区に位置し、至便な立地ながら緑豊かで広大な敷地を有しています。2019年には創立140周年、松沢移転100周年を迎え、新たな歴史を歩みはじめました。最先端の設備と温かい医療がここにあります。

## 病院データ

| 病床数 | 医師数※ | 臨床研修医数 | 専攻医数 |
|---|---|---|---|
| 898 床 | 63 人 | 16 人 | 19 人 |
| **1日あたり入院患者数** | **1日あたり外来患者数** | **救急患者数／年** | **救急車搬送数／年** |
| 539 人 | 424 人 | 6,651 人 | 616 台 |

※非常勤職員を除く

## 診療科目

精神科　内科　総合診療科　脳神経内科　外科　整形外科　脳神経外科　放射線科　麻酔科　歯科

## 総合診療科コース責任者からのメッセージ

身体科副院長
**島田　恵**

東京都立松沢病院は、約140年の歴史を持つスーパー精神医療センターであり、身体合併症を持つ様々な精神疾患患者の診療を内科や外科、整形外科等の診療科と精神科の専門医師たちが中心になって１つのチームとして対応する総合診療体制を組んでいます。精神科と総合診療科は患者の社会的な背景も含めて全人的な医療を行う点で共通する部分も多いため、病院から在宅まで広く活躍する総合診療医を育成する体制が整っています。特に、精神疾患を持つ方の全人的医療・ケアについては、地域の診療では大きな課題であるにも関わらず、総合診療的な視点から学べる施設はほとんどありません。これらの利点を生かし松沢病院では、心のケアに強い総合診療医を育成すべく新たな総合診療の研修プログラムを立ち上げました。「松沢でできる事、松沢でしかできない事」を学びたいという総合診療医を目指す先生方をお待ちしています。

航空写真

医局会

屋上

レジナビ

## 精神科コース責任者からのメッセージ

精神科部長
正木　秀和

当院にはジュニア・シニアレジデントを除いて、精神科医が 44 名、内科・外科などの身体科医が 25 名在籍しています。病床数は 898 床あり、病棟は救急病棟、急性期病棟、リカバリー病棟、思春期・青年期病棟、薬物・アルコール病棟、認知症病棟、身体合併症病棟、医療観察法病棟があります。その他、デイケア、作業療法、レクリエーション療法、心理教育などを専門のスタッフが行っています。当院のみで精神科に関するすべての研修が行えると自負しています。また 2012 年より新病棟となり、最先端の設備と快適な勤務空間を獲得しました。

当院での 3 年間の研修で、一人前の精神科医となることはもちろんですが、精神保健指定医資格取得、精神科専門医取得、臨床研究により学会発表・論文発表の技術・能力の獲得をめざします。特色の異なる病棟が多数ありますので、レジデントの希望を考慮しながら約 6 か月ずつ研修していく予定です。3 年間のうち 1 年間は連携施設で研修を行います。クルズスや勉強会も充実させ、レジデントに必要な知識を幅広く習得できるよう努めています。また、レジデントひとりひとりに責任指導医とメンターを配置し、レジデントの希望や研修の進捗状況に合せながら、定められた精神科コースの目標が達成できるようにきめ細かい指導を行っています。

当院のシニアレジデント研修は、皆さんの精神科医としての有意義なキャリアとなることをお約束いたします。

## 専攻医の声 Q&A

精神科
3 年次
藤原　翔太郎

### Q プログラムの特色を教えてください。

**A** 松沢病院での精神科研修の最大の特色は、精神科医療の「入り口」から、その後の「人生」までを、一つの病院の中で一貫して経験できることです。まず、緊急措置入院や措置入院を含めた精神科初期診療を、複数あるスーパー救急病棟で数多く経験できます。加えて、精神疾患をもつ患者さんの長期的な経過を、外来や慢性期病棟、身体合併症病棟で学べることも大きな強みです。精神科医療が長い経過の中で患者さんにどのような影響を与えるのか、また精神科患者さんに多い身体疾患や薬剤の副作用、長期的な影響を実感をもって学べることは、自分の診療の幅を広げてくれると感じています。連携施設で 1 年間研修する機会もあり、様々な考え方に触れることで、自分がいる施設の特徴や限界を見つめ直しながら、自分の診療を深めていけるプログラムだと思います。

### Q この病院で研修を受けて良かったことは？

**A** 率直に、毎日がとても楽しいです。精神科医療では、治療面や社会背景も含めて、個々の症例ごとに異なる対応や問題解決も求められ、悩むことも多いですが、経験豊富な上級医や当院スタッフから意見をもらいながら、一つ一つの症例に向き合う面白さがあります。精神科医の人数が多く、さまざまな意見に触れられることに加え、参加自由の勉強会も活発で、自分のペースで学べるのも魅力です。専攻医を含め年次の近い医師どうしで、業務のことからプライベートのことまで自然に話せる雰囲気があり、日々の支えになっています。また、他科の先生とも同じ医局で机を並べているため、診療上の相談はもちろん、何気ない会話もしやすく、仕事の面でも人としても助けられていると感じています。

勉強会

喫茶室パイン前

# 東京医師アカデミー　クリニカル・フェロー

高度専門医療の修得を目指す方を対象にした研修コースです。
高度医療や臨床研究にも携わり、各病院の中核を担うトップレベルの専門医を育成します。
研修プログラムは、①各病院で特徴としている高度専門医療を通じて研鑽を図ること②各病院では経験できない先端医療技術を、一定期間の国内外派遣により修得すること③臨床だけでなく、臨床研究や論文・学会発表等を行う中で医師として必要とされる技量をさらに磨いていくこと等を主眼に設計しています。
※クリニカル・フェローは既に専門医を取得あるいは受験資格を有する方が対象となります。

## 令和９年度生フェロー選考

詳細は各病院にお問い合わせください。

## 処遇等

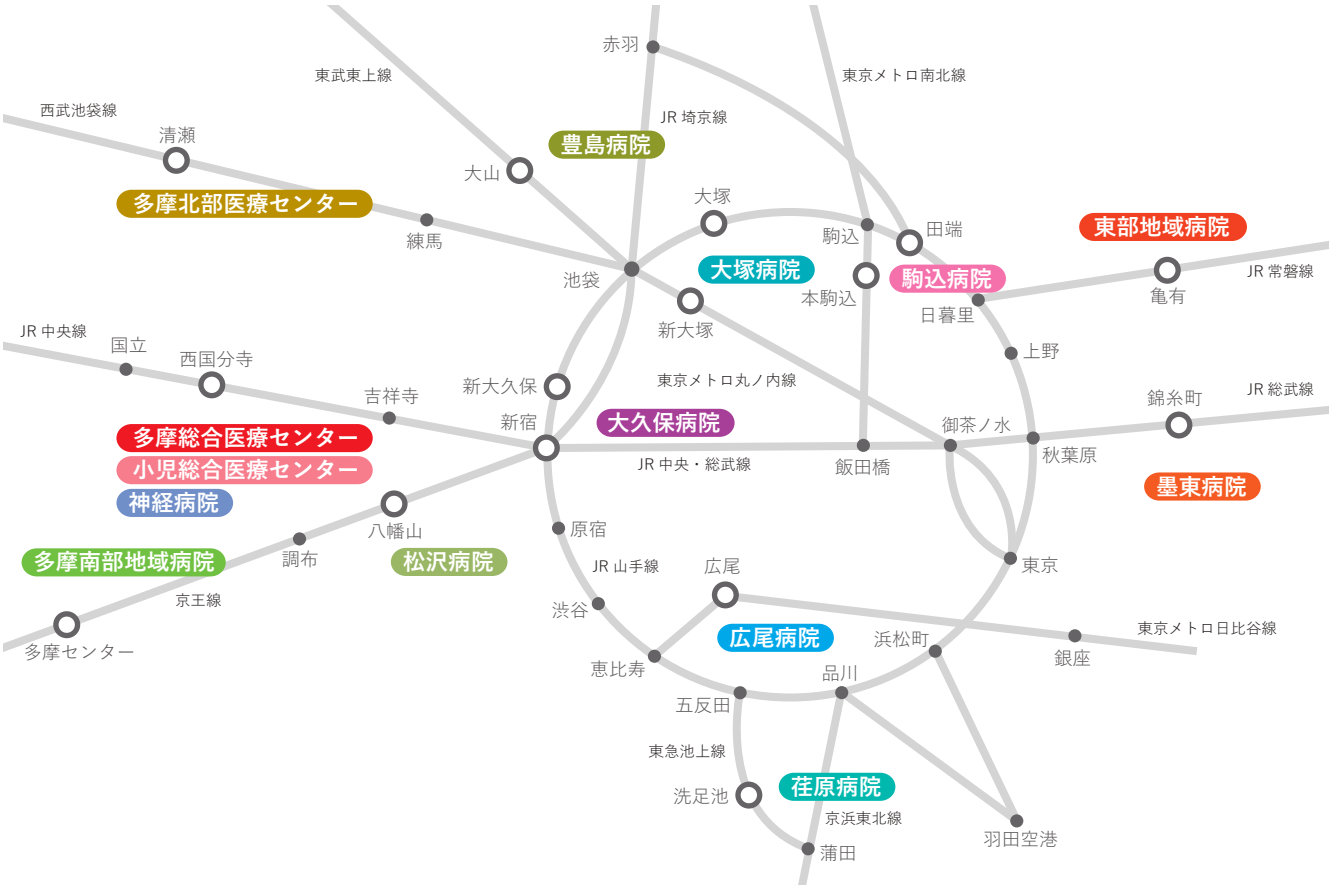
**身分：**東京都立病院機構　任期付法人職員
**給与：**医師免許取得後 6 年目の場合 / 年収 8,773,000 円程度
**休暇等：**年 20 日（4 月 1 日採用の場合、初年度は 15 日）
**その他：**国内外医療機関派遣制度、学位取得支援制度あり

※詳細は東京医師アカデミーホームページをご覧ください。
※研修修了後は原則として都立病院の職員として勤務していただきます。
※研修修了後は必要に応じて、他の病院へ異動していただくことがあります。

令和 7 年度東京医師アカデミー修了式①

令和 7 年度東京医師アカデミー修了式②

# 病院一覧




| | | |
|---|---|---|
| P.62 | 広尾病院 | ☎ 03-3444-1181 |
| P.64 | 大久保病院 | ☎ 03-5273-7711 |
| P.66 | 大塚病院 | ☎ 03-3941-3211 |
| P.68 | 駒込病院 | ☎ 03-3823-2101 |
| P.70 | 豊島病院 | ☎ 03-5375-1234 |
| P.72 | 荏原病院 | ☎ 03-5734-8000 |
| P.74 | 墨東病院 | ☎ 03-3633-6151 |
| P.76 | 多摩総合医療センター | ☎ 042-323-5111 |
| P.78 | 多摩北部医療センター | ☎ 042-396-3811 |
| P.80 | 東部地域病院 | ☎ 03-5682-5111 |
| P.82 | 多摩南部地域病院 | ☎ 042-338-5111 |
| P.84 | 神経病院 | ☎ 042-323-5110 |
| P.86 | 小児総合医療センター | ☎ 042-300-5111 |
| P.88 | 松沢病院 | ☎ 03-3303-7211 |
| | 法人本部人材育成担当 | ☎ 03-5577-2141 |